

<第4章 調査結果〔解説・グラフ〕>

第4章 調査結果 [解説・グラフ]

1. 県の基本政策について

(1) 経済の活性化について

問1 「経済の活性化」について、第4期高知県産業振興計画に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(3つまで○印)

【総合】

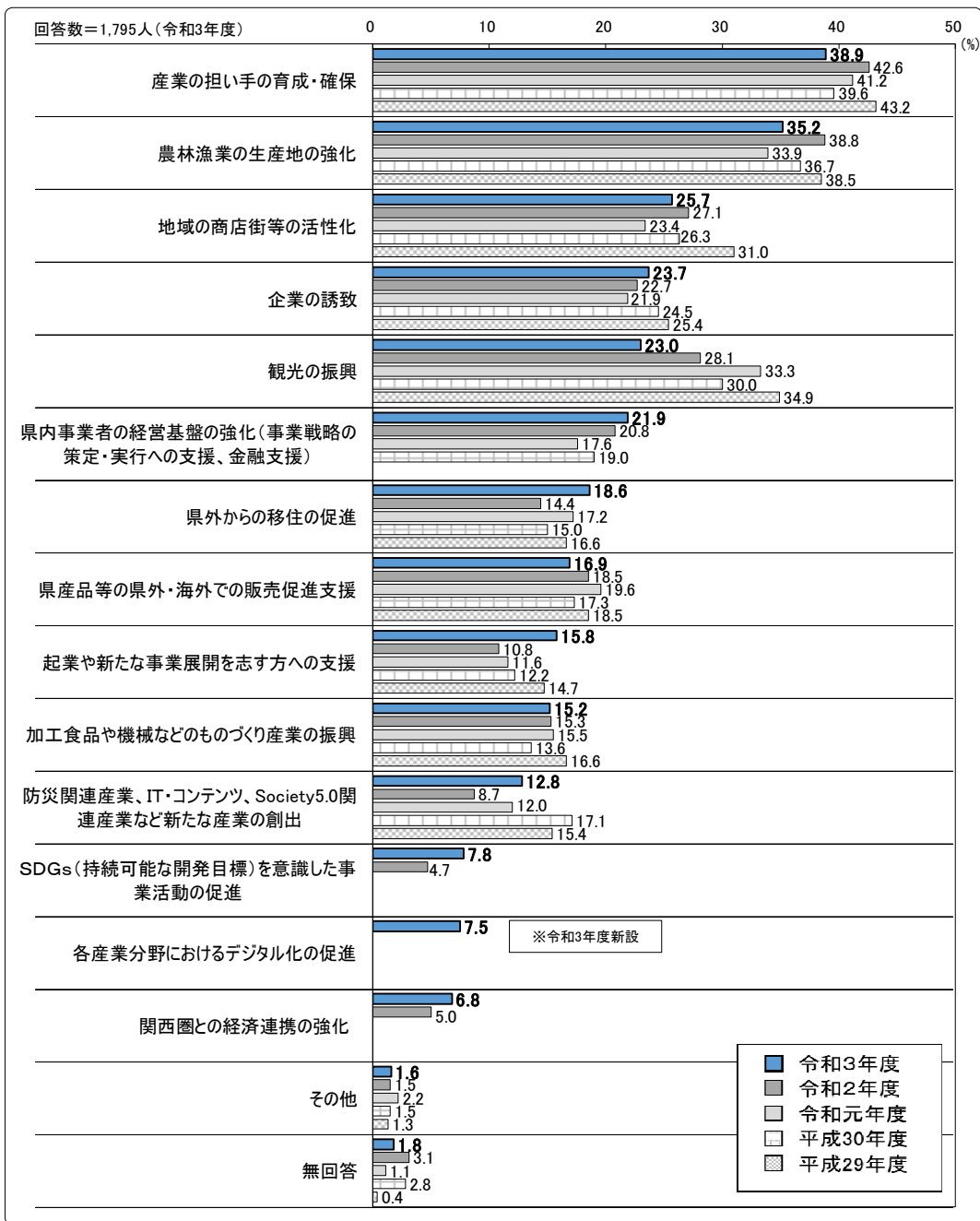
「産業の担い手の育成・確保」が38.9%と1位になっている。

次いで、「農林漁業の生産地の強化」が35.2%、「地域の商店街等の活性化」が25.7%と続いている。

【過去の調査との比較】

選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、昨年度と同じく今年度も「産業の担い手の育成・確保」が1位になっている。また、「観光の振興」は昨年度に引き続き減少している。

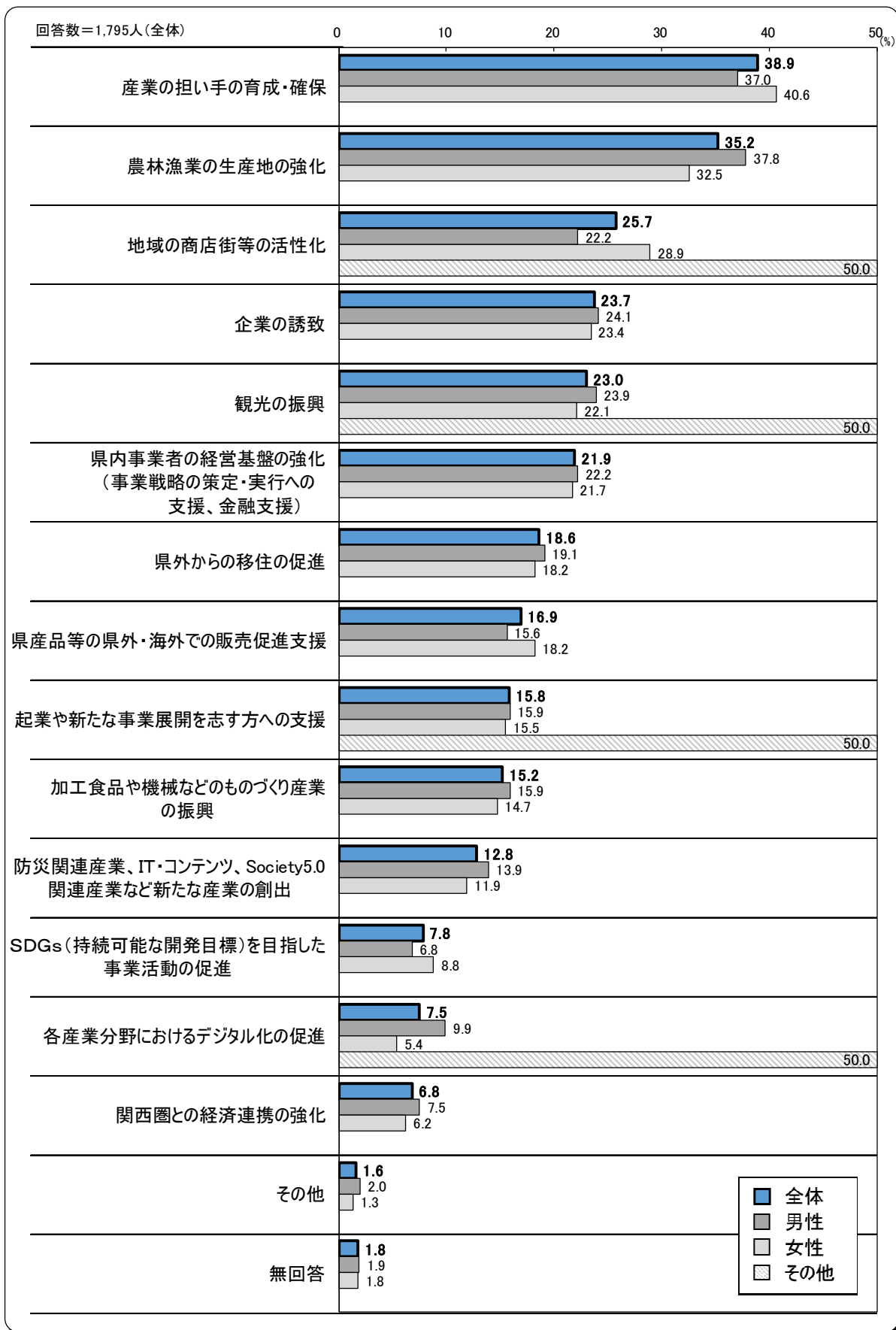
《経年比較》



【性別】

男性では「農林漁業の生産地の強化」が、女性では「産業の担い手の育成・確保」が最も高くなっている。

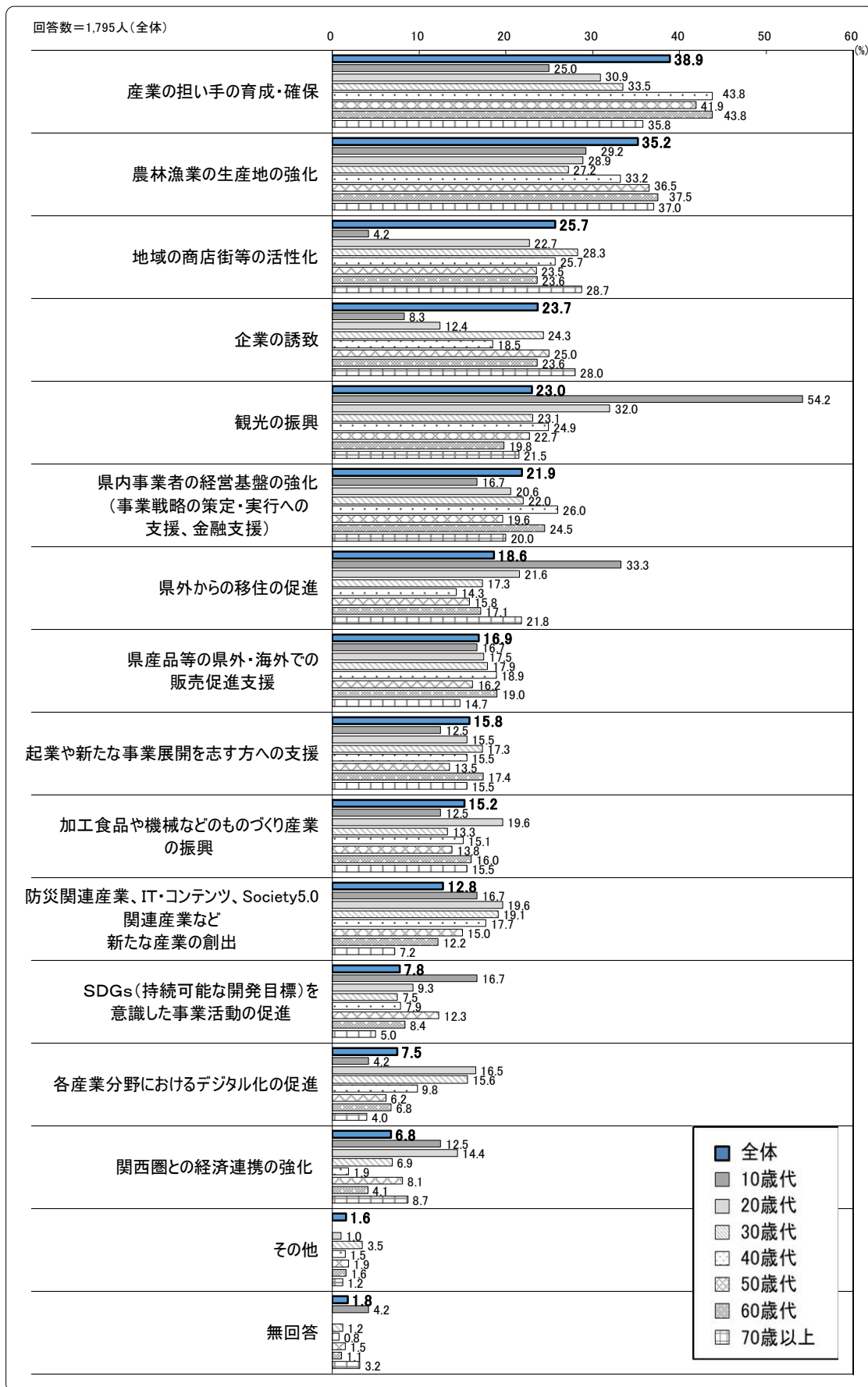
◀性別▶



【年代別】

10歳代、20歳代では「観光の振興」が最も高く、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代では「産業の担い手の育成・確保」が、70歳以上では「農林漁業の生産地の強化」が最も高くなっている。

《年代別》



(2)「日本一の健康長寿県づくり」について

問2 「日本一の健康長寿県づくり」について、第4期日本一の健康長寿県構想に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(3つまで○印)

【総合】

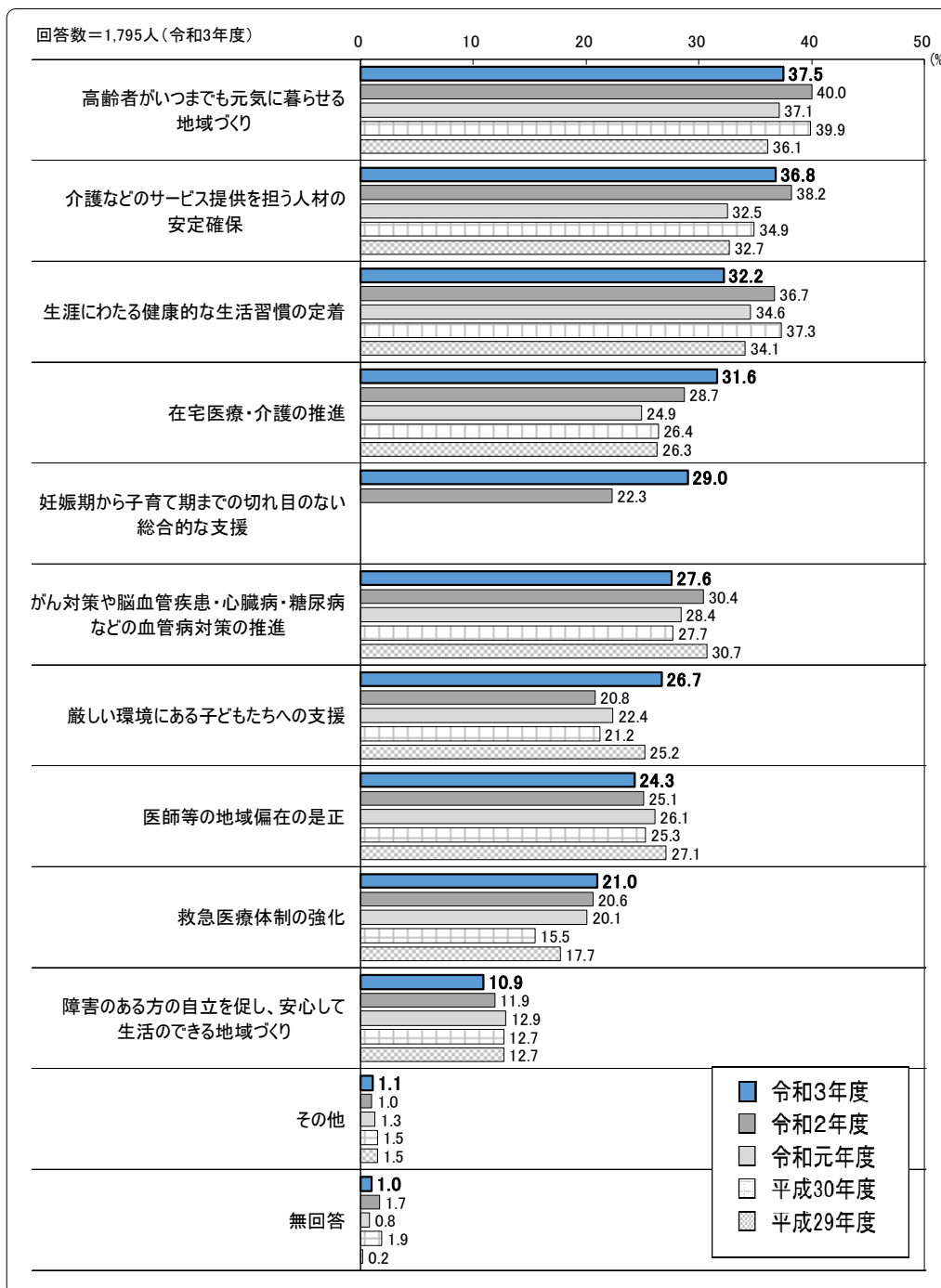
「高齢者がいつまでも元気に暮らせる地域づくり」が37.5%と1位になっている。

次いで、「介護などのサービス提供を担う人材の安定確保」が36.8%、「生涯にわたる健康的な生活習慣の定着」が32.2%と続いている。

【過去の調査との比較】

今年度も昨年度と同じく「高齢者がいつまでも元気に暮らせる地域づくり」が1位になっており、「介護などのサービス提供を担う人材の安定確保」が2位になっている。

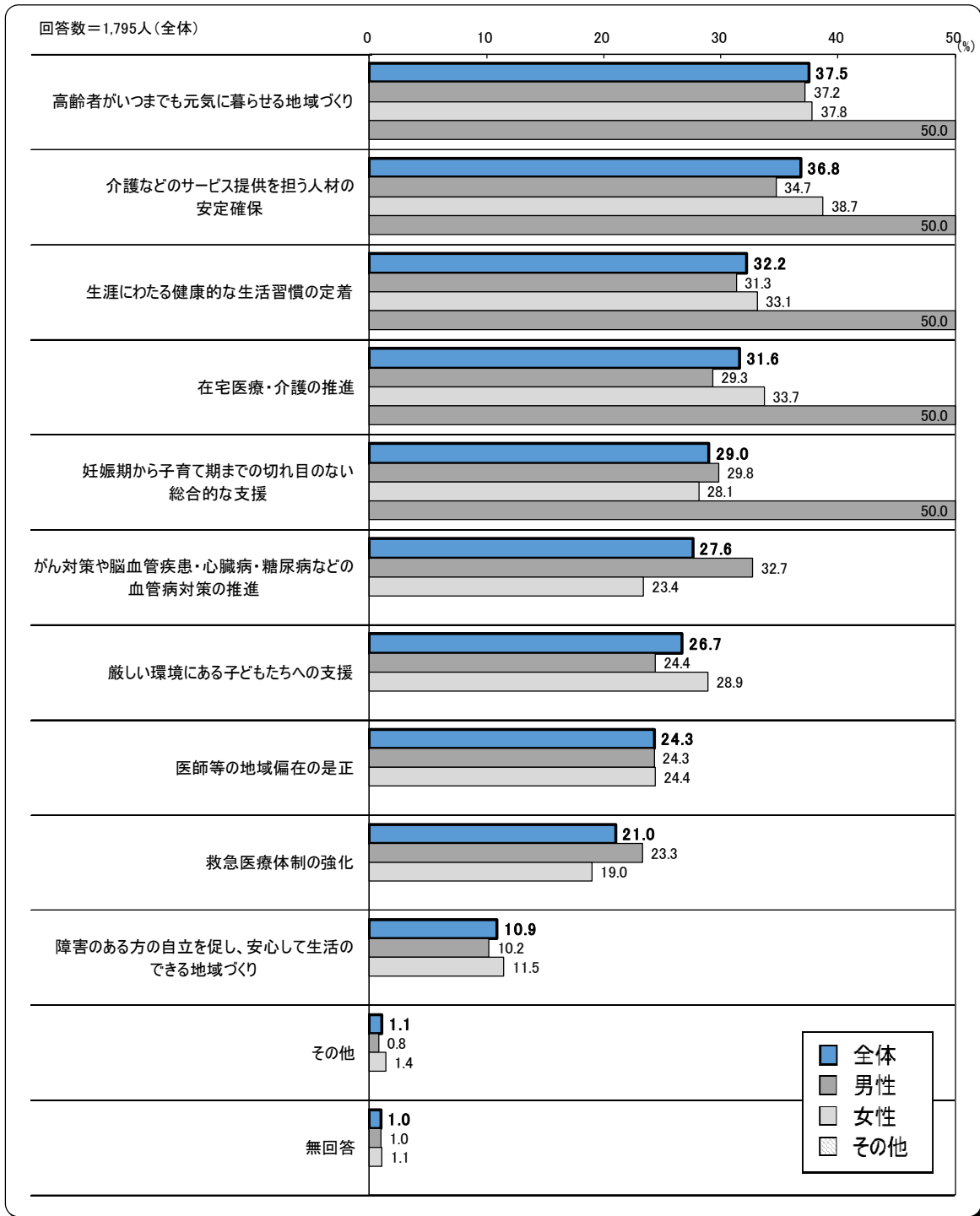
《経年比較》



【性別】

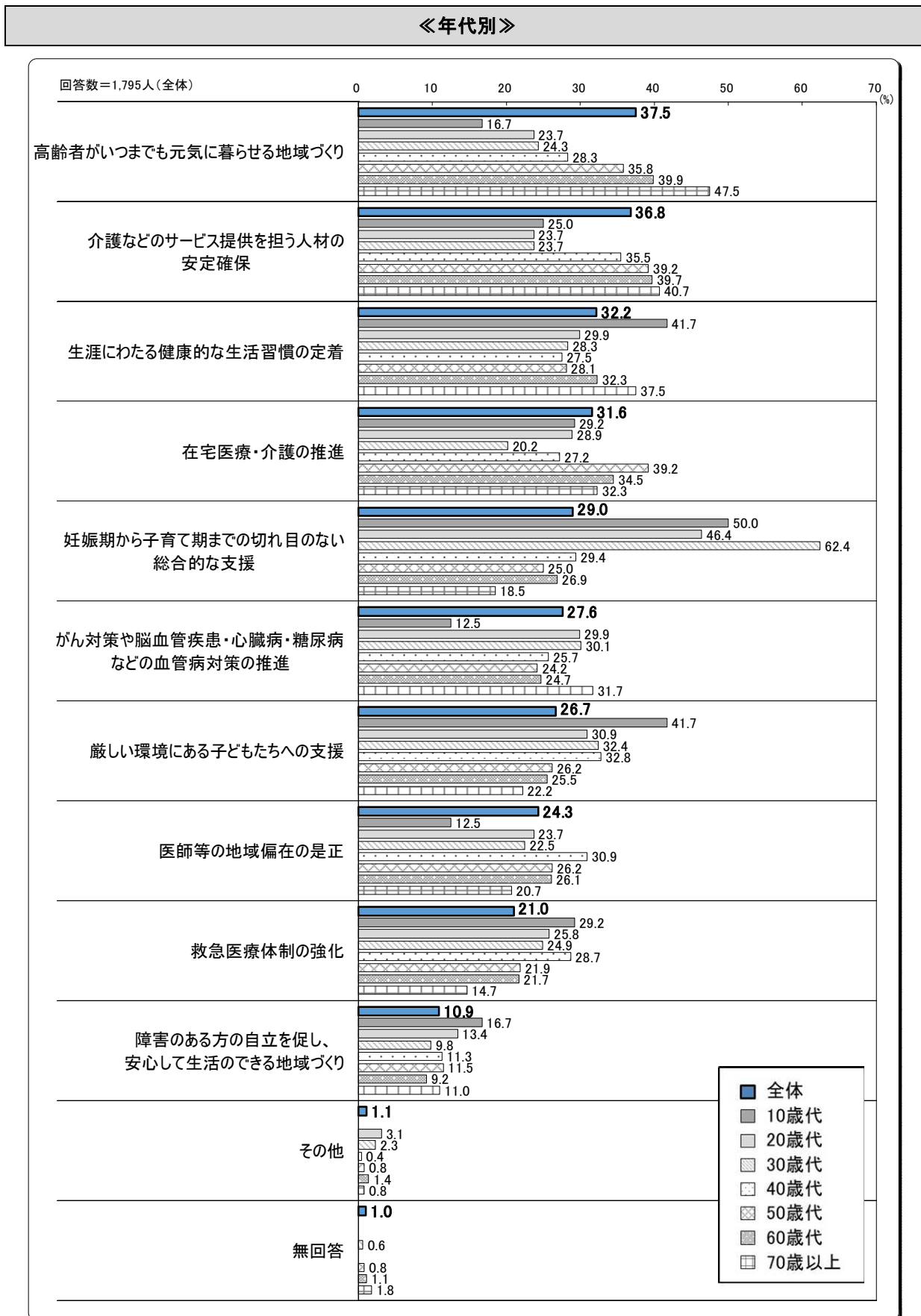
男性では「高齢者がいつまでも元気に暮らせる地域づくり」が最も高く、女性では「介護などのサービス提供を担う人材の安定確保」が最も高くなっている。

≪性別≫



【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代では「妊娠期から子育て期までの切れ目のない総合的な支援」が最も高く、40歳代では「介護などのサービス提供を担う人材の安定確保」が、50歳代では同率で「介護などのサービス提供を担う人材の安定確保」と「在宅医療・介護の推進」が、60歳代、70歳以上では「高齢者がいつまでも元気に暮らせる地域づくり」が最も高くなっている。



(3)「教育の充実と子育て支援」について

問3 「教育の充実と子育て支援」について、第2期教育等の振興に関する施策の大綱に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(3つまで○印)

【総合】

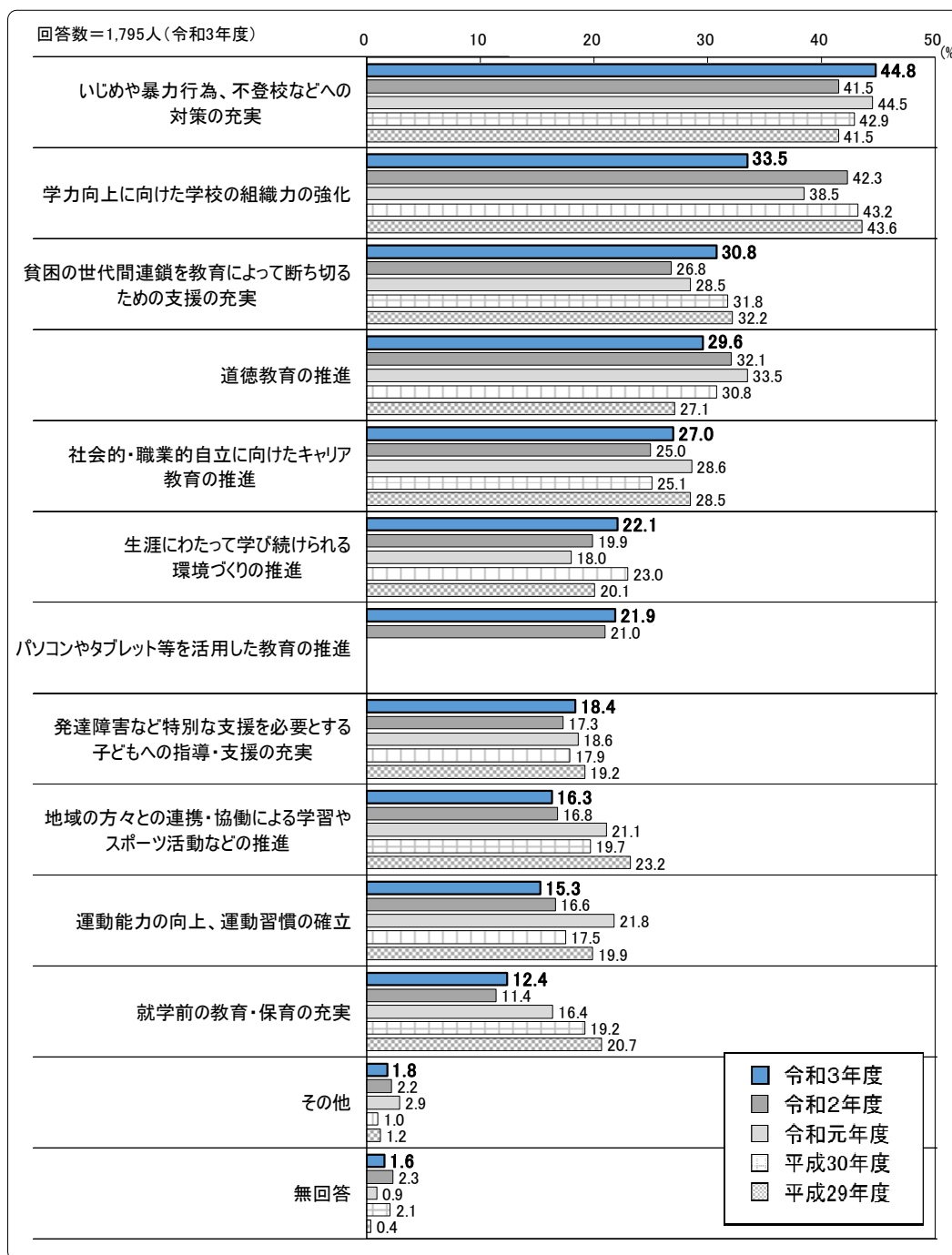
「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」が44.8%と1位になっている。

次いで、「学力向上に向けた学校の組織力の強化」が33.5%、「貧困の世代間連鎖を教育によって断ち切るための支援の充実」が30.8%と続いている。

【過去の調査との比較】

今年度は「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」が3.3ポイント増加し1位になっている。「学力向上に向けた学校の組織力の強化」は昨年度より8.8ポイント減少し2位になっている。

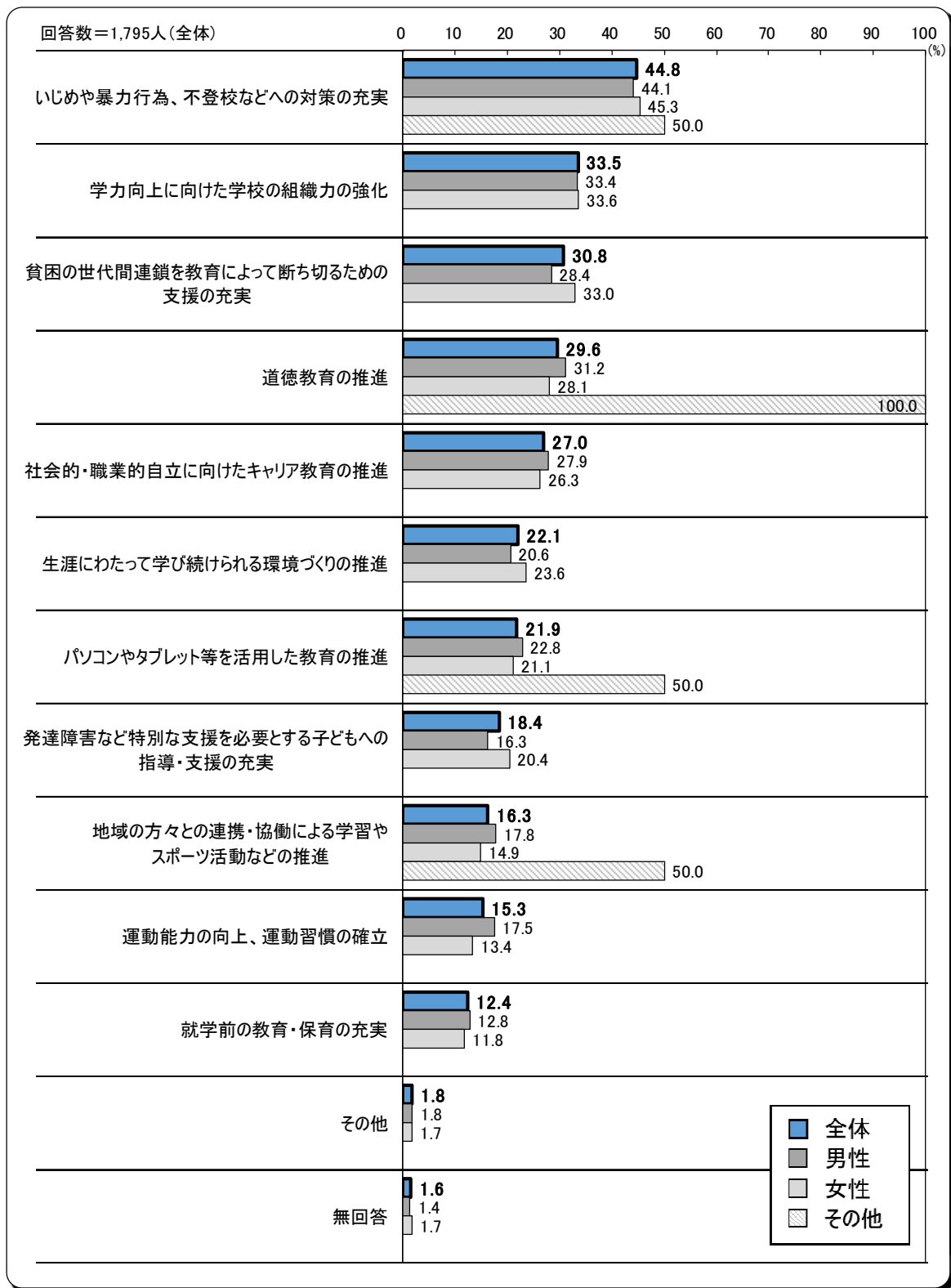
《経年比較》



【性別】

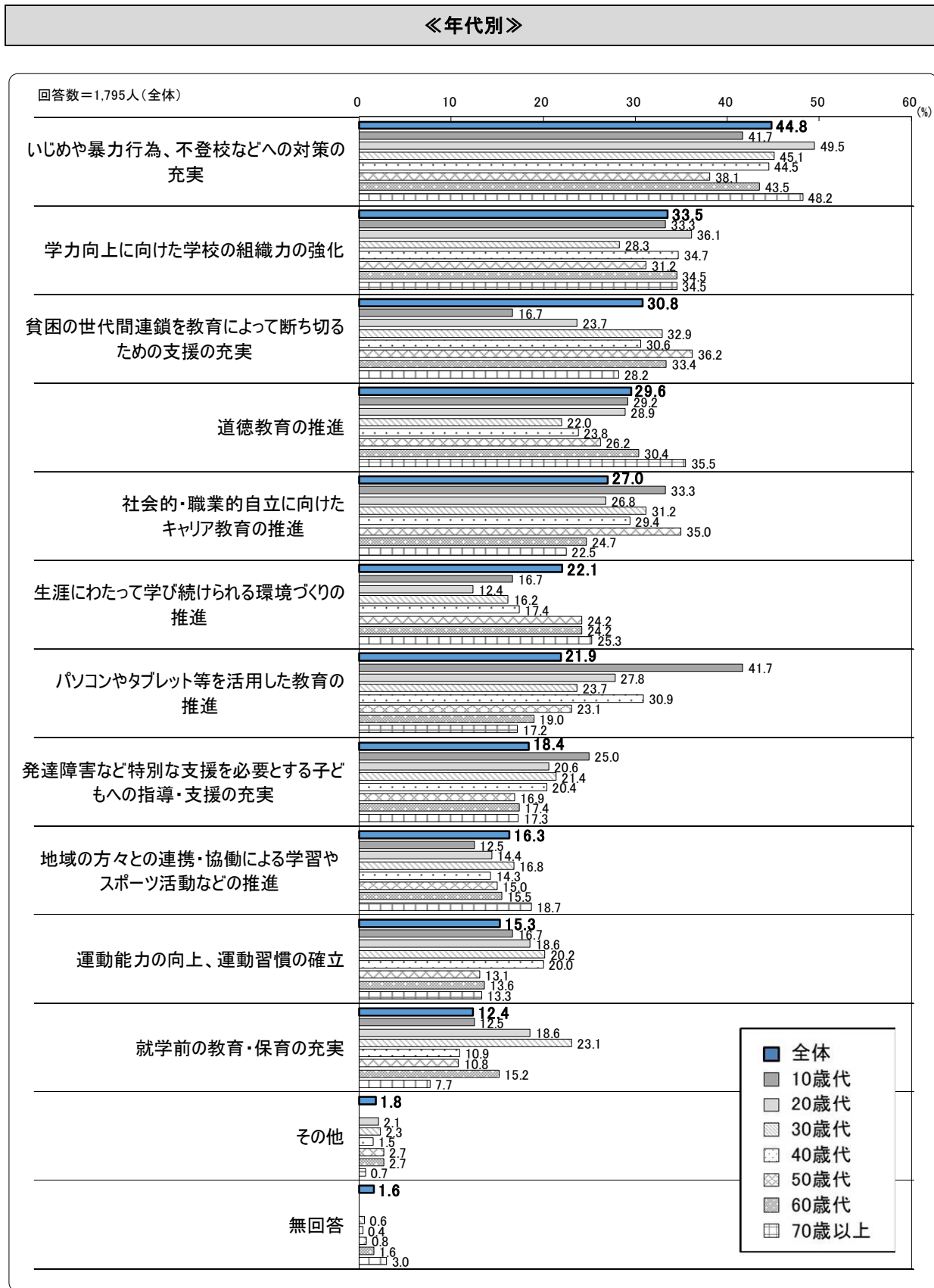
男女ともに「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」が最も高く、「学力向上に向けた学校の組織力の強化」が続いている。

◀性別▶



【年代別】

10歳代では同率で「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」と「パソコンやタブレット等を活用した教育の推進」が最も高く、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」が最も高くなっている。



(4)「南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化」について

問4 「南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化」について、第4期南海トラフ地震対策行動計画に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(3つまで○印)

【総合】

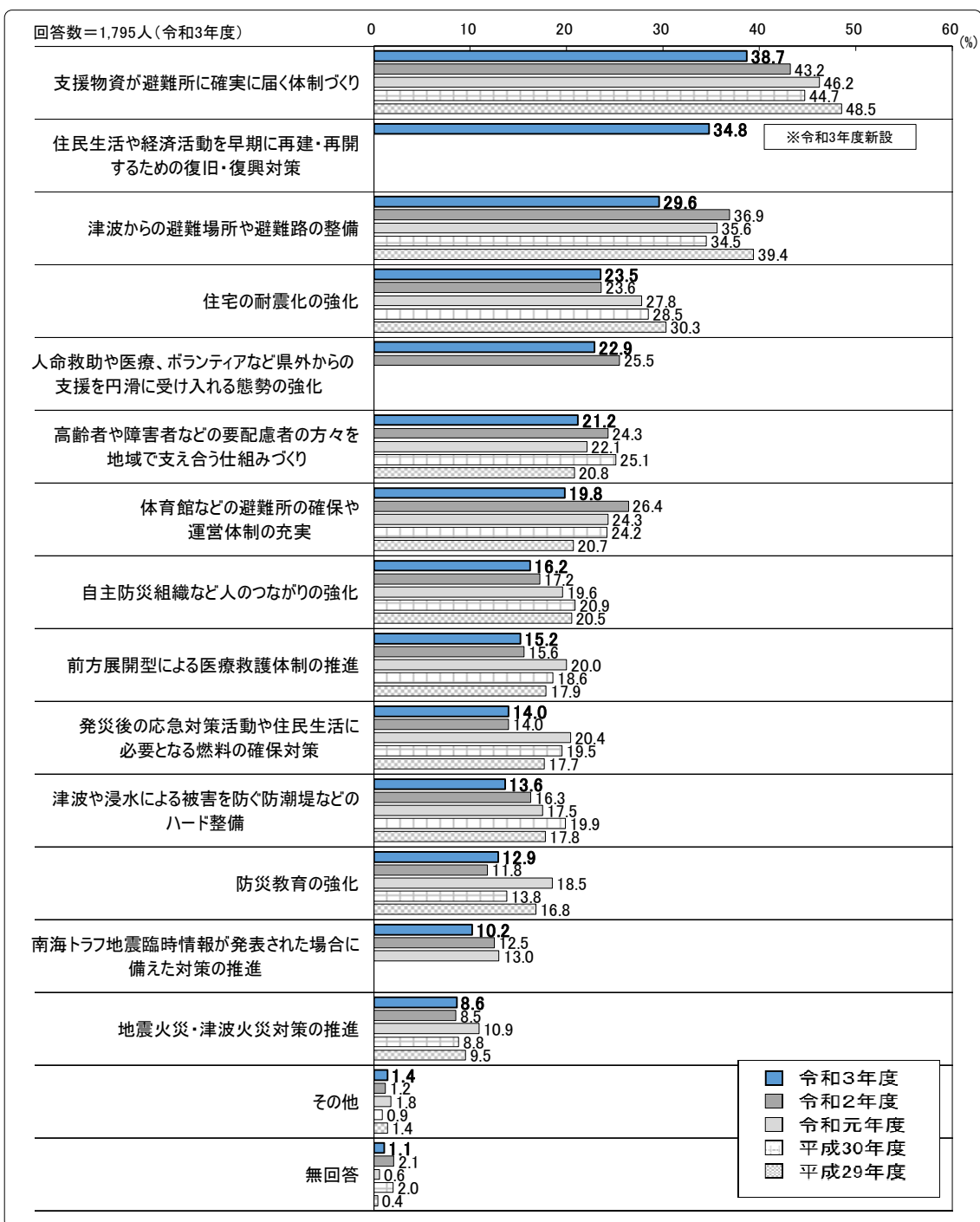
「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が38.7%と1位になっている。

次いで、「住民生活や経済活動を早期に再建・再開するための復旧・復興対策」が34.8%、「津波からの避難場所や避難路の整備」が29.6%と続いている。

【過去の調査との比較】

選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、昨年度と同じく今年度も「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が1位になっている。

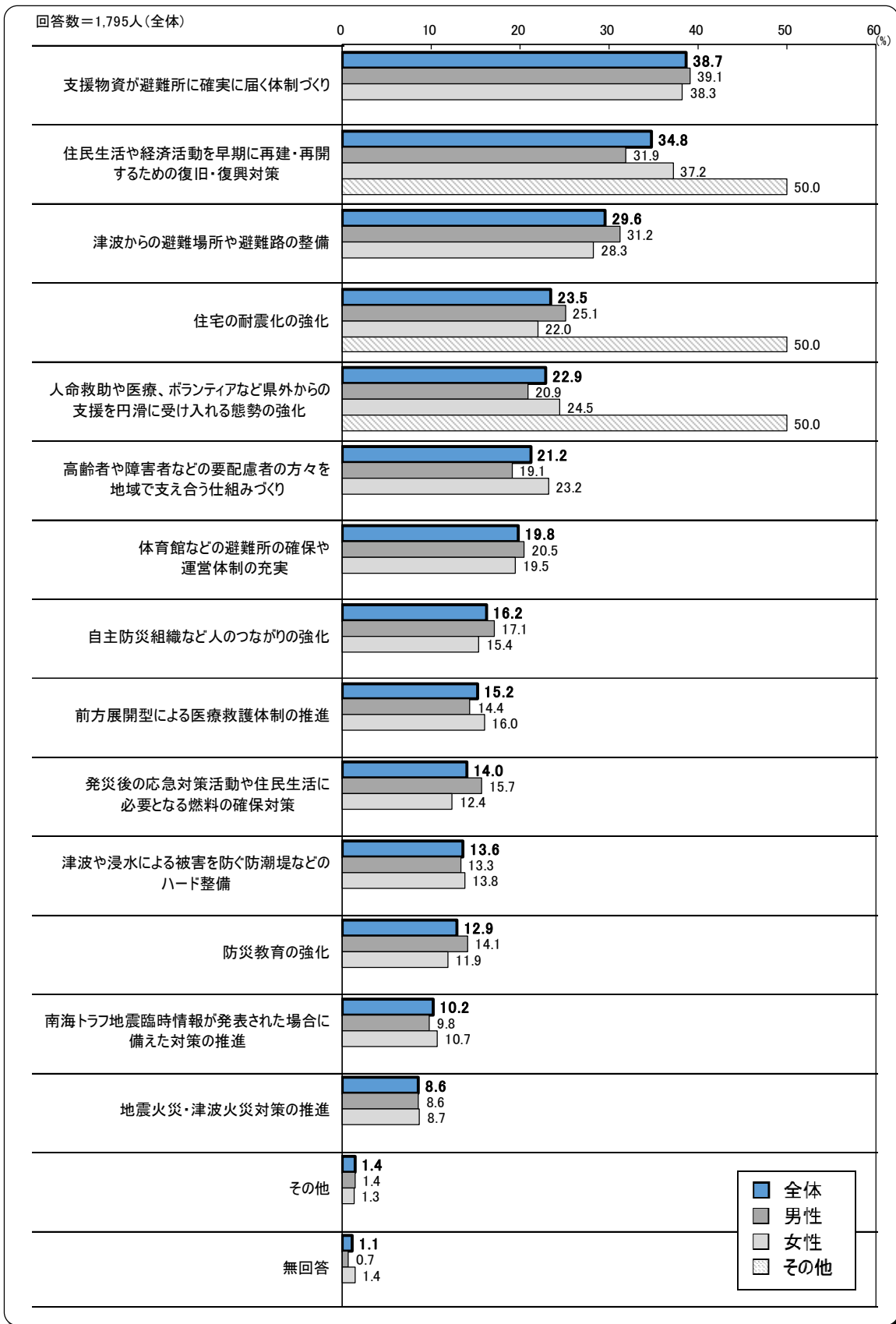
《経年比較》



【性別】

男女ともに「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が最も高くなっている。

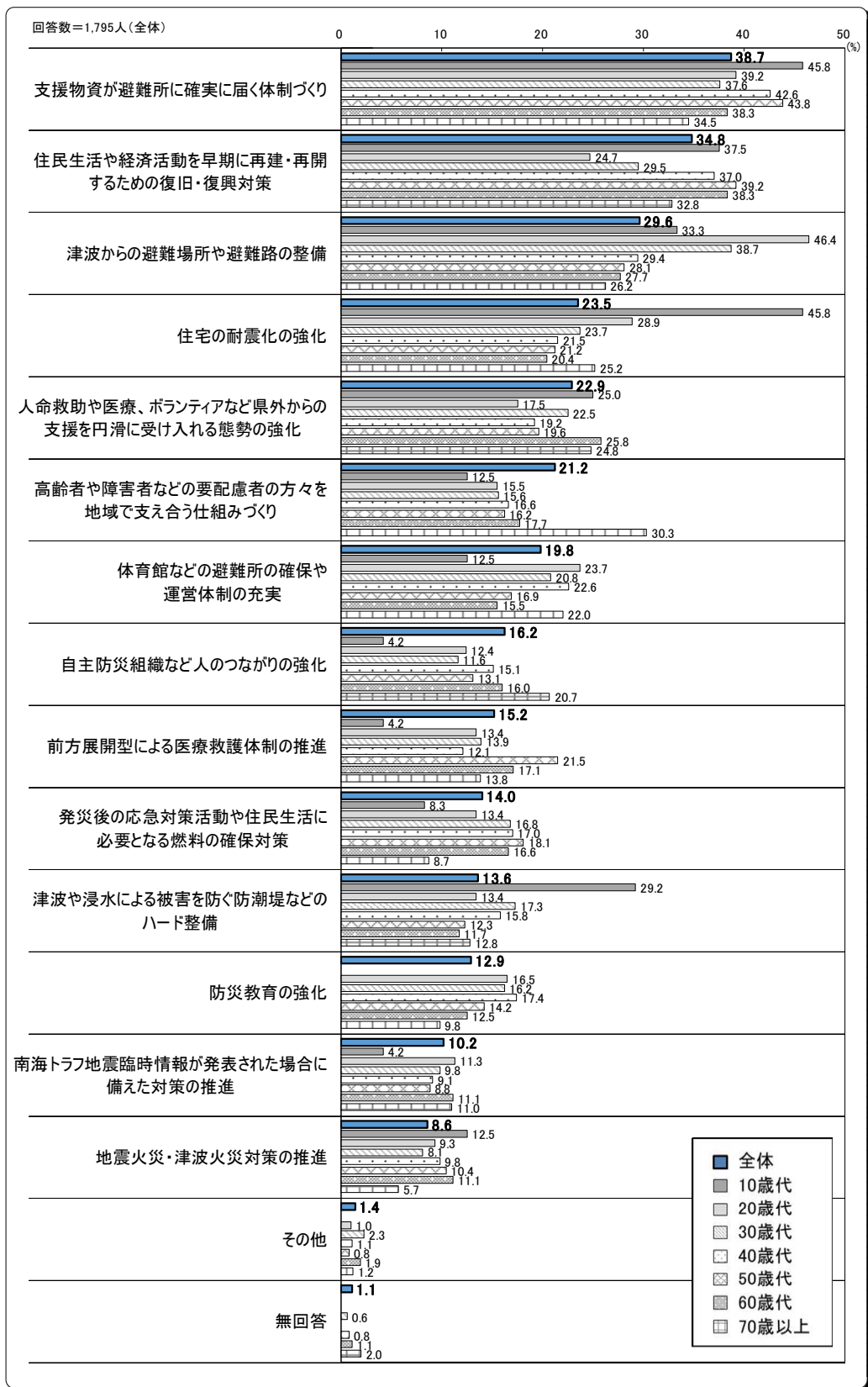
◀性別▶



【年代別】

10歳代では同率で「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」と「住宅の耐震化の強化」が最も高く、20歳代、30歳代では「津波からの避難場所や避難路の整備」が最も高く、40歳代、50歳代、70歳以上では「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が最も高く、60歳代では同率で「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」と「住民生活や経済活動を早期に再建・再開するための復旧・復興対策」が最も高くなっている。

《年代別》



(5)「インフラの充実と有効活用」について

問5 「インフラの充実と有効活用」について、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。
(2つまで○印)

【総合】

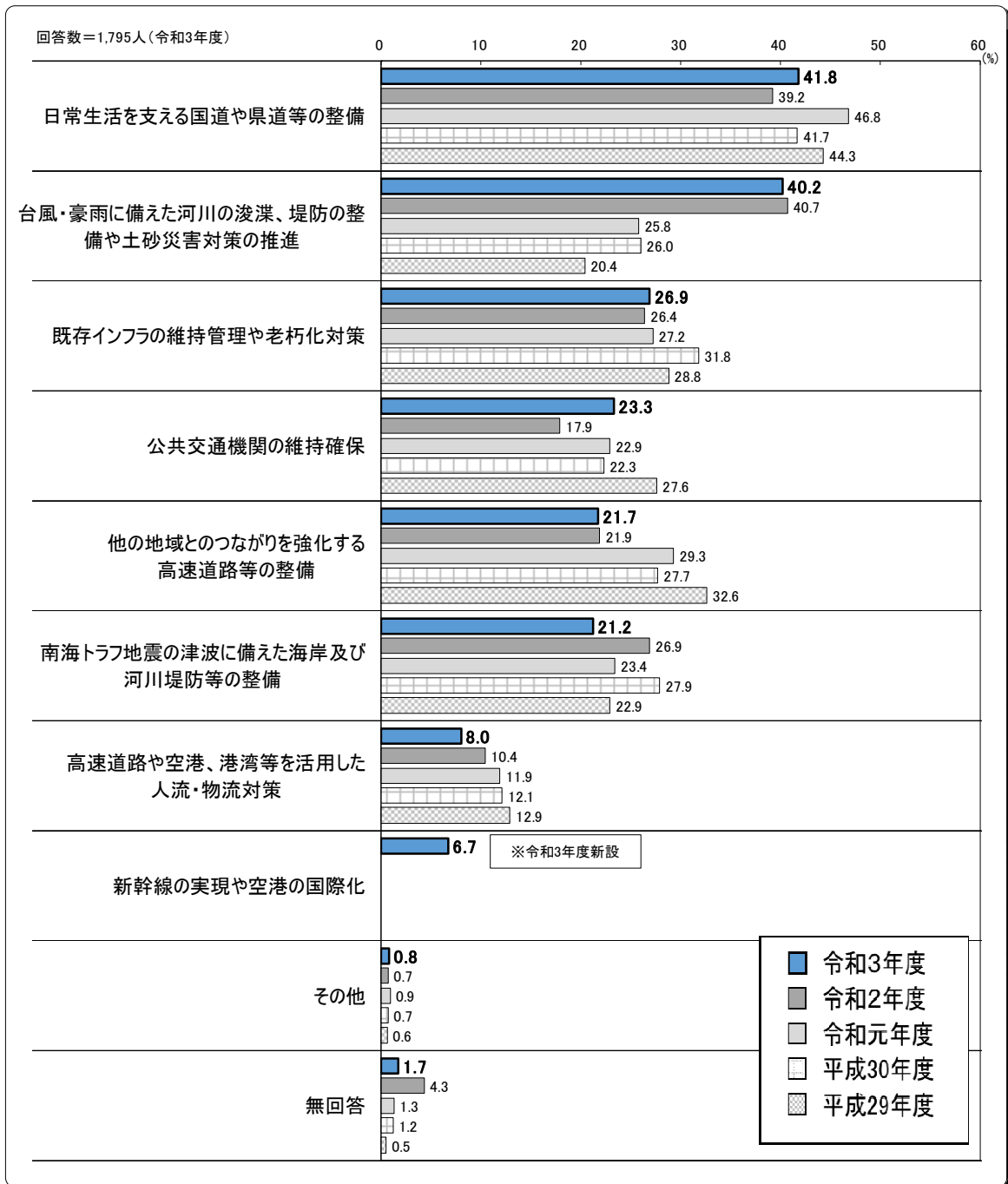
「日常生活を支える国道や県道等の整備」が41.8%と1位になっている。

次いで、「台風・豪雨に備えた河川の浚渫、堤防の整備や土砂災害対策の推進」が40.2%、「既存インフラの維持管理や老朽化対策」が26.9%と続いている。

【過去の調査との比較】

選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、今年度は「日常生活を支える国道や県道等の整備」が2.6ポイント増加し1位になっており、「公共交通機関の維持確保」が5.4ポイント増加し4位になっている。

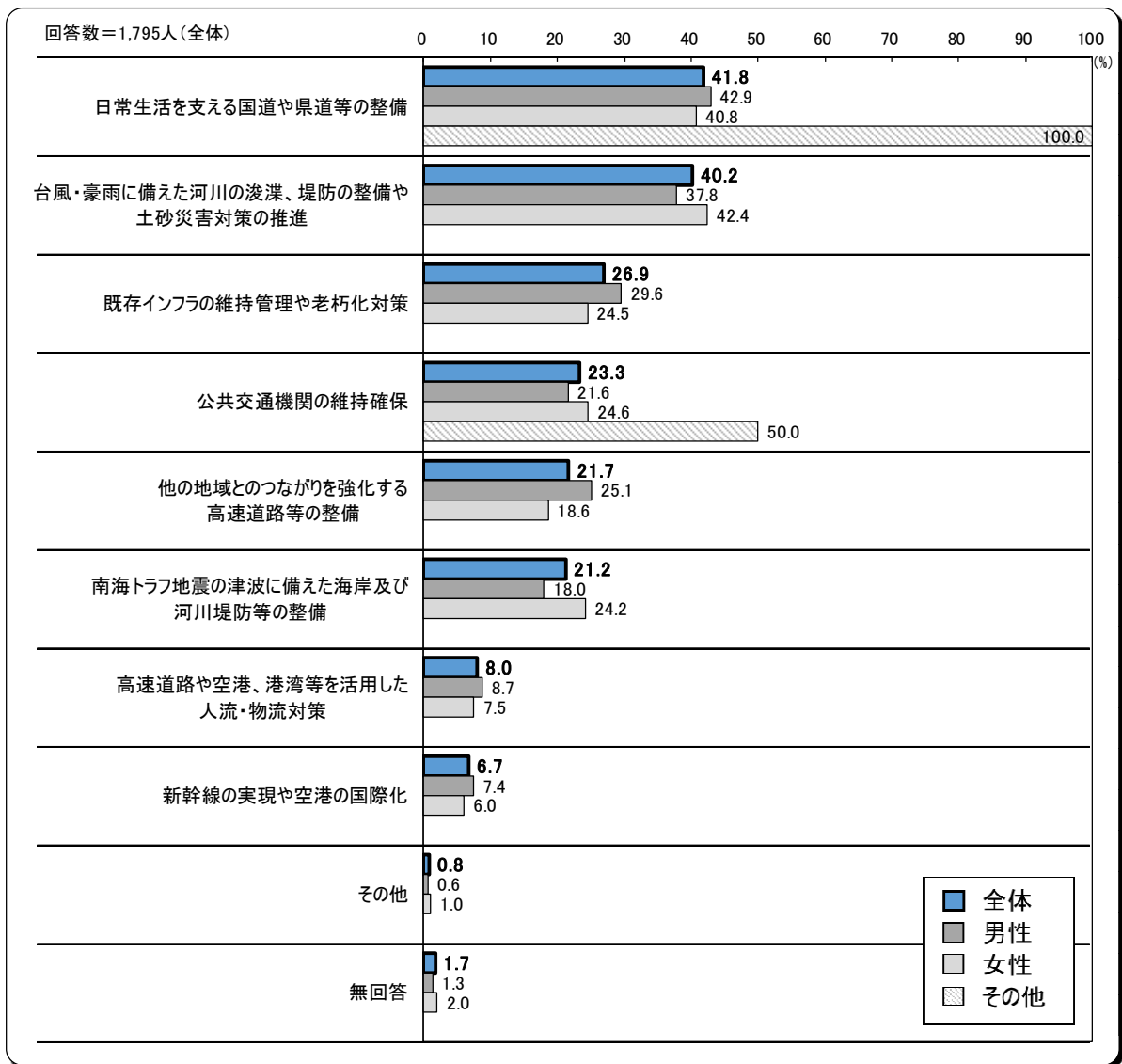
《経年比較》



【性別】

男性では「日常生活を支える国道や県道等の整備」が、女性では「台風・豪雨に備えた河川の浚渫、堤防の整備や土砂災害対策の推進」が最も高くなっている。

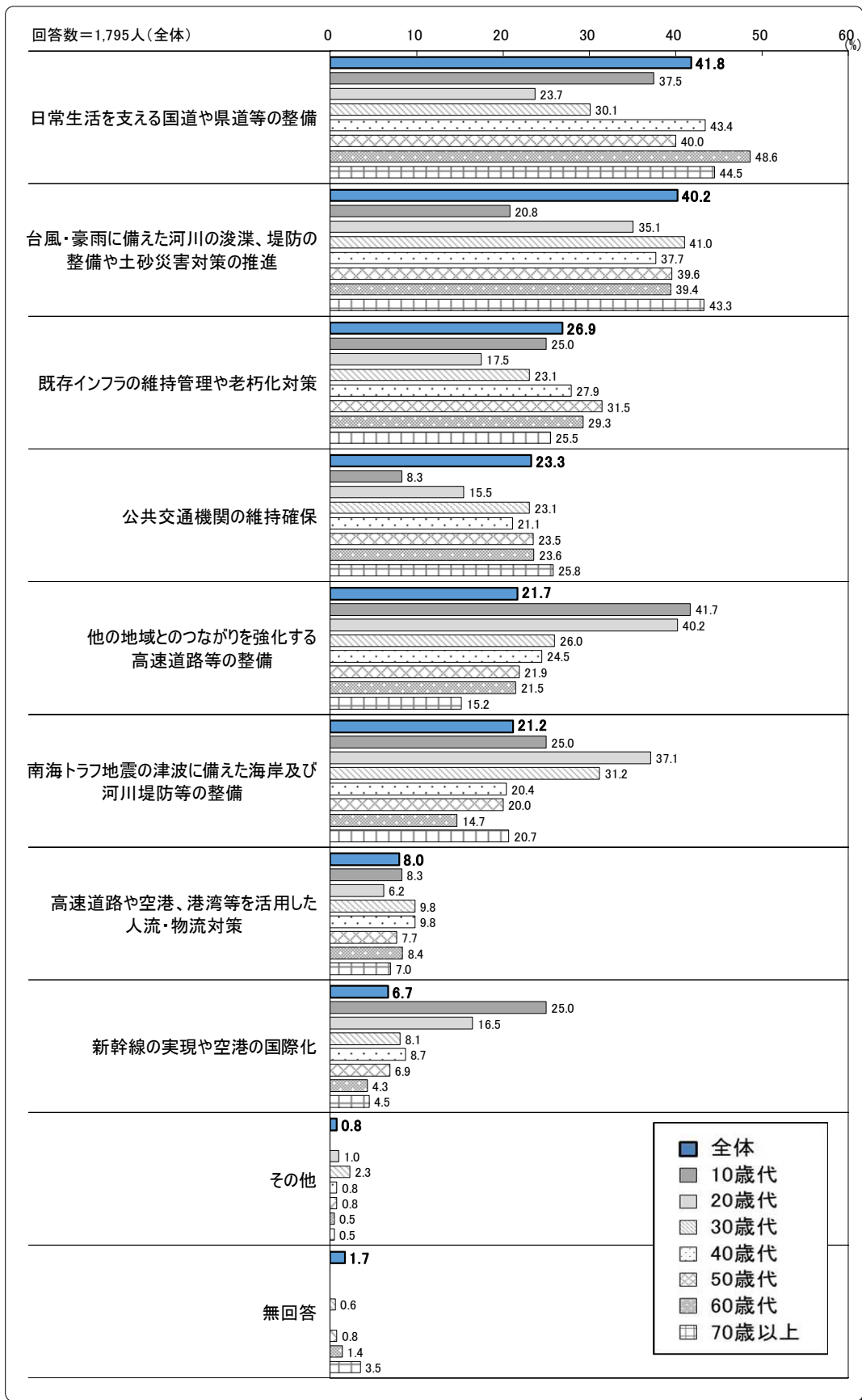
◀性別▶



【年代別】

10歳代、20歳代では「他の地域とのつながりを強化する高速道路等の整備」が最も高く、30歳代では「台風・豪雨に備えた河川の浚渫、堤防の整備や土砂災害対策の推進」が、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「日常生活を支える国道や県道等の整備」が最も高くなっている。

《年代別》



(6)「中山間対策の充実・強化」について

問6 「中山間対策の充実・強化」について、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。
(2つまで○印)

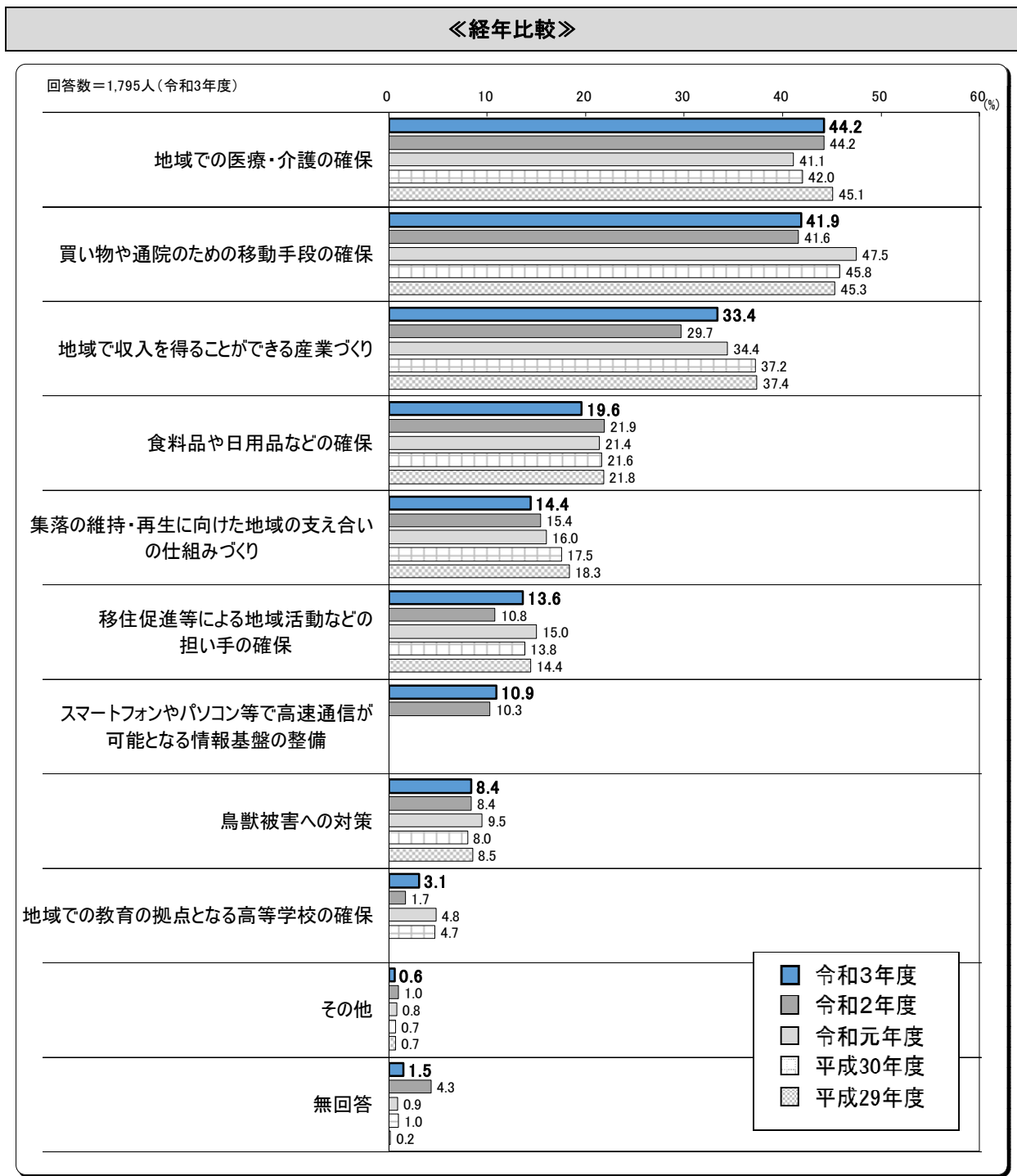
【総合】

「地域での医療・介護の確保」が44.2%と1位になっている。

次いで、「買い物や通院のための移動手段の確保」が41.9%、「地域で収入を得ることができる産業づくり」が33.4%と続いている。

【過去の調査との比較】

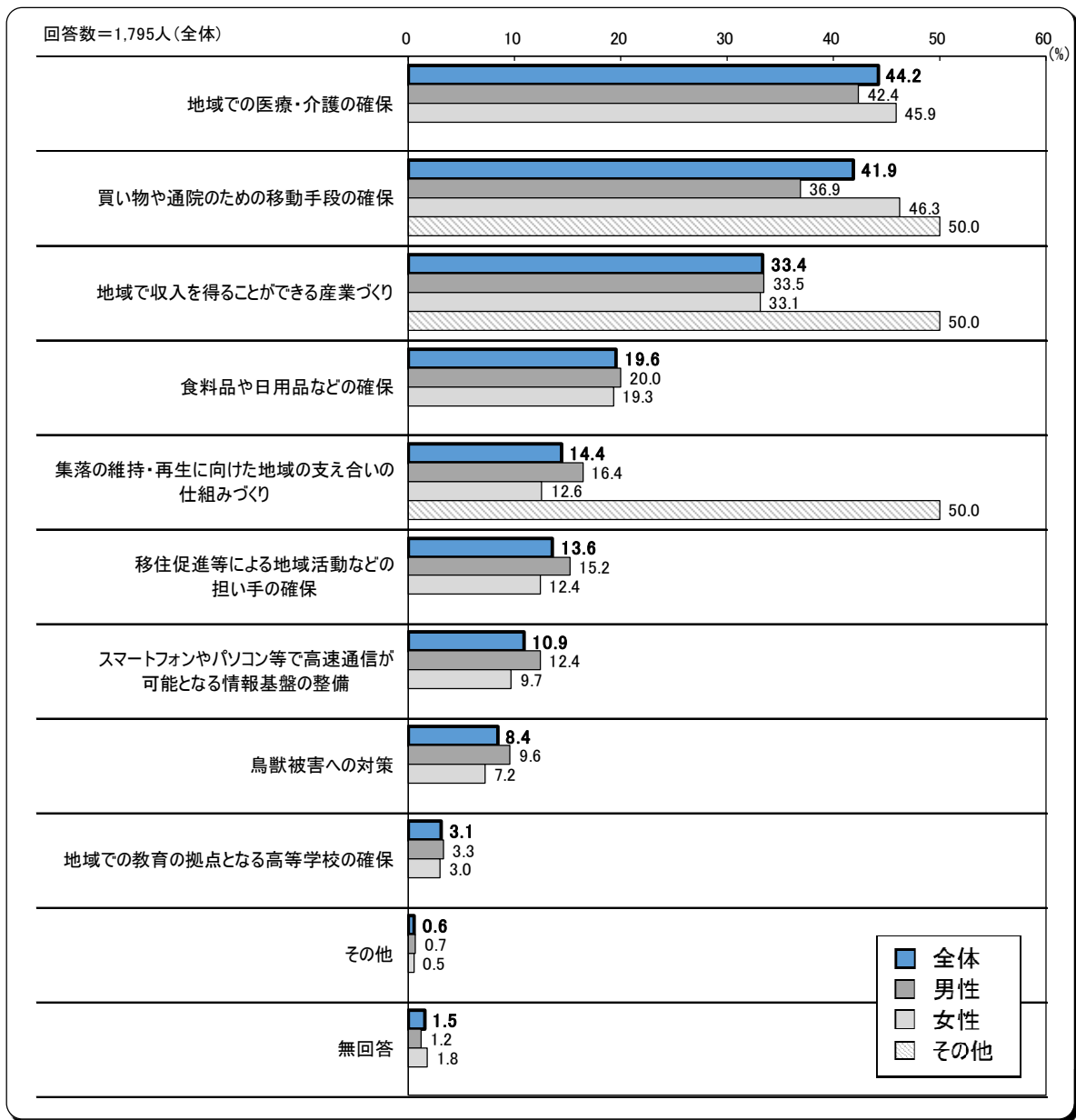
今年度も昨年度と同じく「地域での医療・介護の確保」が1位になっており、以降の順位もほぼ同じ傾向となっている。



【性別】

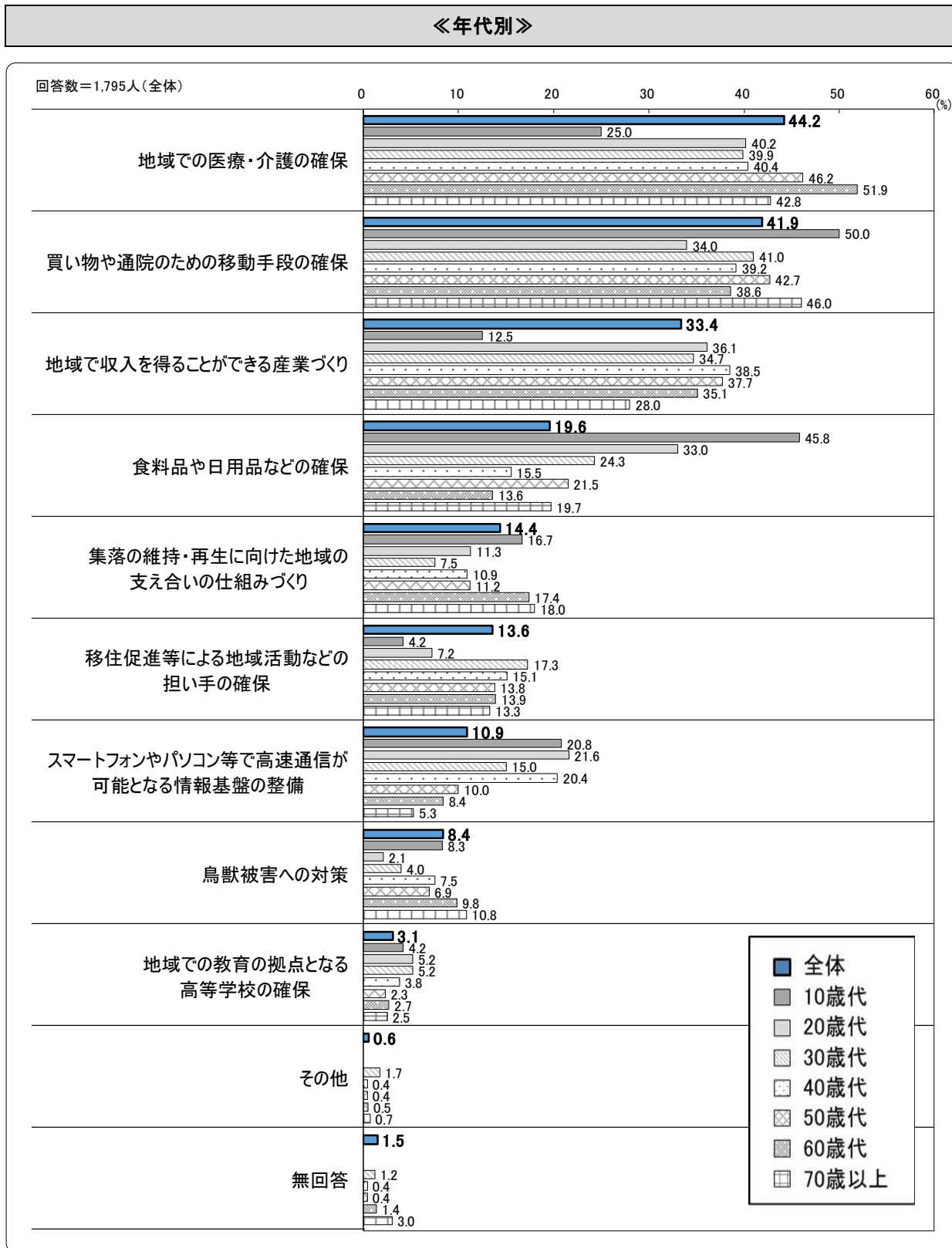
男性では「地域での医療・介護の確保」が、女性では「買い物や通院のための移動手段の確保」が最も高くなっている。

◀性別▶



【年代別】

10歳代では「買い物や通院のための移動手段の確保」が最も高く、20歳代、40歳、50歳代、60歳代では「地域での医療・介護の確保」が、30歳代、70歳以上では「買い物や通院のための移動手段の確保」が最も高くなっている。



(7)「少子化対策の充実・強化と女性の活躍の場の拡大」について

問7 「少子化対策の充実・強化と女性の活躍の場の拡大」について、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(2つまで○印)

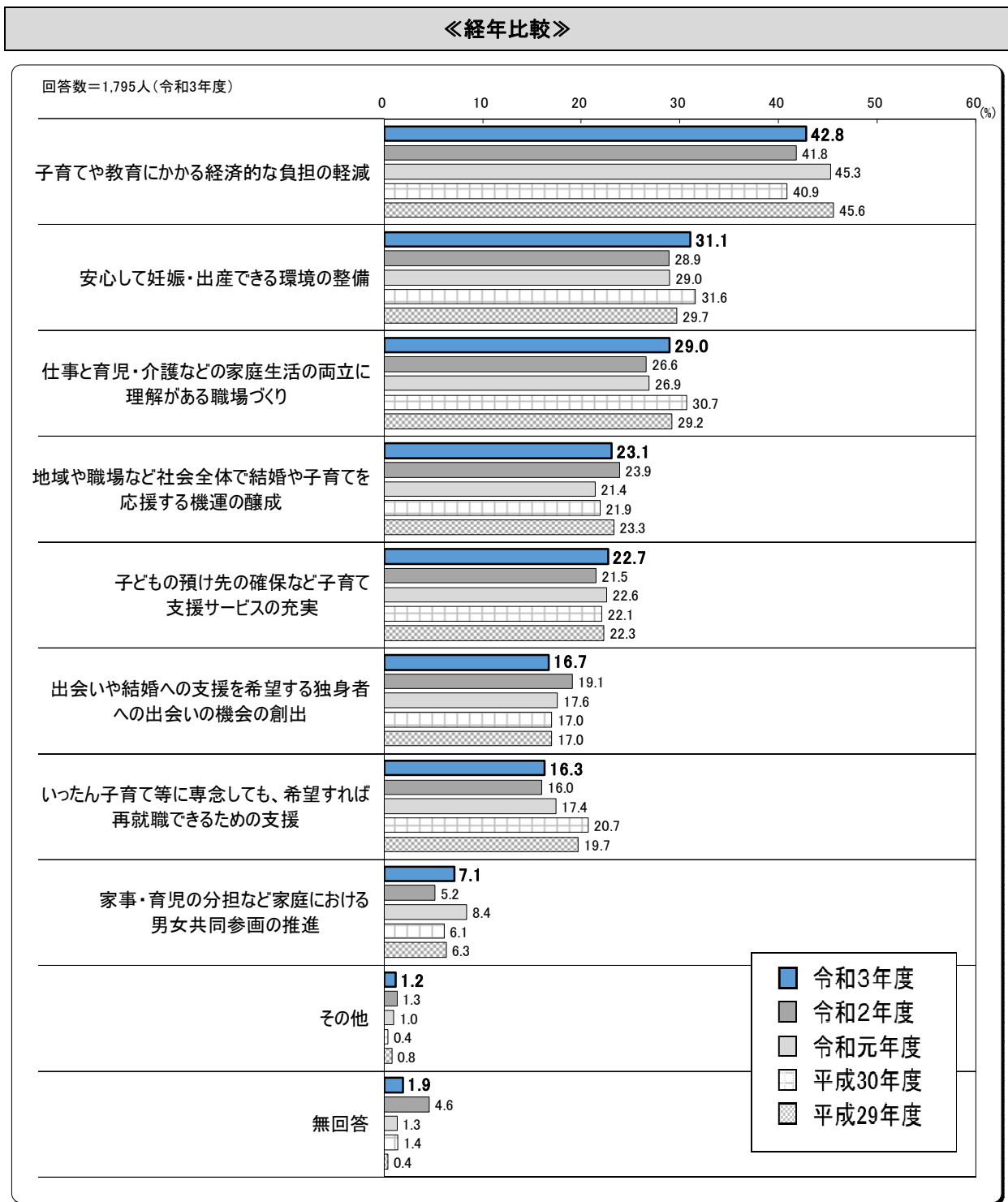
【総合】

「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が42.8%と1位になっている。

次いで、「安心して妊娠・出産できる環境の整備」が31.1%、「仕事と育児・介護などの家庭生活の両立に理解がある職場づくり」が29.0%と続いている。

【過去の調査との比較】

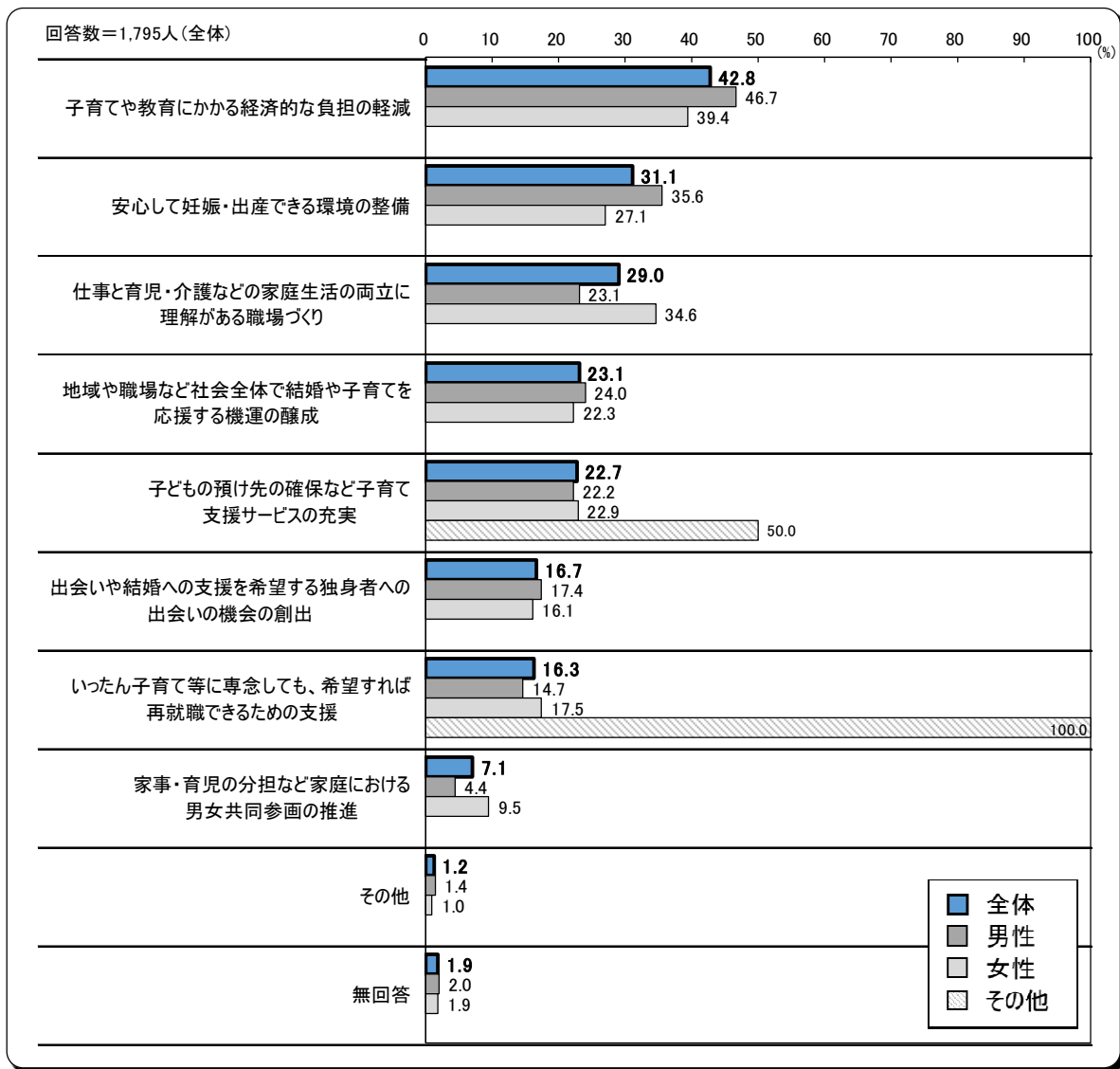
今年度も昨年度と同じく「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が1位になっており、以降の順位もほぼ同じ傾向になっている。



【性別】

男女ともに「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が最も高くなっており、次いで、男性では「安心して妊娠・出産できる環境の整備」が、女性では「仕事と育児・介護などの家庭生活の両立に理解がある職場づくり」が続いている。

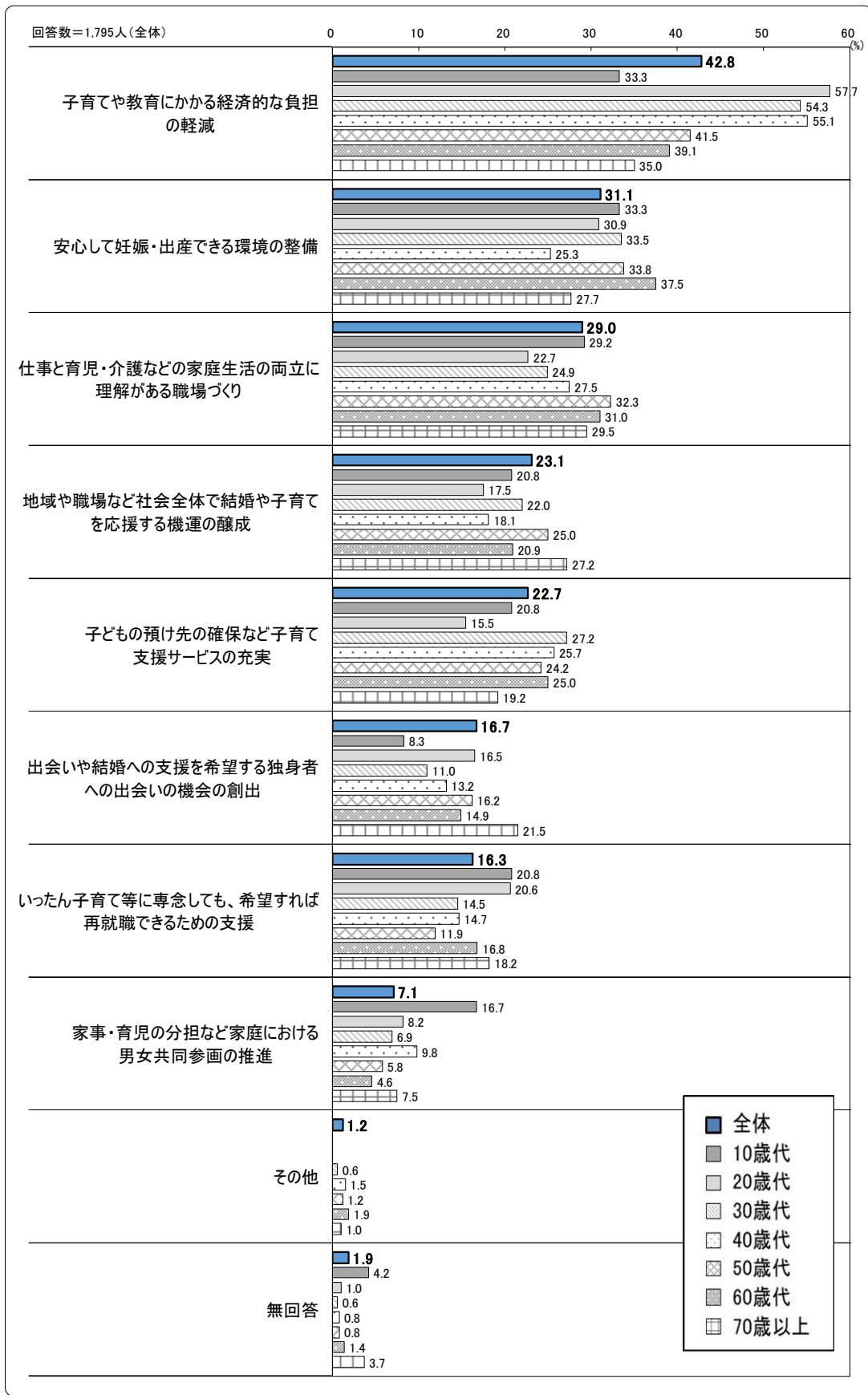
◀性別▶



【年代別】

すべての年代で「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が最も高く、10歳代ではこれと同率で「安心して妊娠・出産できる環境の整備」が最も高くなっている。

《年代別》



(8)「文化芸術の振興」について

問8 文化芸術の振興について、特に力を入れるべきものは何ですか。(2つまで○印)

【総合】

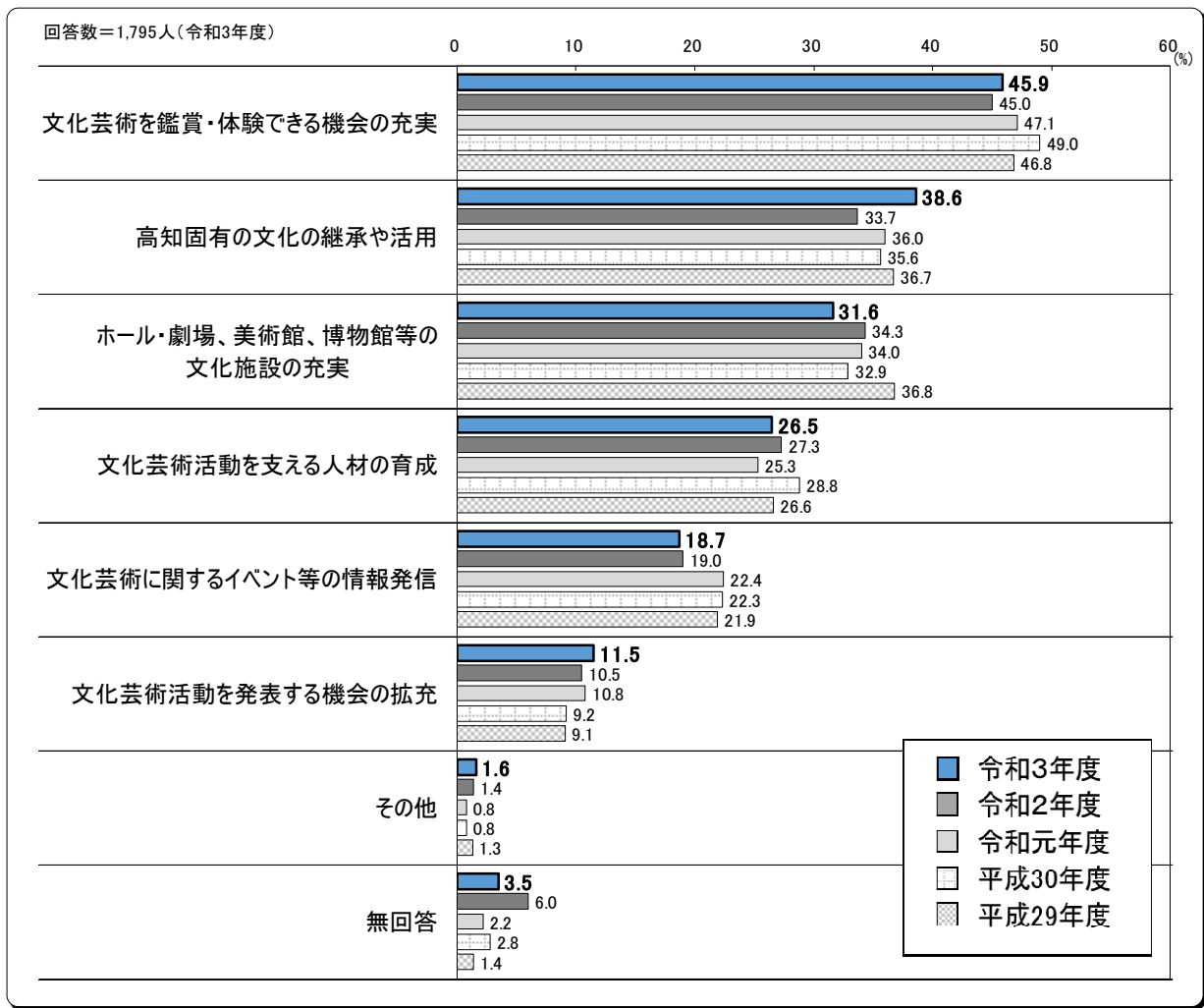
「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が45.9%と1位になっている。

次いで、「高知固有の文化の継承や活用」が38.6%、「ホール・劇場、美術館、博物館等の文化施設の充実」が31.6%と続いている。

【過去の調査との比較】

今年度も昨年度と同じく「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が1位になっている。また、「高知固有の文化の継承や活用」が4.9ポイント増加している。

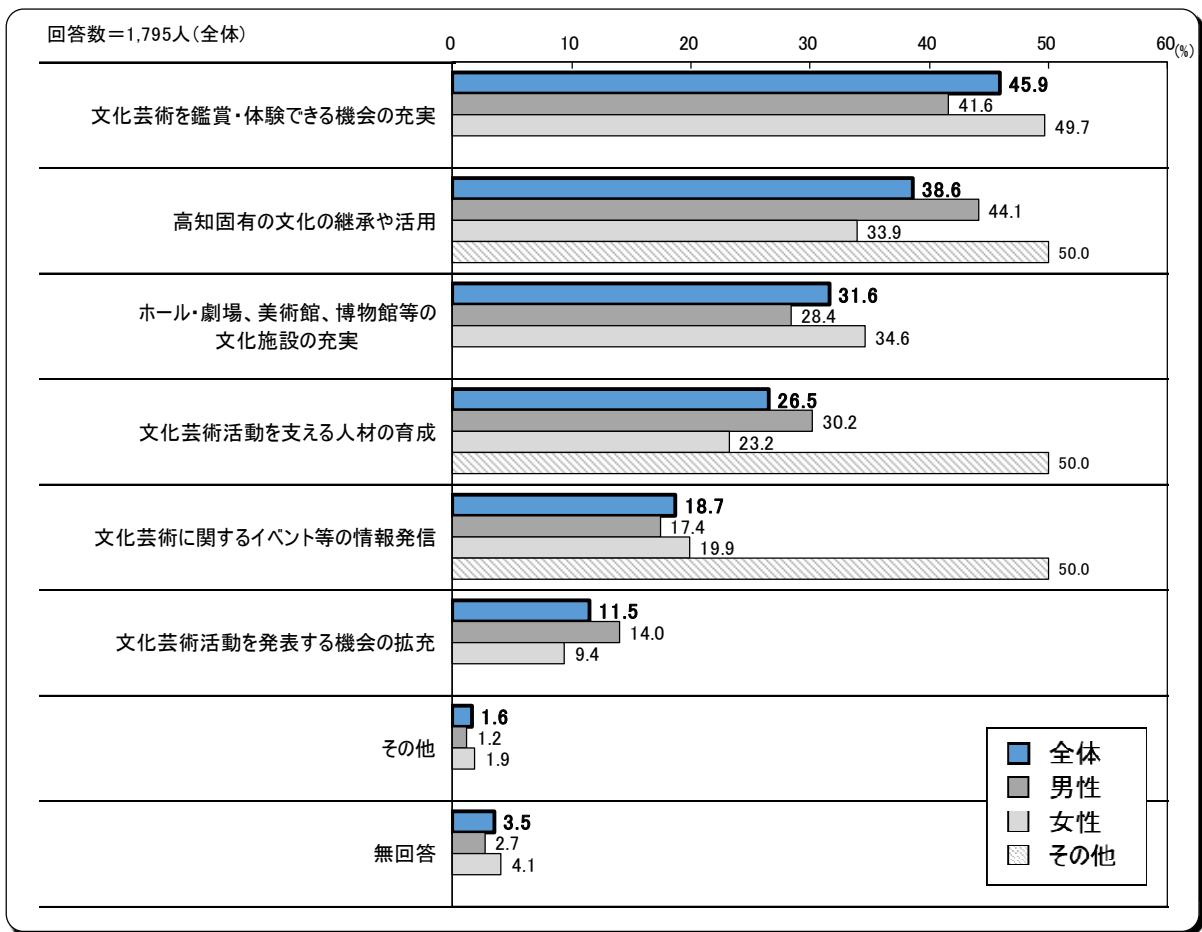
《経年比較》



【性別】

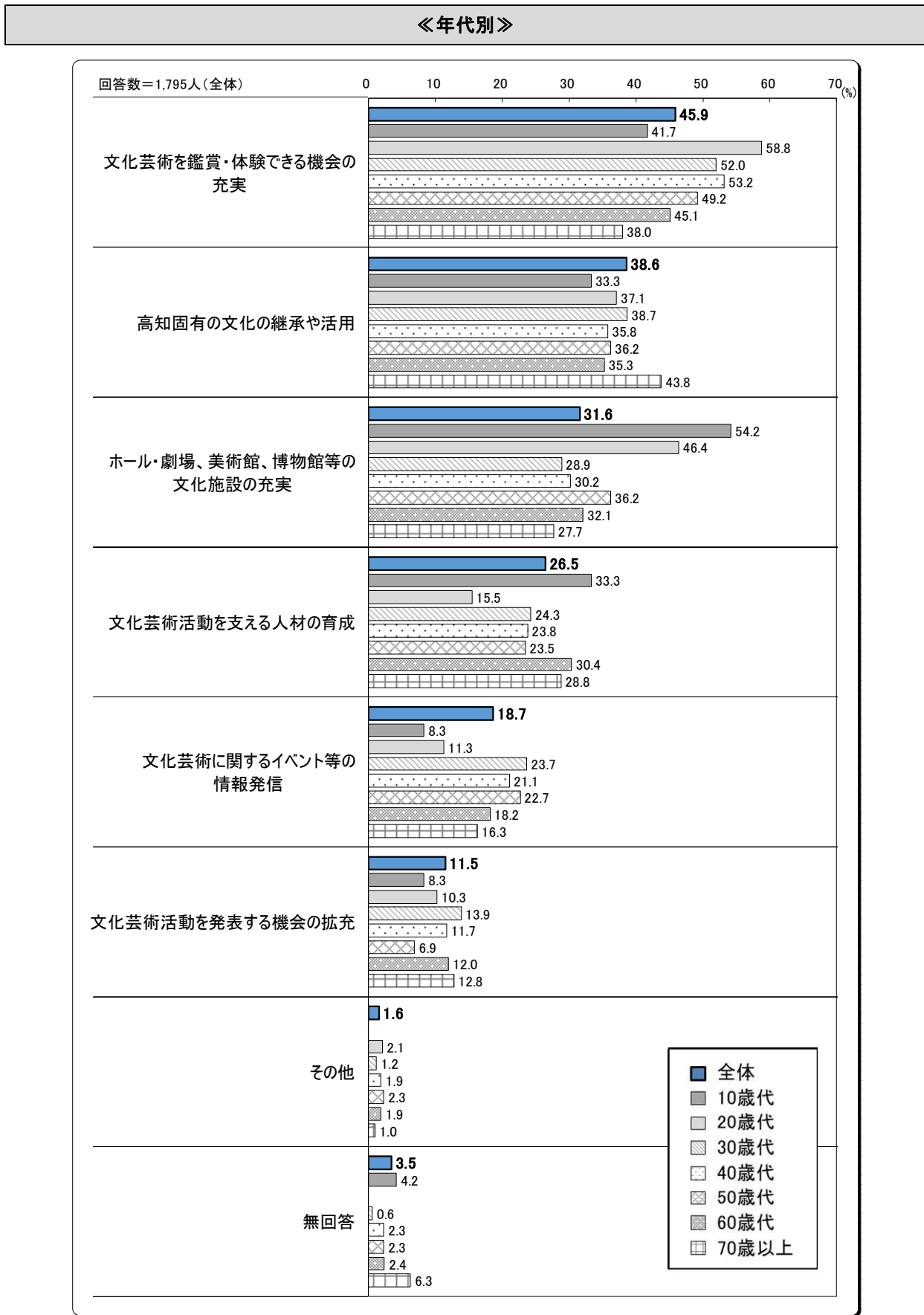
男性では「高知固有の文化の継承や活用」が最も高くなっており、女性では「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が最も高くなっている。

◀性別▶



【年代別】

10歳代では「ホール・劇場、美術館、博物館等の文化施設の充実」が最も高く、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代では「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が最も高く、70歳以上では「高知固有の文化の継承や活用」が最も高くなっている。



(9)「スポーツの振興」について

問9 スポーツの振興について、特に力を入れるべきものは何ですか。(2つまで○印)

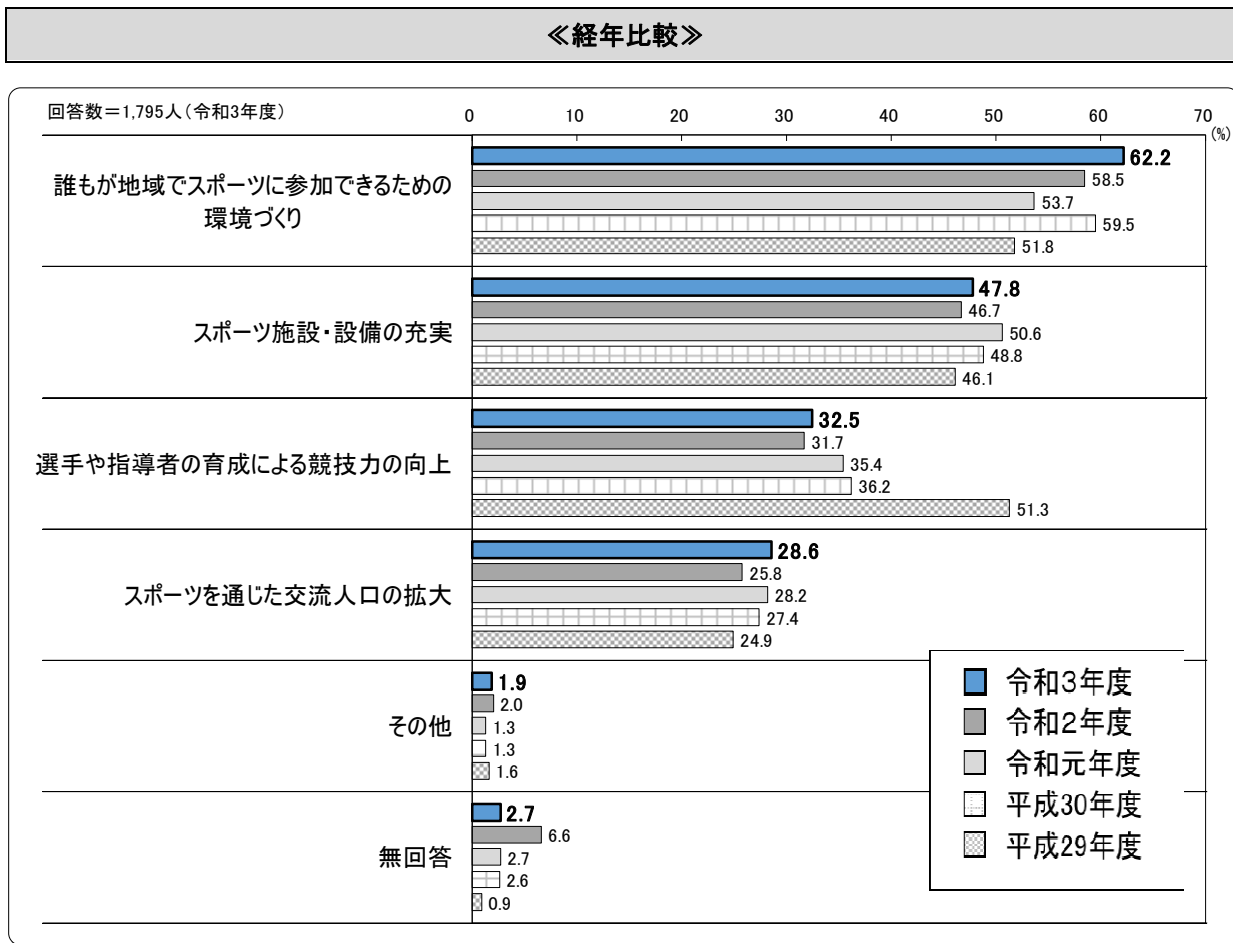
【総合】

「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」が62.2%と1位になっている。

次いで、「スポーツ施設・設備の充実」が47.8%、「選手や指導者の育成による競技力の向上」が32.5%と続いている。

【過去の調査との比較】

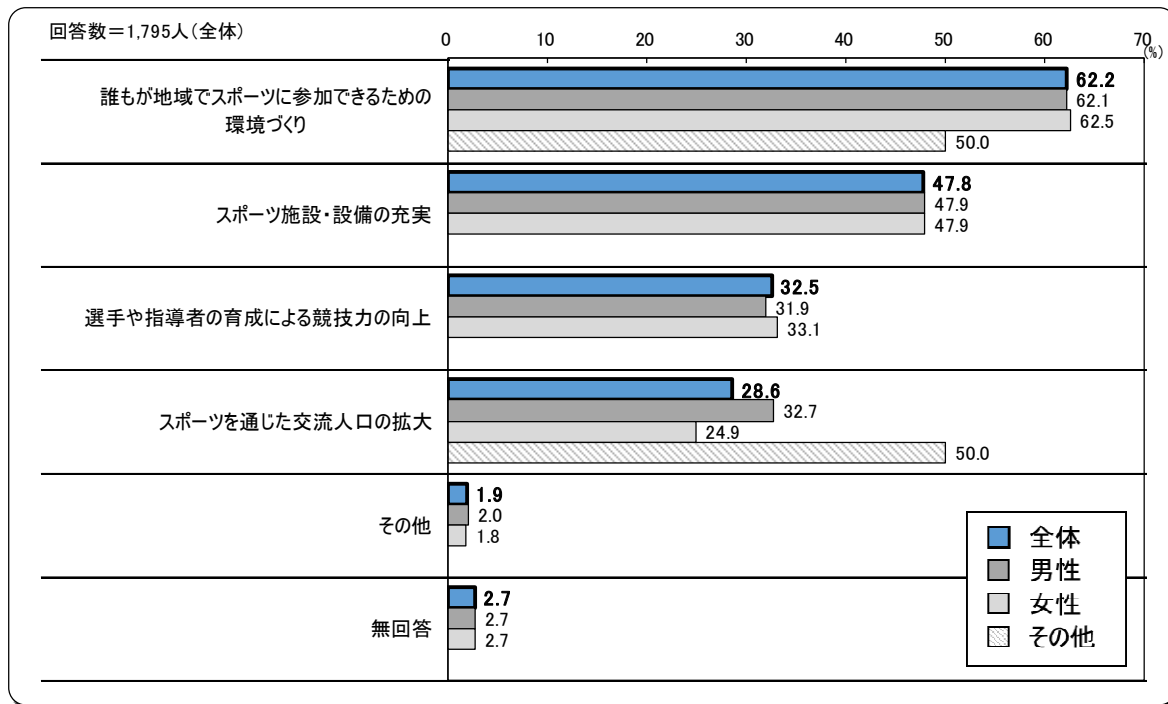
今年度も昨年度と同じく「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」が1位になっており、以降の順位も同じ傾向になっている。



【性別】

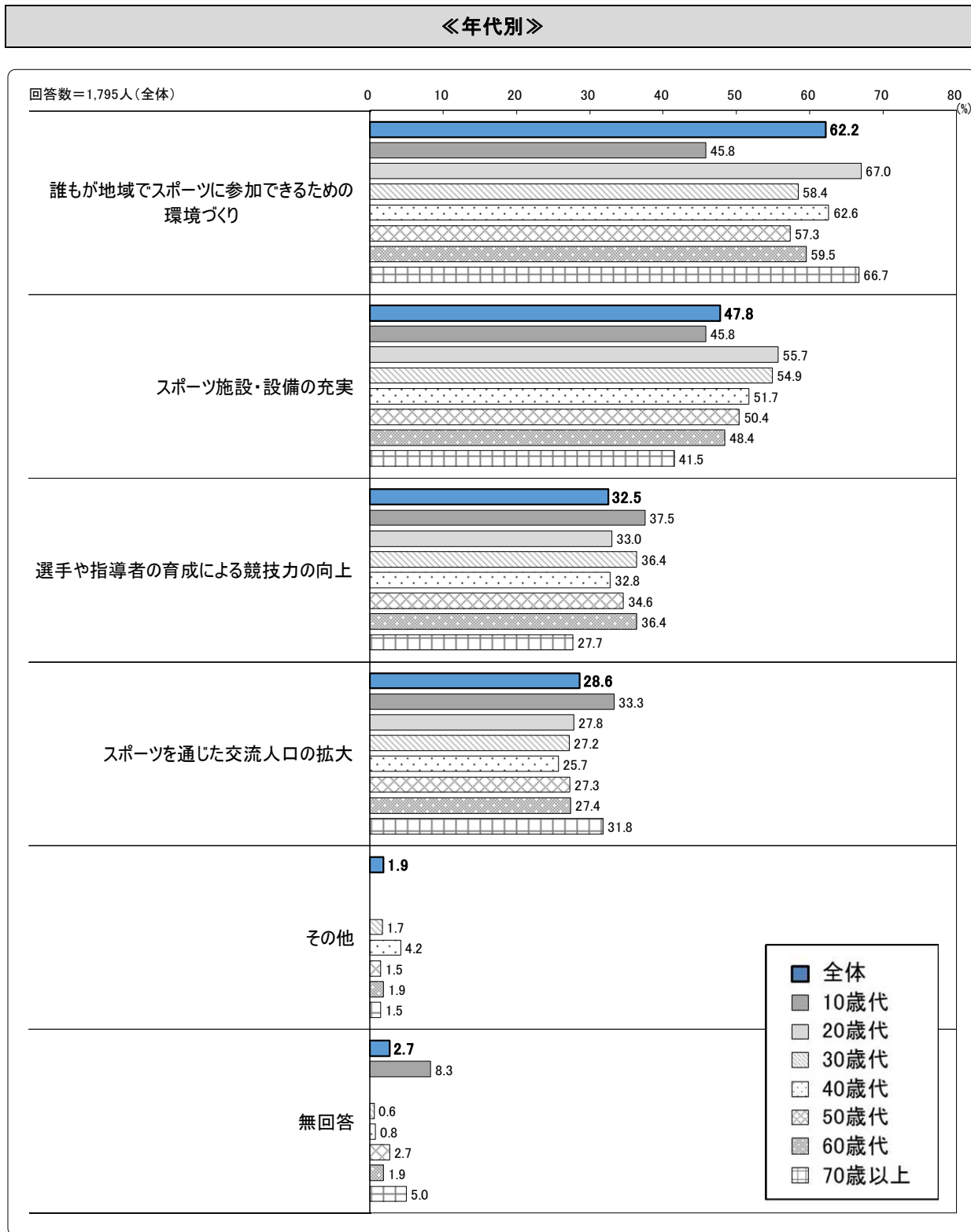
男女ともに「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」が最も高く、次いで、「スポーツ施設・設備の充実」が続いている。

◀性別▶



【年代別】

10歳代では同率で「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」と「スポーツ施設・設備の充実」が最も高く、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」が最も高くなっている。



(10)「5つの基本政策と3つの横断的にかかわる政策」について

問 10 県が行っている8つの政策のうち、より一層力を入れて取り組むべきだと考えるものは何ですか。
(2つまで○印)

【総合】

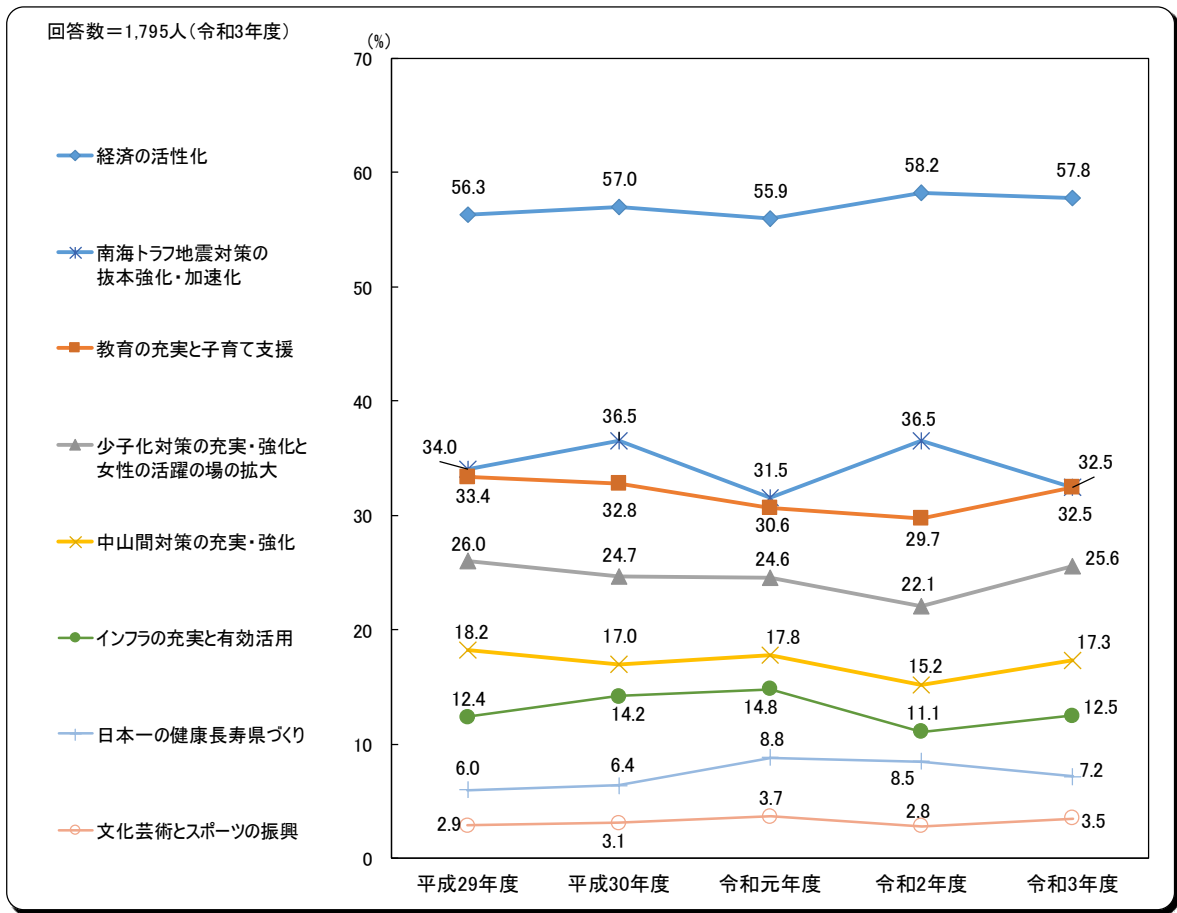
「経済の活性化」が57.8%と1位になっている。

次いで、同率で「教育の充実と子育て支援」と「南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化」が32.5%と続いている。

【過去の調査との比較】

今年度も「経済の活性化」が1位になっている。

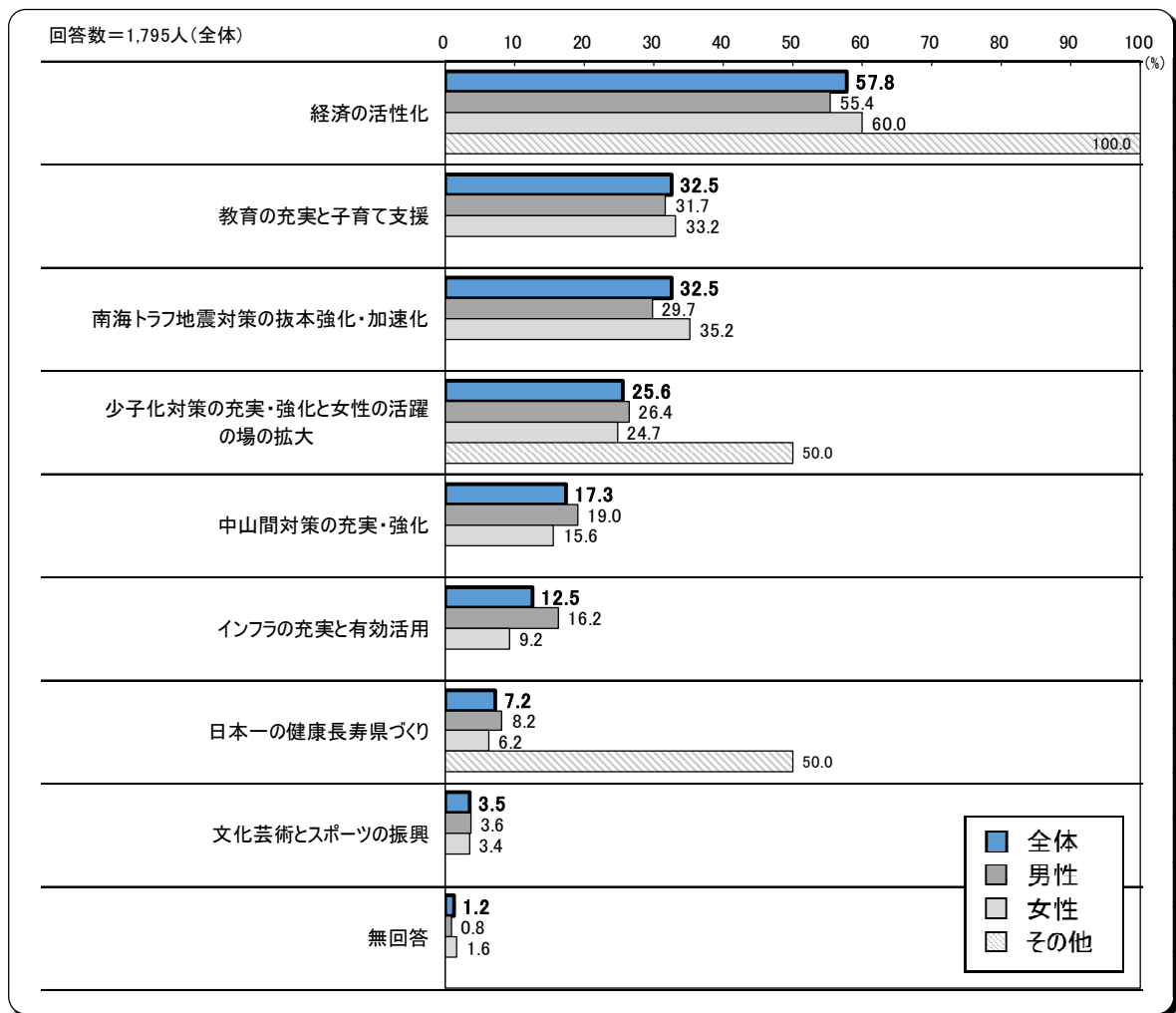
《経年比較》



【性別】

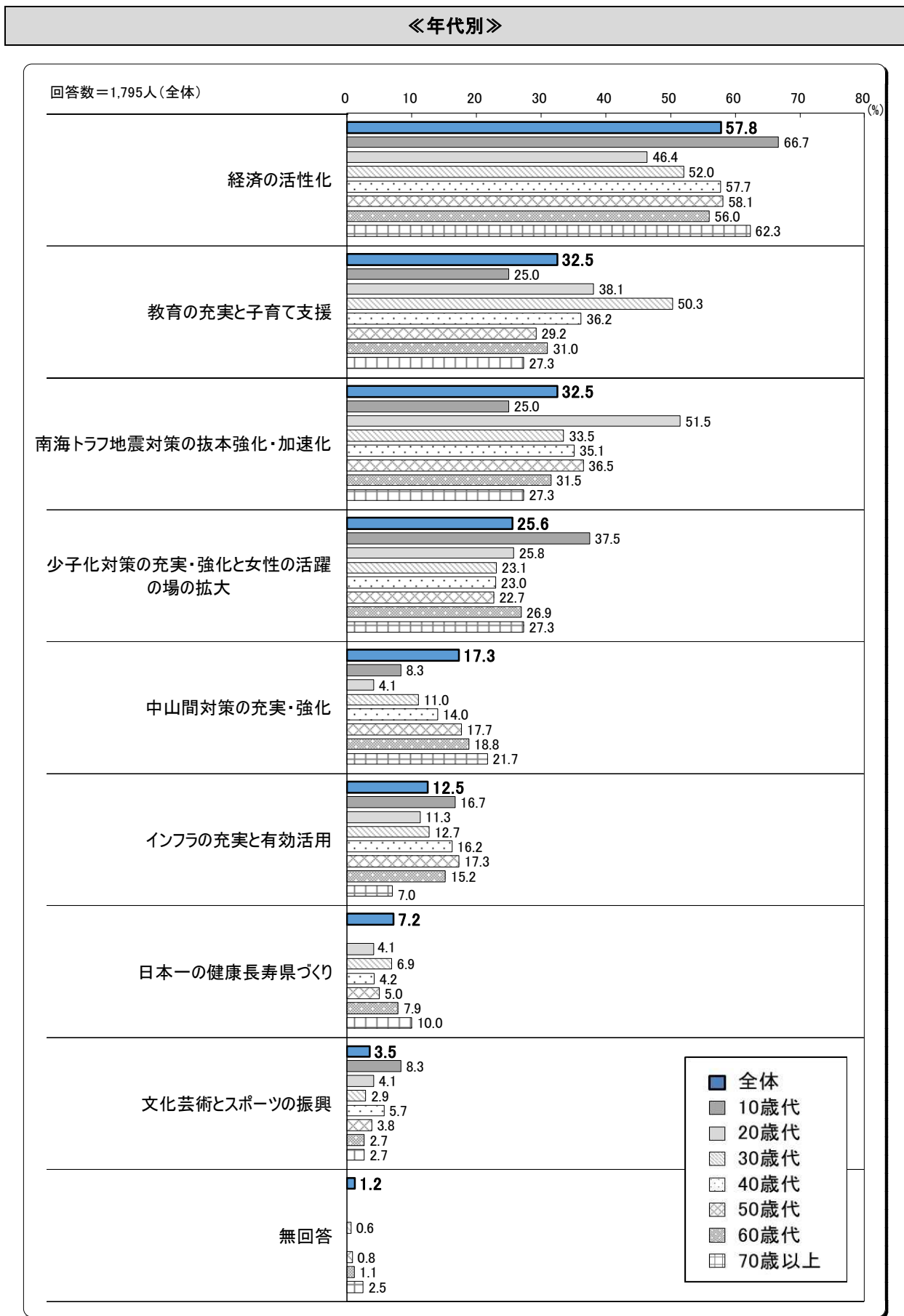
男女ともに「経済の活性化」が最も高くなっており、次いで、男性では「教育の充実と子育て支援」、女性では「南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化」と続いている。

◀性別▶



【年代別】

20歳代を除くすべての年代で「経済の活性化」が最も高く、20歳代では「南海トラフ地震の抜本強化・加速化」が最も高くなっている。



2. 新型コロナウイルス感染症対策について

(1) 新型コロナウイルス感染症予防対策

問12 新型コロナウイルス感染症を予防するため、実践している取り組みは何ですか。
(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

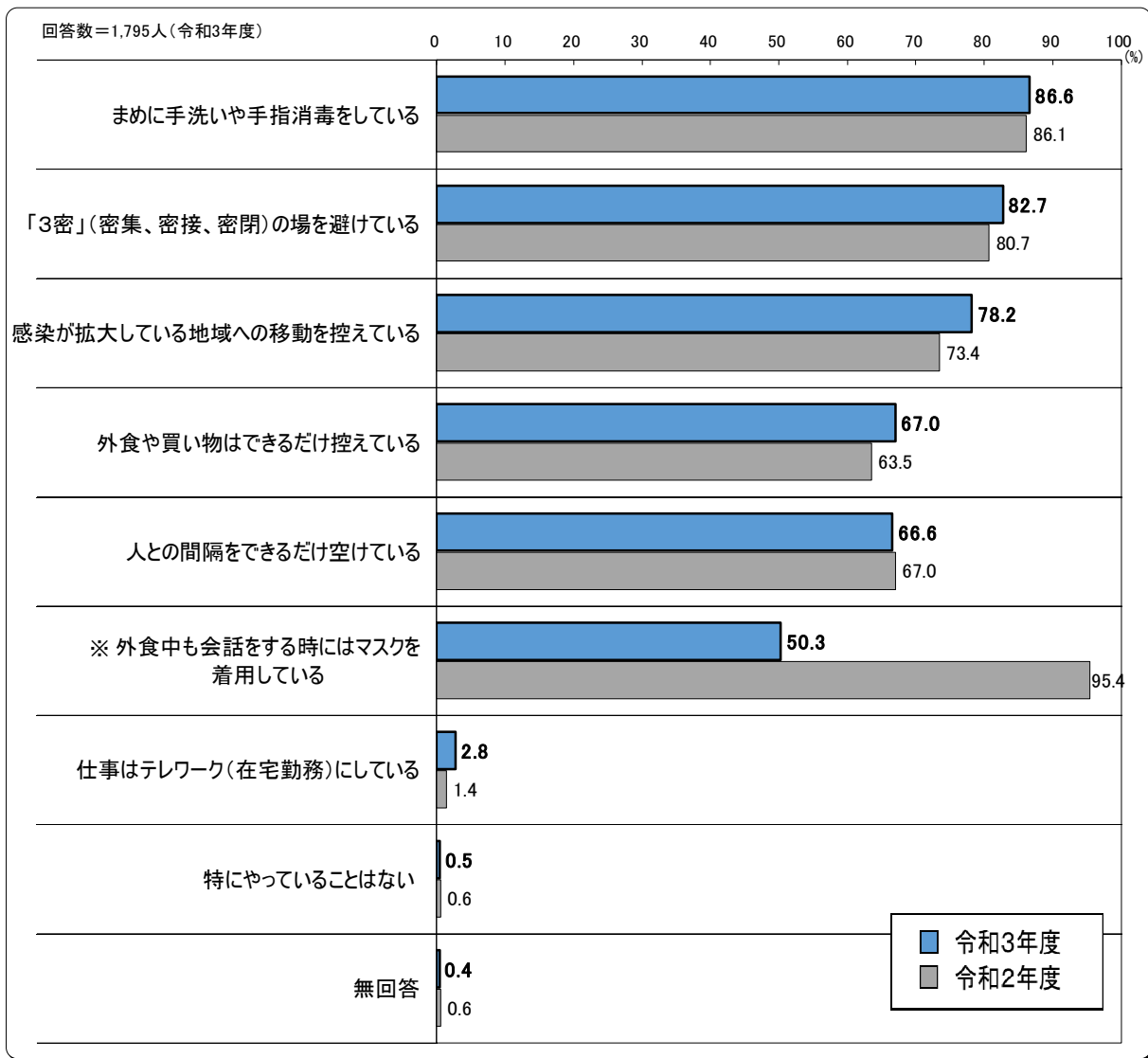
「まめに手洗いや手指消毒をしている」が86.6%と1位になっている。

次いで、「「3密」(密集、密接、密閉)の場を避けている」が82.7%、「感染が拡大している地域への移動を控えている」が78.2%と続いている。

【過去の調査との比較】

選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、今年度は「まめに手洗いや手指消毒をしている」が1位になっており、以降の順位もほぼ同じ傾向となっている。

《経年比較》

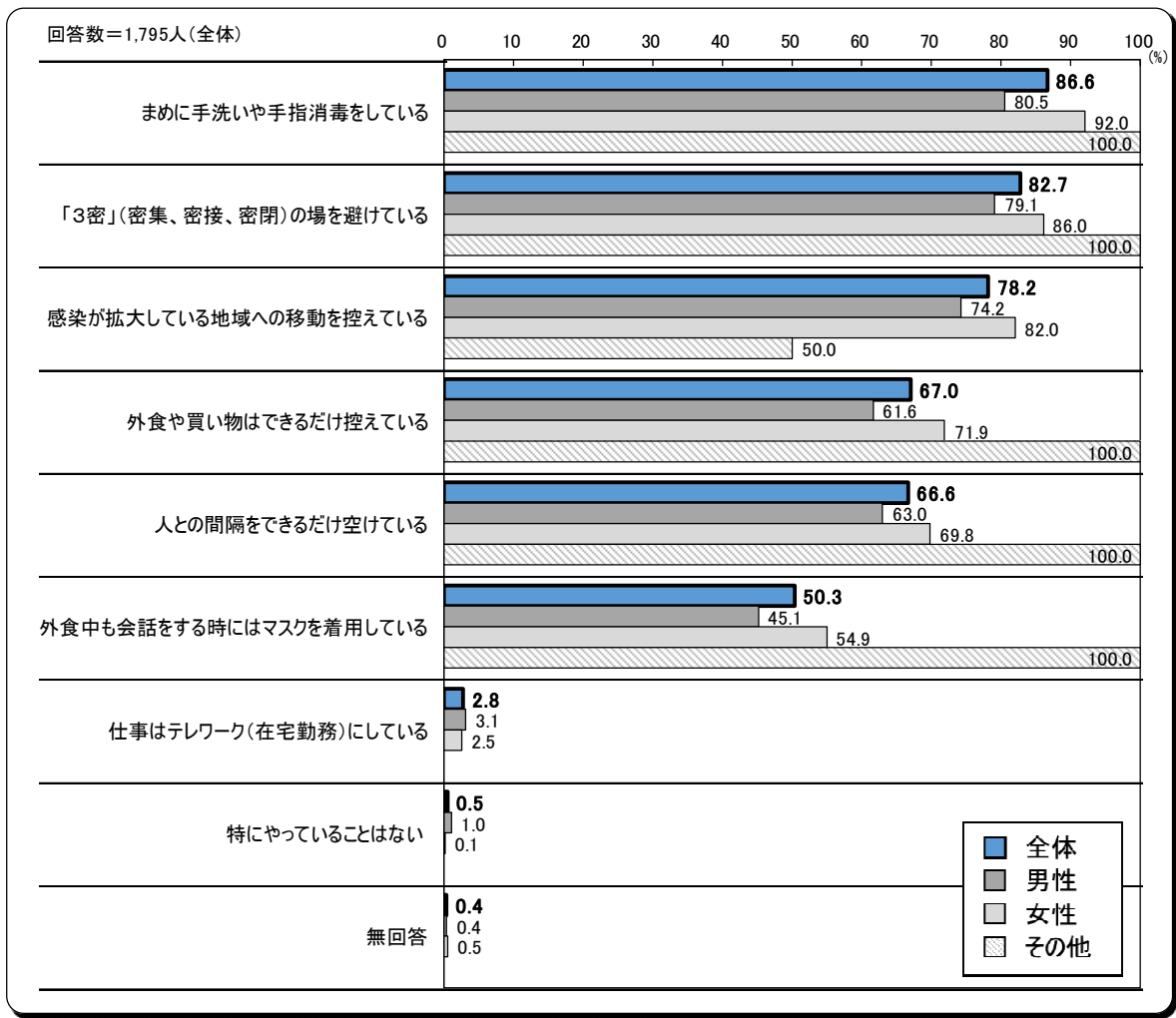


※前回調査では「マスクを着用している」の選択肢でしたが、今回調査の選択肢は前回と少し異なります。

【性別】

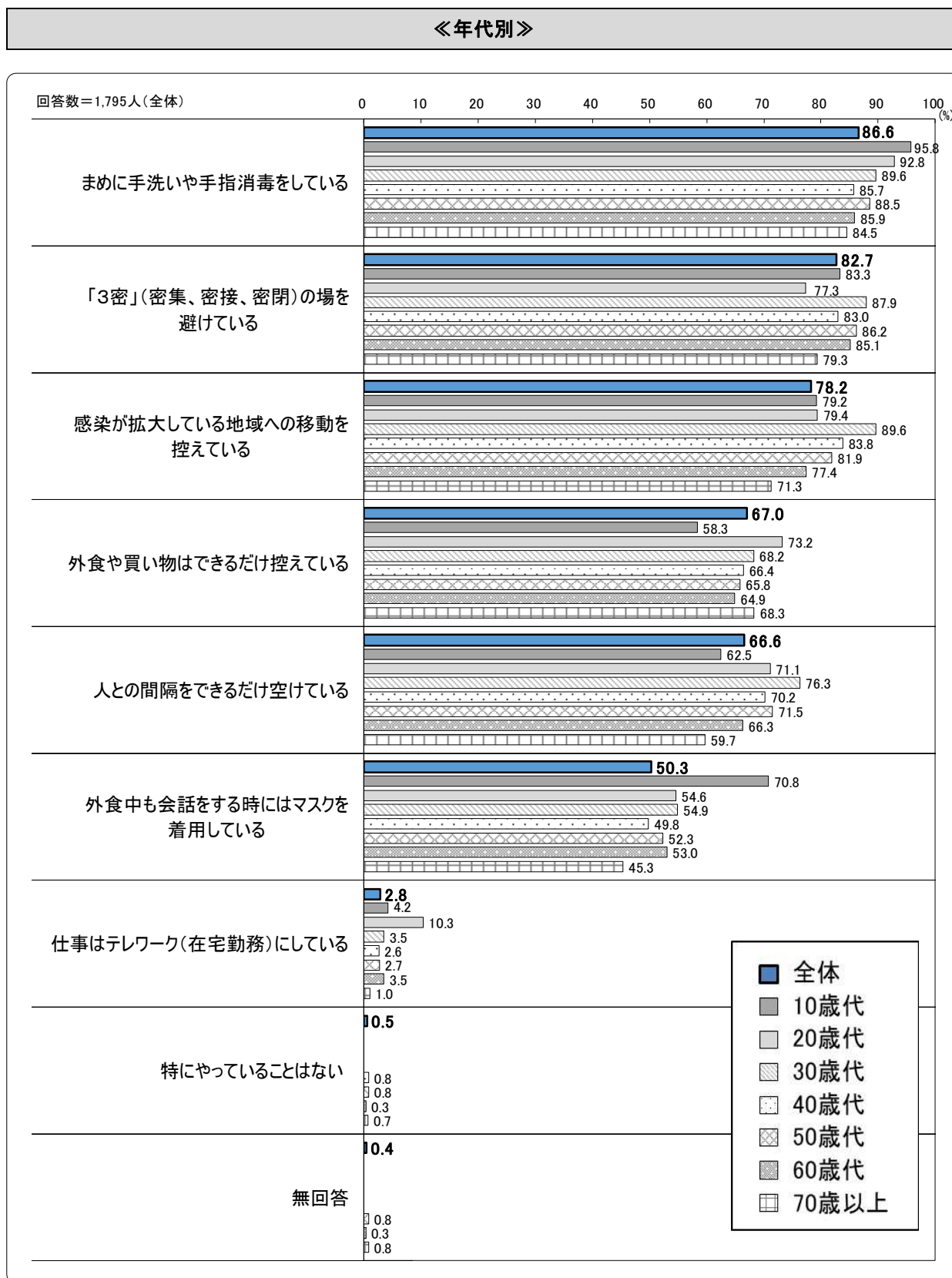
男女ともに「まめに手洗いや手指消毒をしている」が最も高く、次いで、「「3密」(密集、密接、密閉)の場を避けている」が続いている。

◀性別▶



【年代別】

30歳代を除くすべての年代で「まめに手洗いや手指消毒をしている」が最も高く、30歳代ではこれと同率で「感染が拡大している地域への移動を控えている」が最も高くなっている。



(2)新型コロナウイルス感染症等で不安に感じていること

問13 新型コロナウイルス感染症やその影響について、不安に感じていることは何ですか。
(3つまで○印)

【総合】

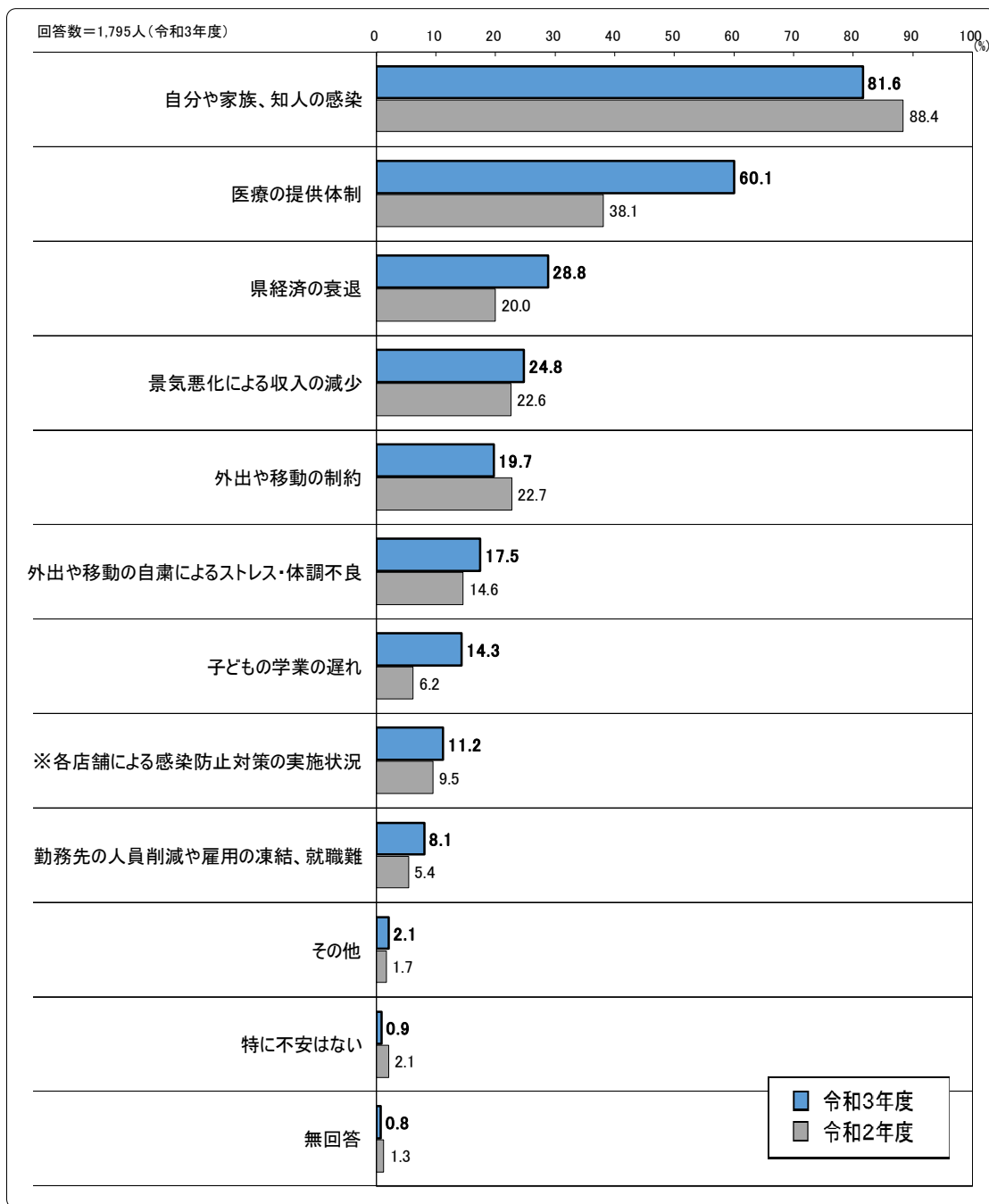
「自分や家族、知人の感染」が81.6%と1位になっている。

次いで、「医療の提供体制」が60.1%、「県経済の衰退」が28.8%と続いている。

【過去の調査との比較】

選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、今年度も昨年度と同じく「自分や家族、知人の感染」が1位になっている。また、「医療の提供体制」が22.0ポイント増加している。

《経年比較》

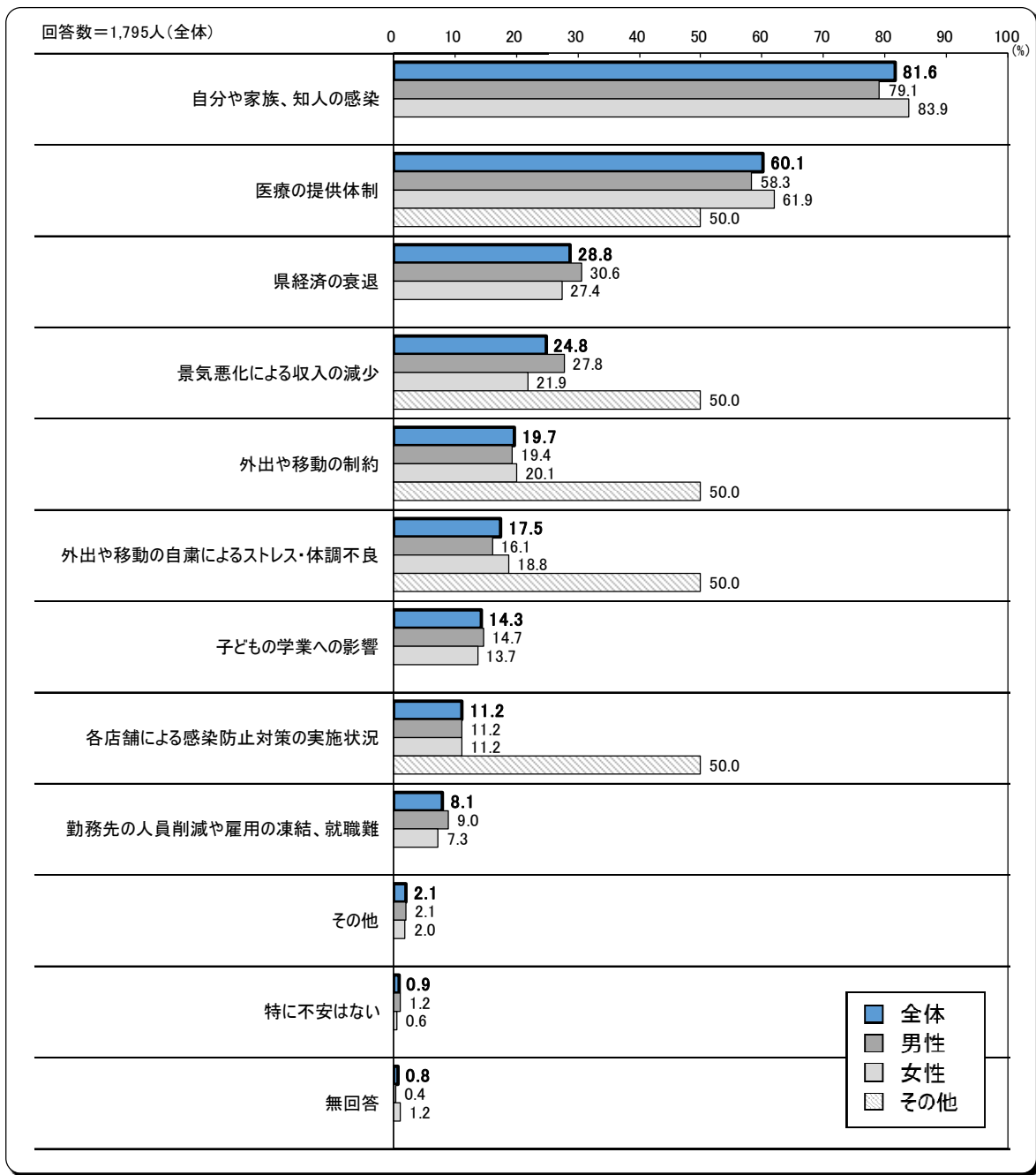


※前回調査では「事業者による感染防止対策の実施」の選択肢でしたが、今回調査の選択肢は前回と少し異なります。

【性別】

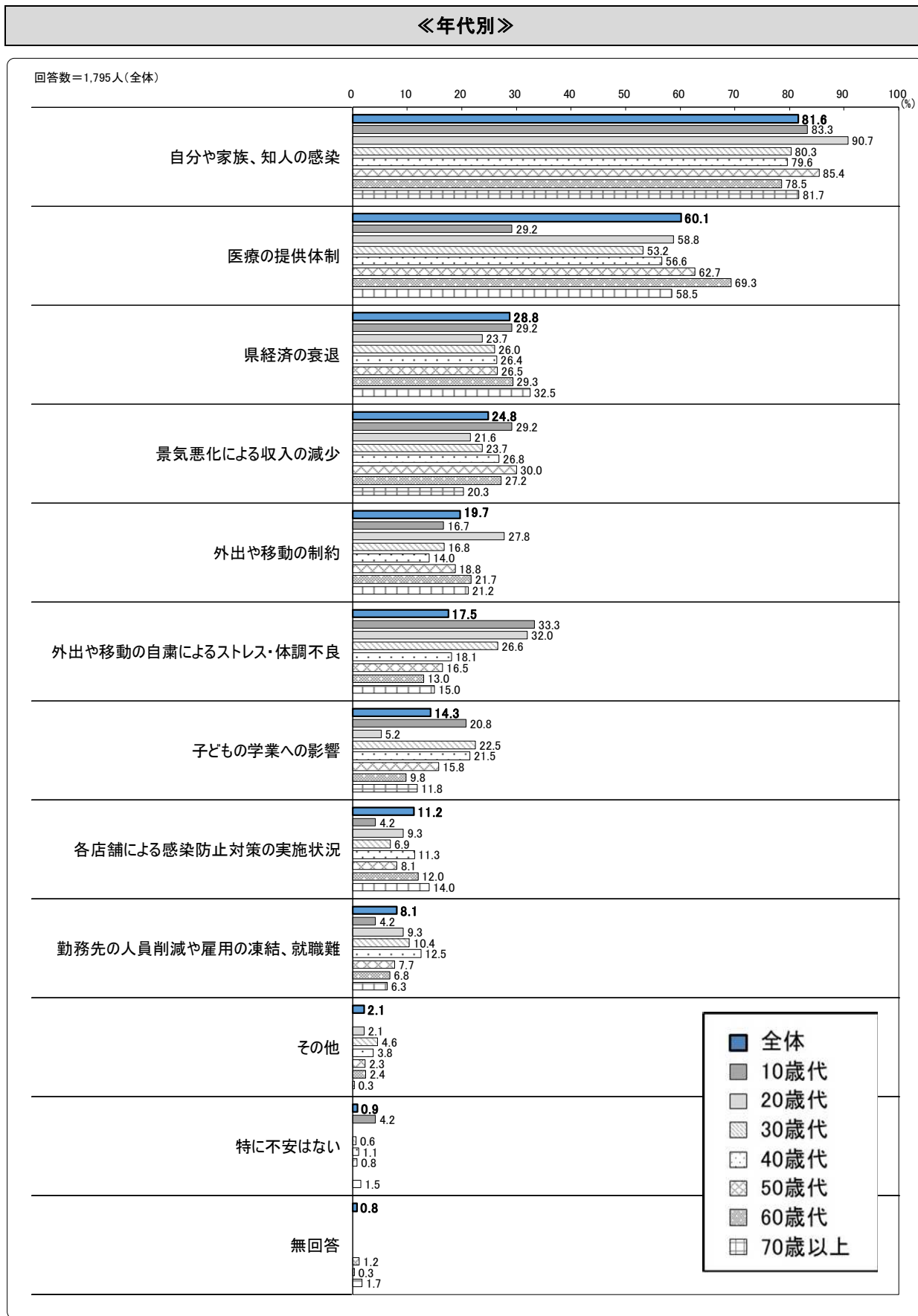
男女ともに「自分や家族、知人の感染」が最も高くなっている。

◀性別▶



【年代別】

すべての年代で「自分や家族、知人の感染」が最も高くなっている。



(3)「新型コロナウイルスワクチン接種」について

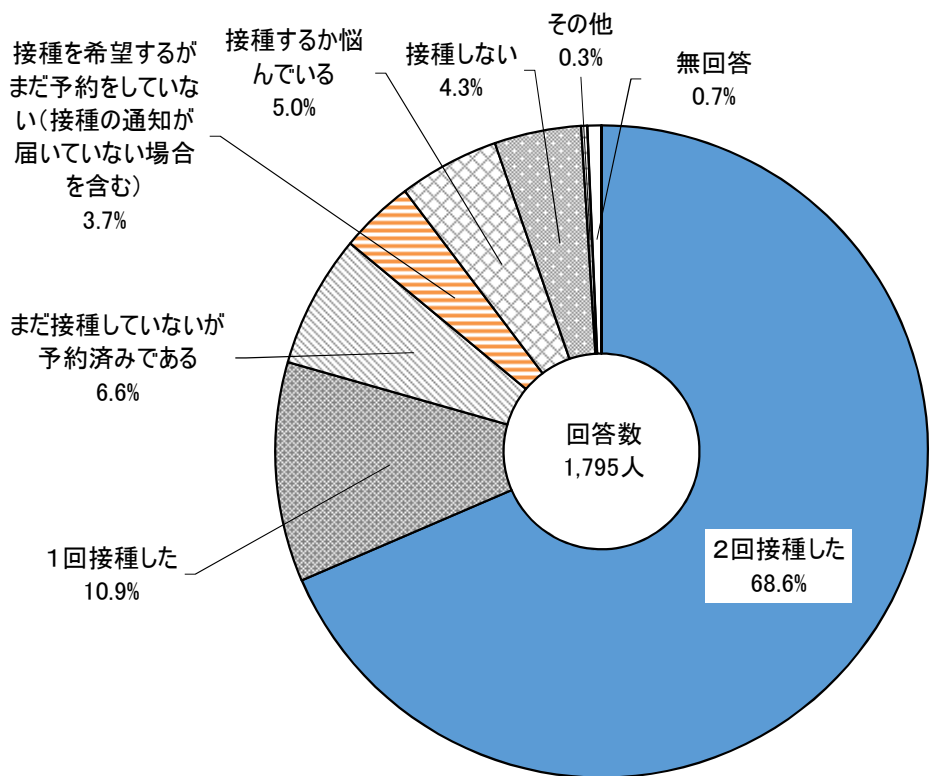
問14 新型コロナウイルスワクチンを接種しましたか。(1つだけ〇印)

【総合】

「2回接種した」が68.6%と1位になっている。

次いで、「1回接種した」が10.9%、「まだ接種していないが予約済みである」が6.6%と続いている。

《総合》



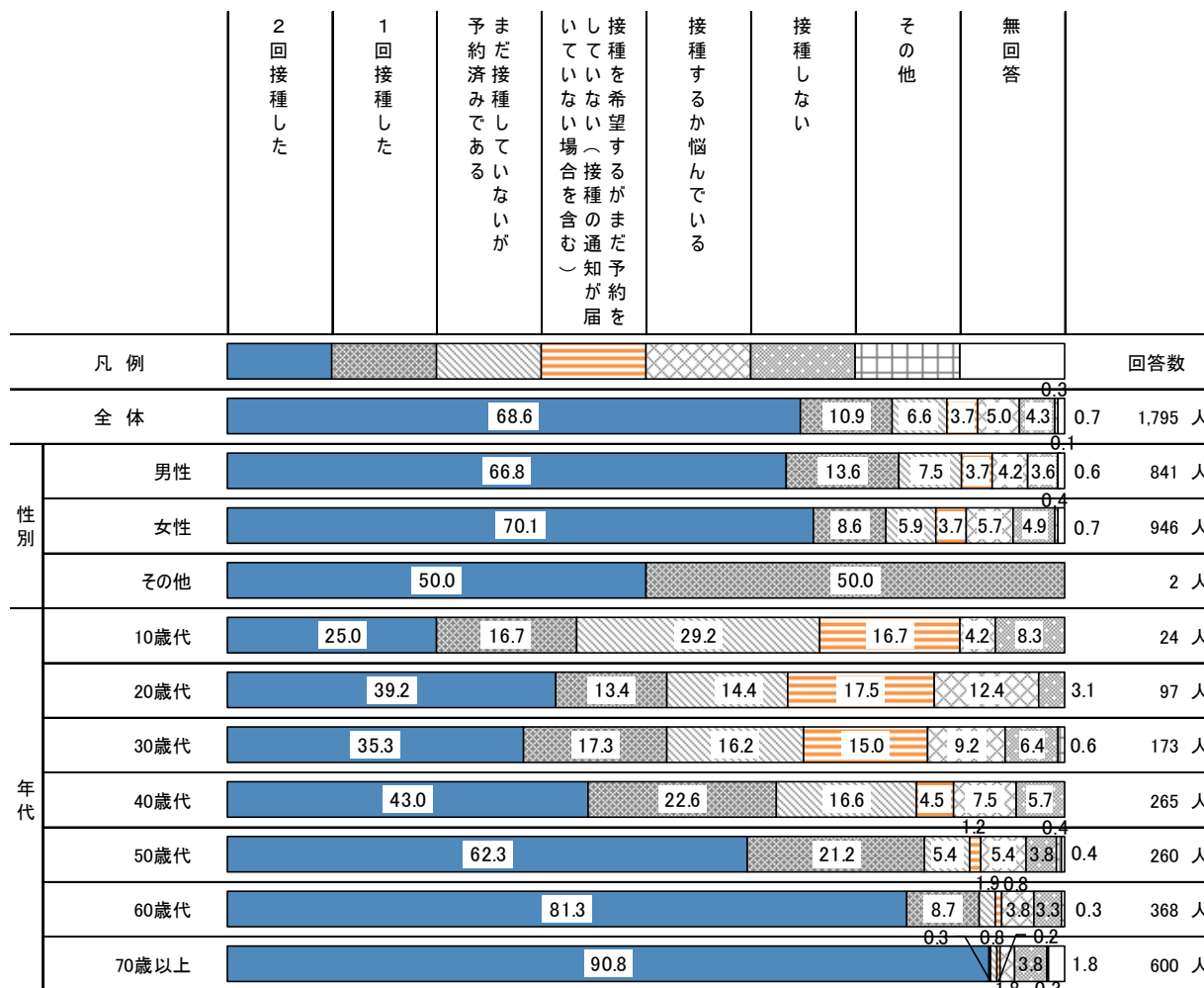
【性別】

男女ともに「2回接種した」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「2回接種した」が最も高く、10歳代では「まだ接種していないが予約済みである」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



グラフ単位：(%)

(4) ワクチン接種を希望しない理由

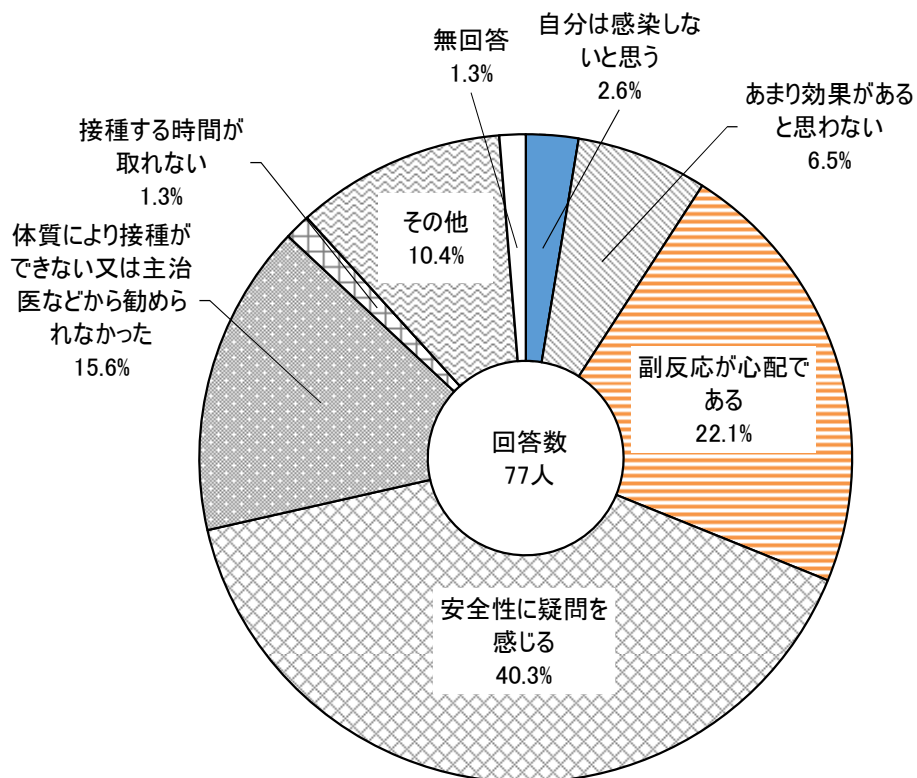
副問1 (問14で「6」を選んだ方のみお答えください。) 希望しない理由は何ですか。
(特に当てはまるもの1つに○印)

【総合】

「安全性に疑問を感じる」が40.3%と1位になっている。

次いで、「副反応が心配である」が22.1%、「体質により接種ができない又は主治医などから勧められなかった」が15.6%と続いている。

《総合》

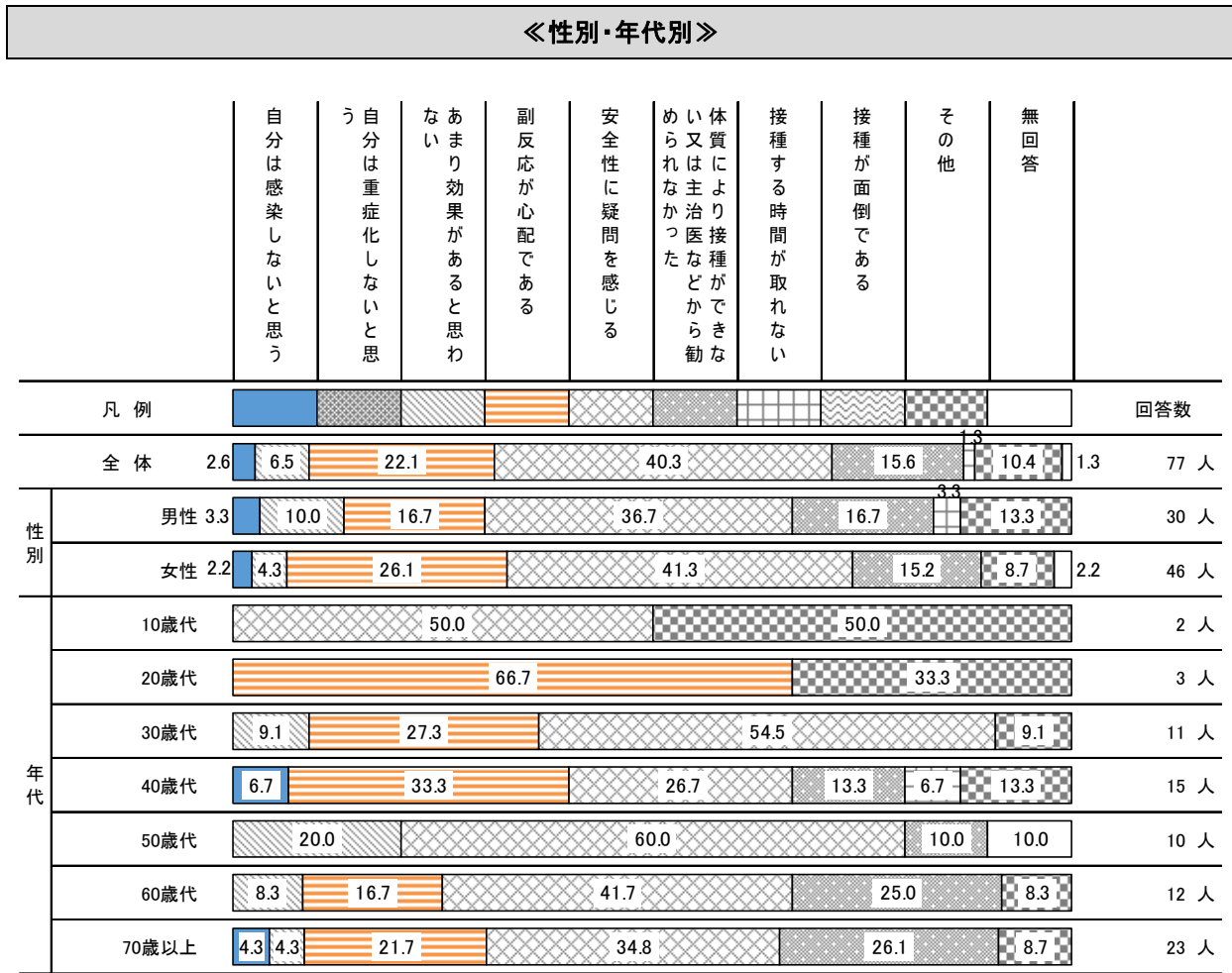


【性別】

男女ともに「安全性に疑問を感じる」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代では同率で「安全性に疑問を感じる」と「その他」が最も高く、20歳代、40歳代では「副反応が心配である」が最も高く、30歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「安全性に疑問を感じる」が最も高くなっている。



3. 自宅でのインターネットの利用状況について

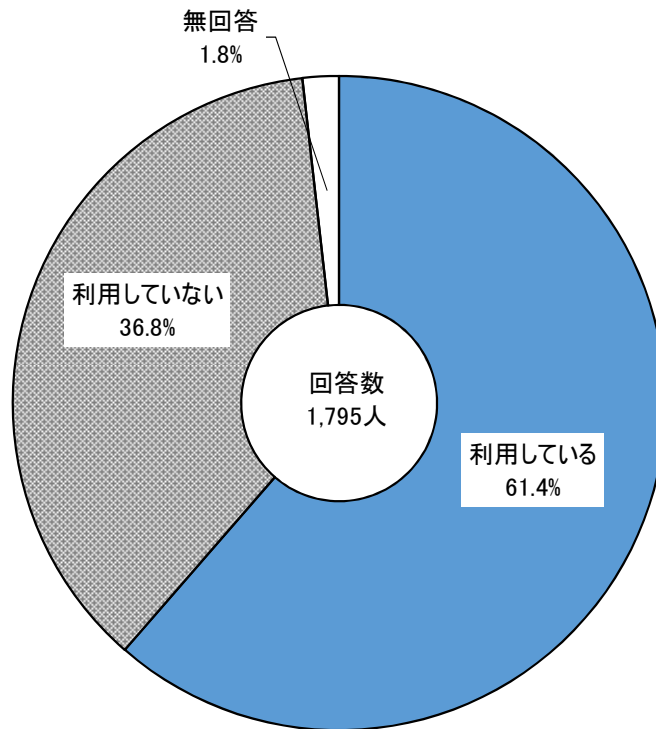
(1) 自宅でのインターネットの利用状況

問 15 あなたは、自宅でインターネットを利用していますか。(1つだけ○印)

【総合】

「利用している」が61.4%となっている。

《総合》



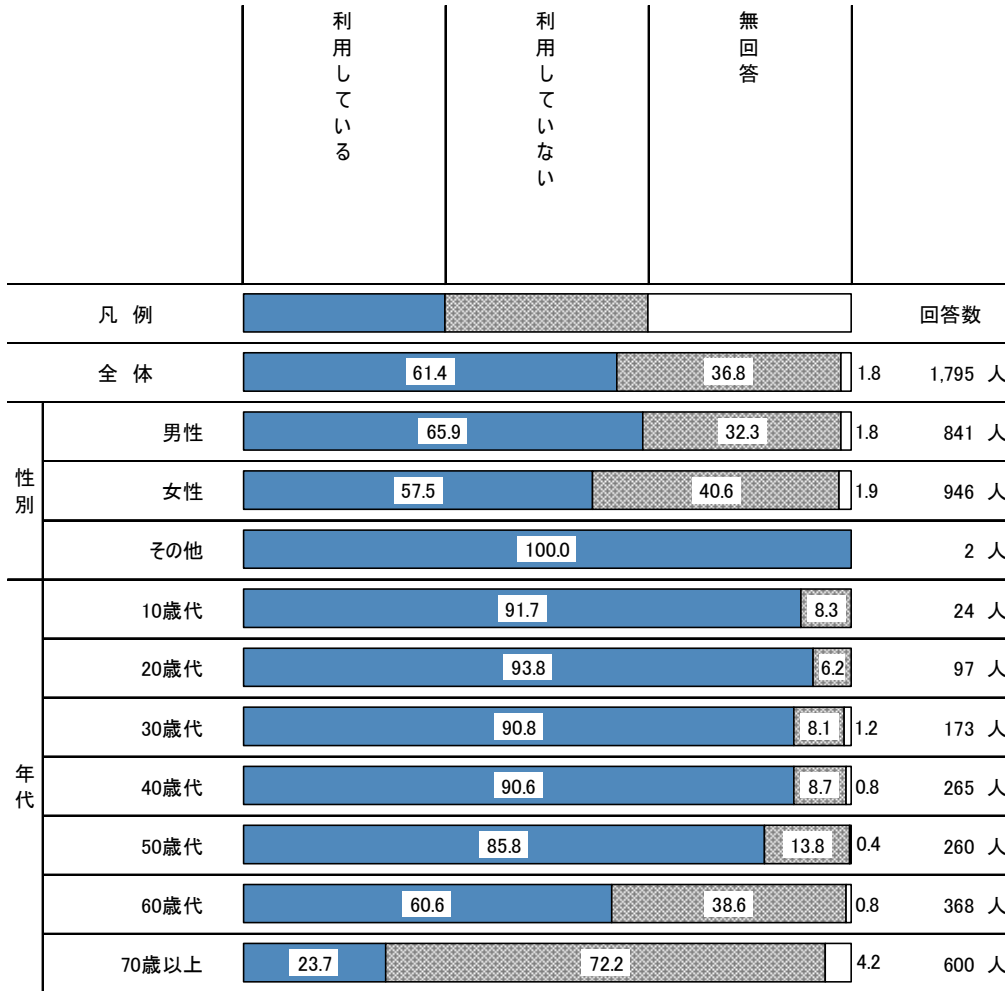
【性別】

男性の方が女性より「利用している」が8.4ポイント高くなっている。

【年代別】

70歳以上では「利用していない」が72.2%となっている。

《性別・年代別》



グラフ単位: (%)

(2)インターネット利用時の機器

副問1(問15で「1」を選んだ方のみお答えください。)自宅でインターネットを利用した機器は何ですか。
(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「スマートフォン」が89.7%と1位になっている。

次いで、「パソコン」が67.4%、「タブレット型端末」が36.1%と続いている。

《総合》

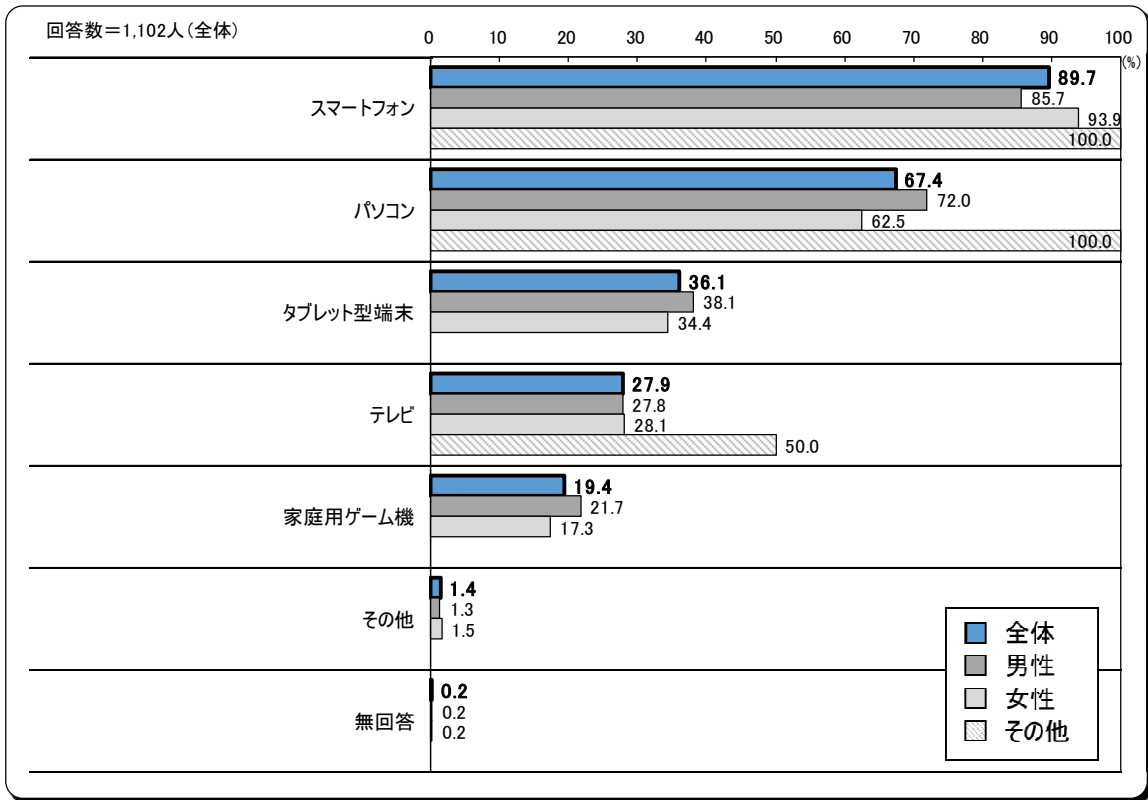
		回答数
全 体	100.0	1,102 人
スマートフォン	89.7	989 人
パソコン	67.4	743 人
タブレット型端末	36.1	398 人
テレビ	27.9	308 人
家庭用ゲーム機	19.4	214 人
その他	1.4	15 人
無回答	0.2	2 人

グラフ単位:(%)

【性別】

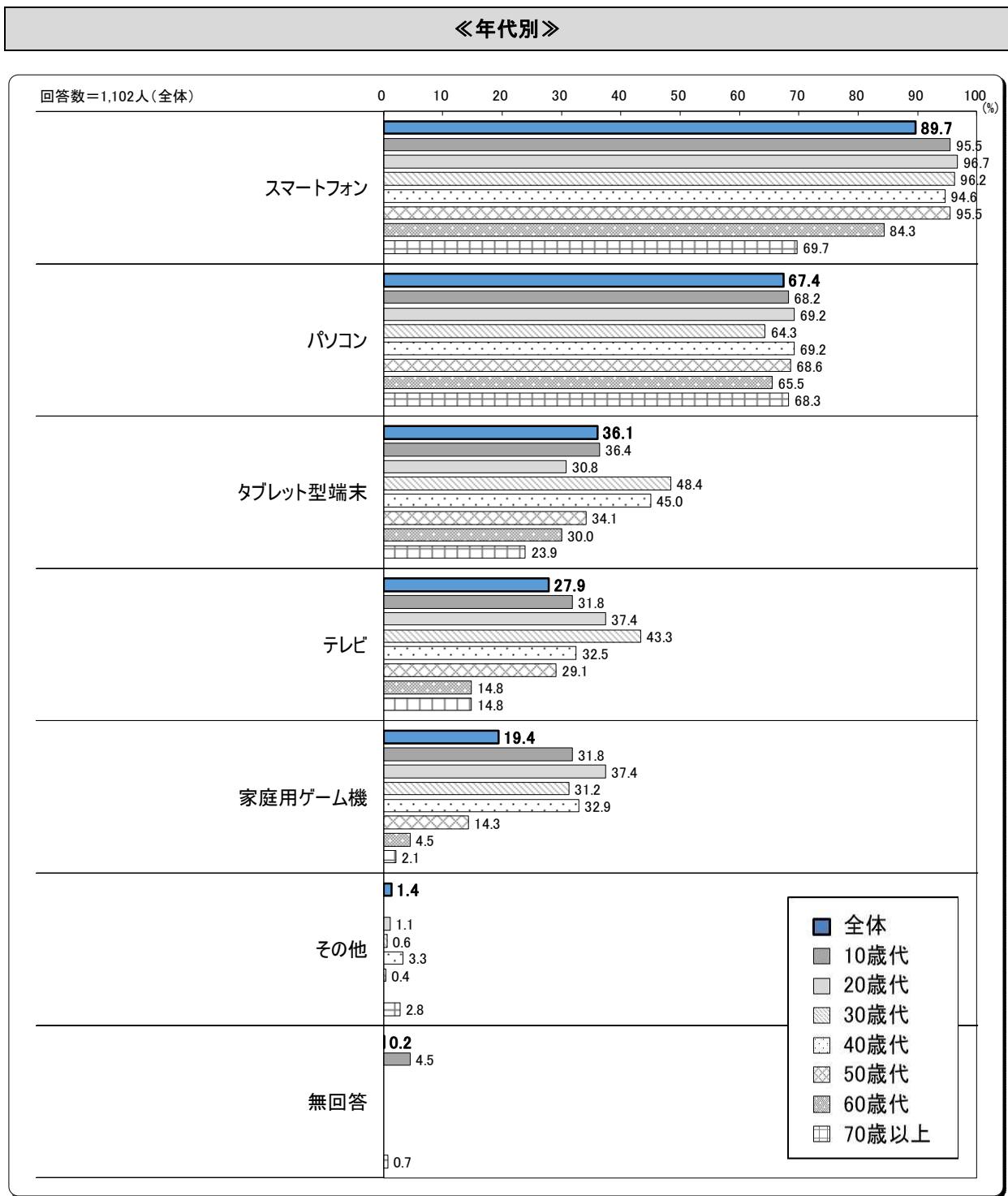
男女ともに「スマートフォン」が最も高くなっている。

◀性別▶



【年代別】

すべての年代で「スマートフォン」が1位になっている。また、「パソコン」はすべての年代で60%台と年代による差が小さい。



(3)インターネットの利用目的

副問2（副問1を回答された方のみお答えください。）
 自宅でインターネットを何のために利用していますか。（当てはまるものすべてに○印）

【総合】

「趣味・娯楽」が87.3%と1位になっている。
 次いで、「通信販売の利用」が54.1%、「交友・付き合い」が42.8%と続いている。

《総合》

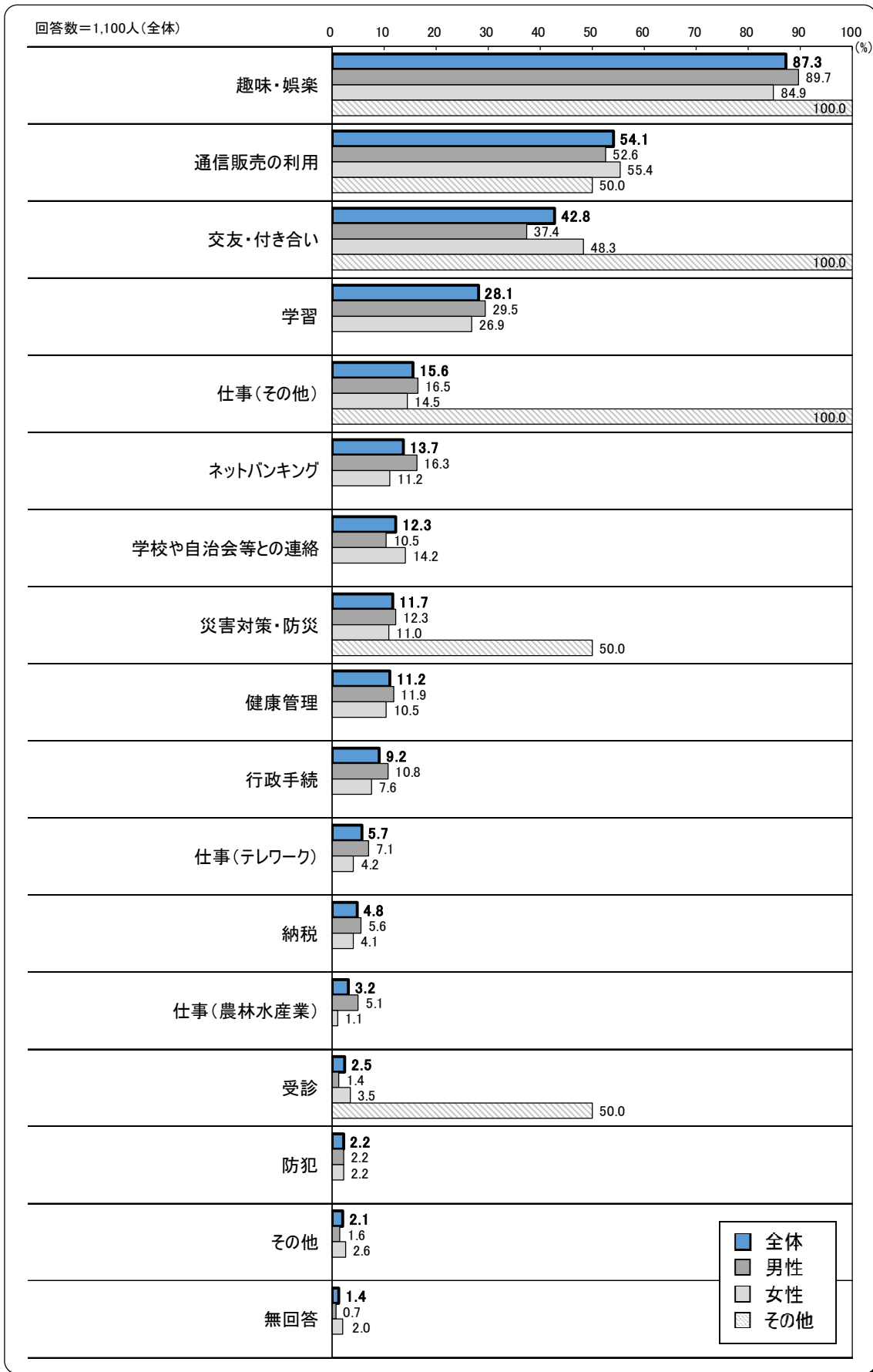
		回答数
全 体	100.0	1,100 人
趣味・娯楽	87.3	960 人
通信販売の利用	54.1	595 人
交友・付き合い	42.8	471 人
学習	28.1	309 人
仕事(その他)	15.6	172 人
ネットバンキング	13.7	151 人
学校や自治会等との連絡	12.3	135 人
災害対策・防災	11.7	129 人
健康管理	11.2	123 人
行政手続	9.2	101 人
仕事(テレワーク)	5.7	63 人
納税	4.8	53 人
仕事(農林水産業)	3.2	35 人
受診	2.5	28 人
防犯	2.2	24 人
その他	2.1	23 人
無回答	1.4	15 人

グラフ単位：(%)

【性別】

男女ともに「趣味・娯楽」が最も高くなっている。

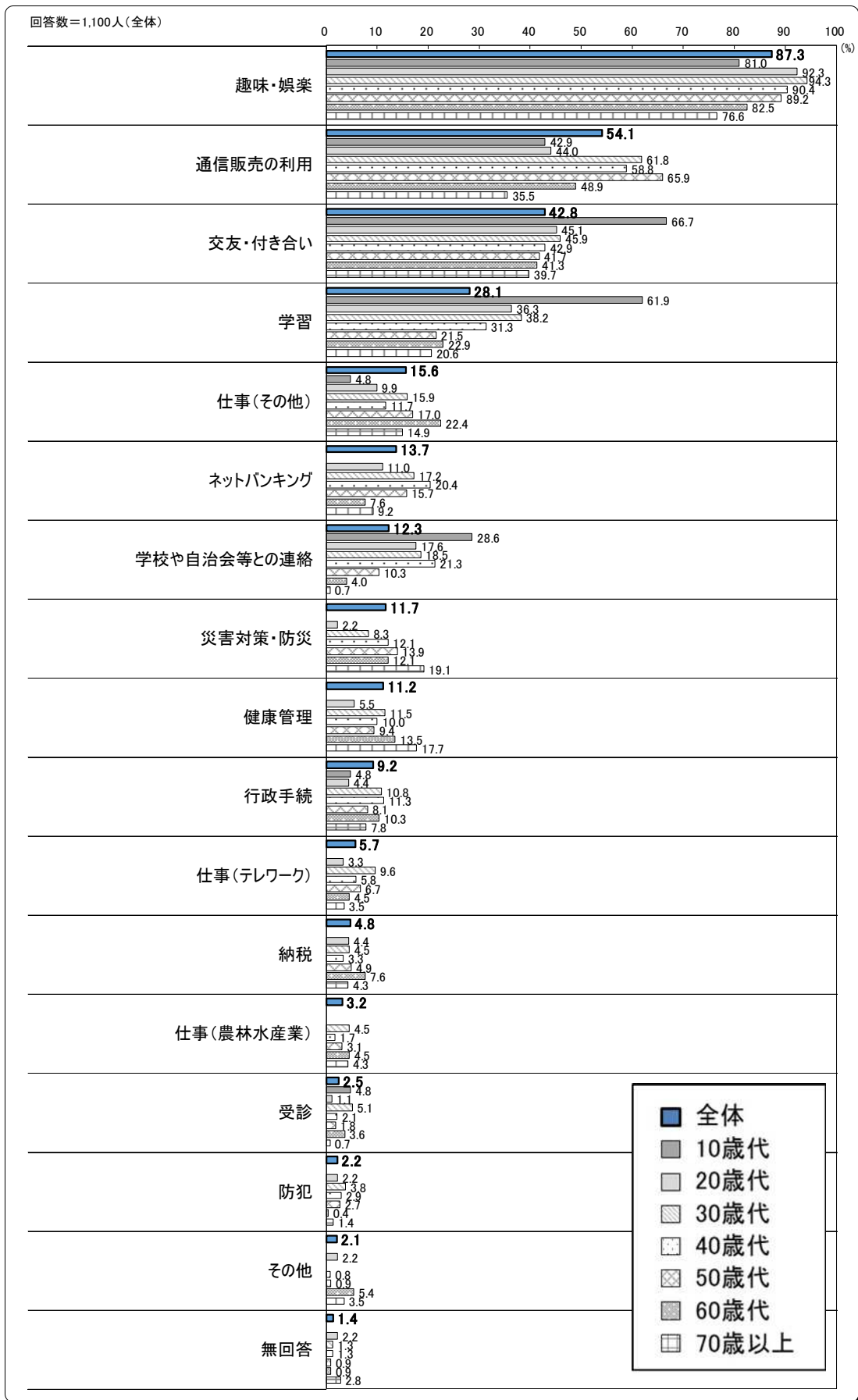
◀性別▶



【年代別】

すべての年代で「趣味・娯楽」が1位になっている。また、「通信販売の利用」は30歳代、40歳代、50歳代、「交友・付き合い」、「学習」は10歳代で高くなっている。

《年代別》



(4)インターネット利用での生活の変化

副問3 (副問2を回答された方のみお答えください)

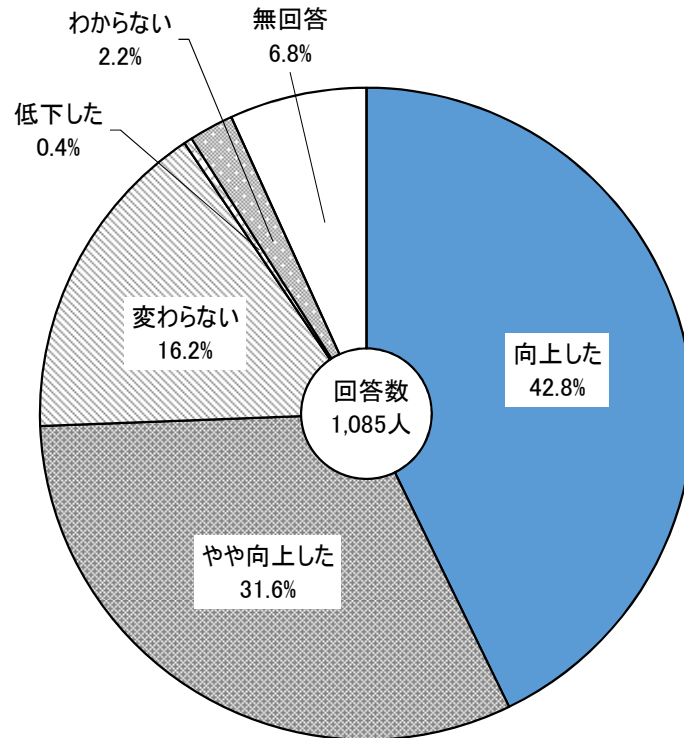
自宅でのインターネット利用によって、生活の質や満足度が向上しましたか。

(当てはまるもの一つに○印)

【総合】

「向上した」が42.8%、「やや向上した」が31.6%で、7割以上が向上したと感じている。

《総合》

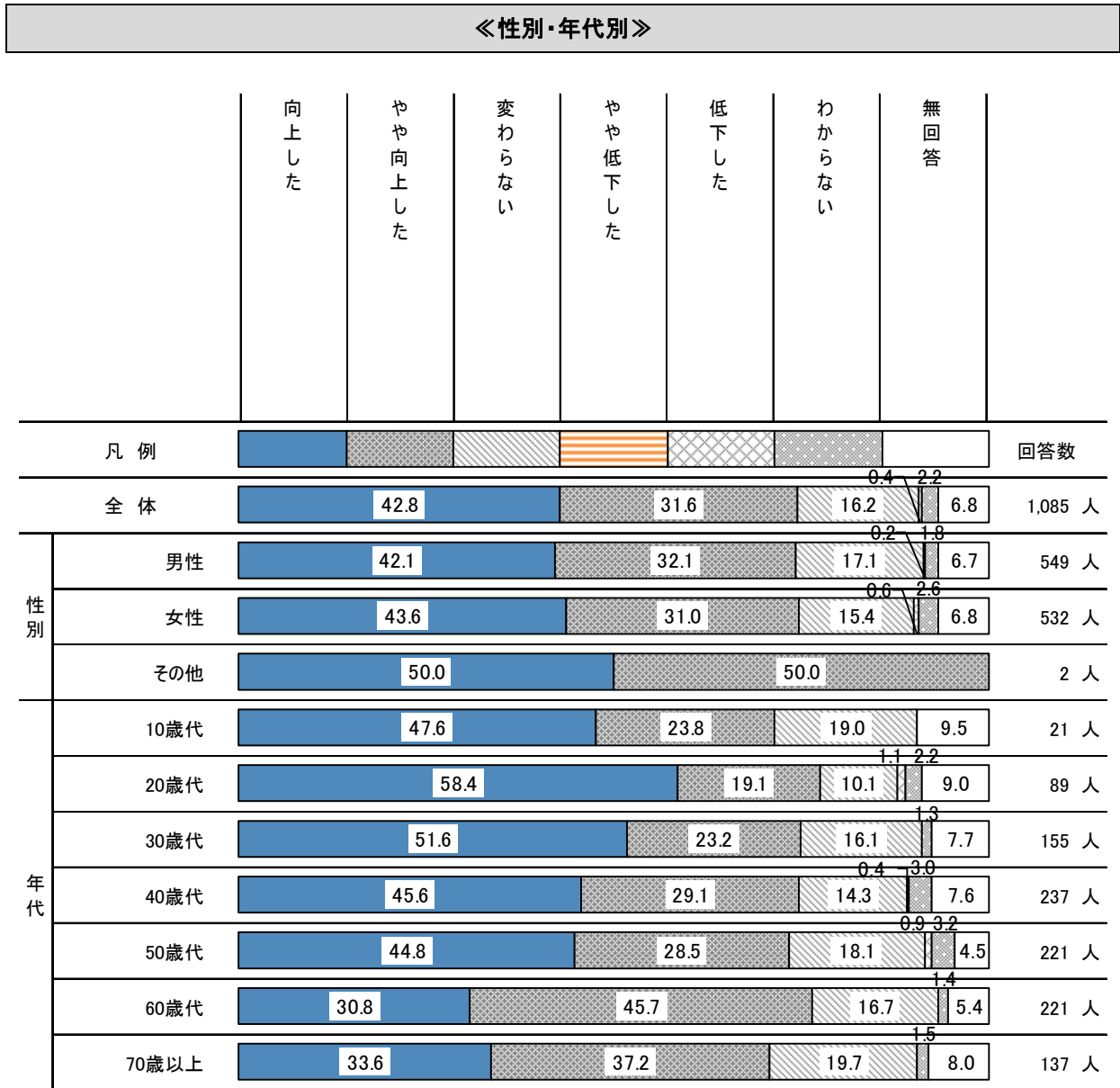


【性別】

男女ともに「向上した」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代では「向上した」が、60歳代、70歳以上では「やや向上した」が最も高くなっている。



グラフ単位: (%)

(5)インターネットを利用していない理由

副問4(問 15 で「2」を選んだ方のみお答えください。)
 インターネットを利用していないのはなぜですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「利用できる機器がない」が43.9%と1位になっている。

次いで、「そもそもその必要性を感じない」が40.3%、「インターネット利用によるトラブルに巻き込まれたくない」が27.0%と続いている。

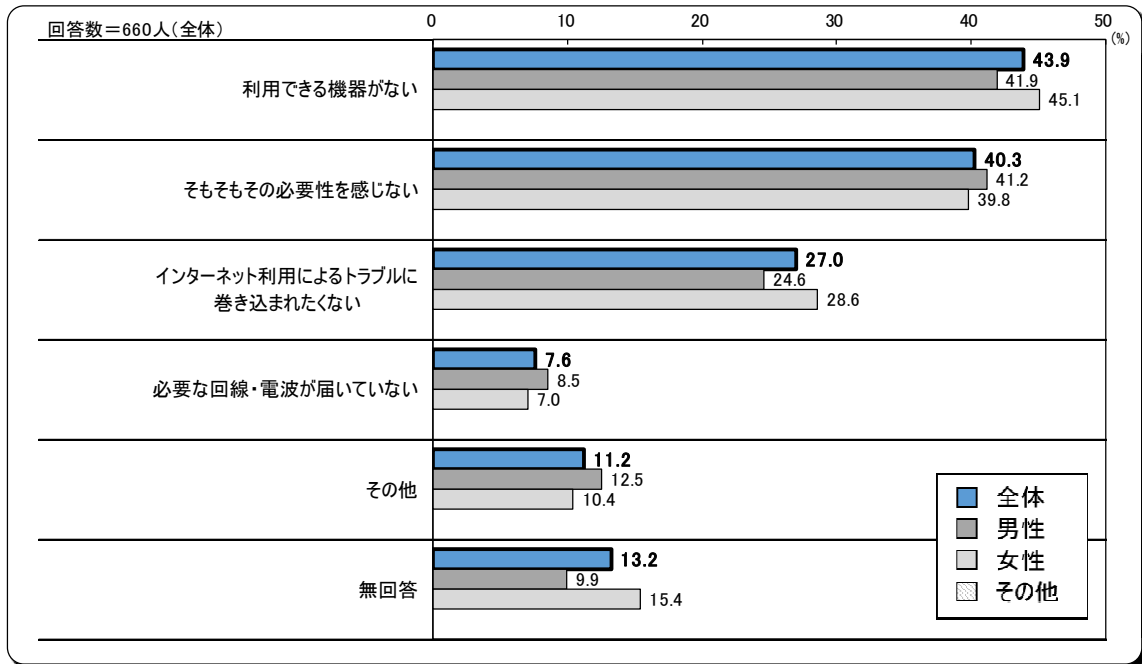
《総合》		
		回答数
全 体	100.0	660 人
利用できる機器がない	43.9	290 人
そもそもその必要性を感じない	40.3	266 人
インターネット利用によるトラブルに巻き込まれたくない	27.0	178 人
必要な回線・電波が届いていない	7.6	50 人
その他	11.2	74 人
無回答	13.2	87 人

グラフ単位：(%)

【性別】

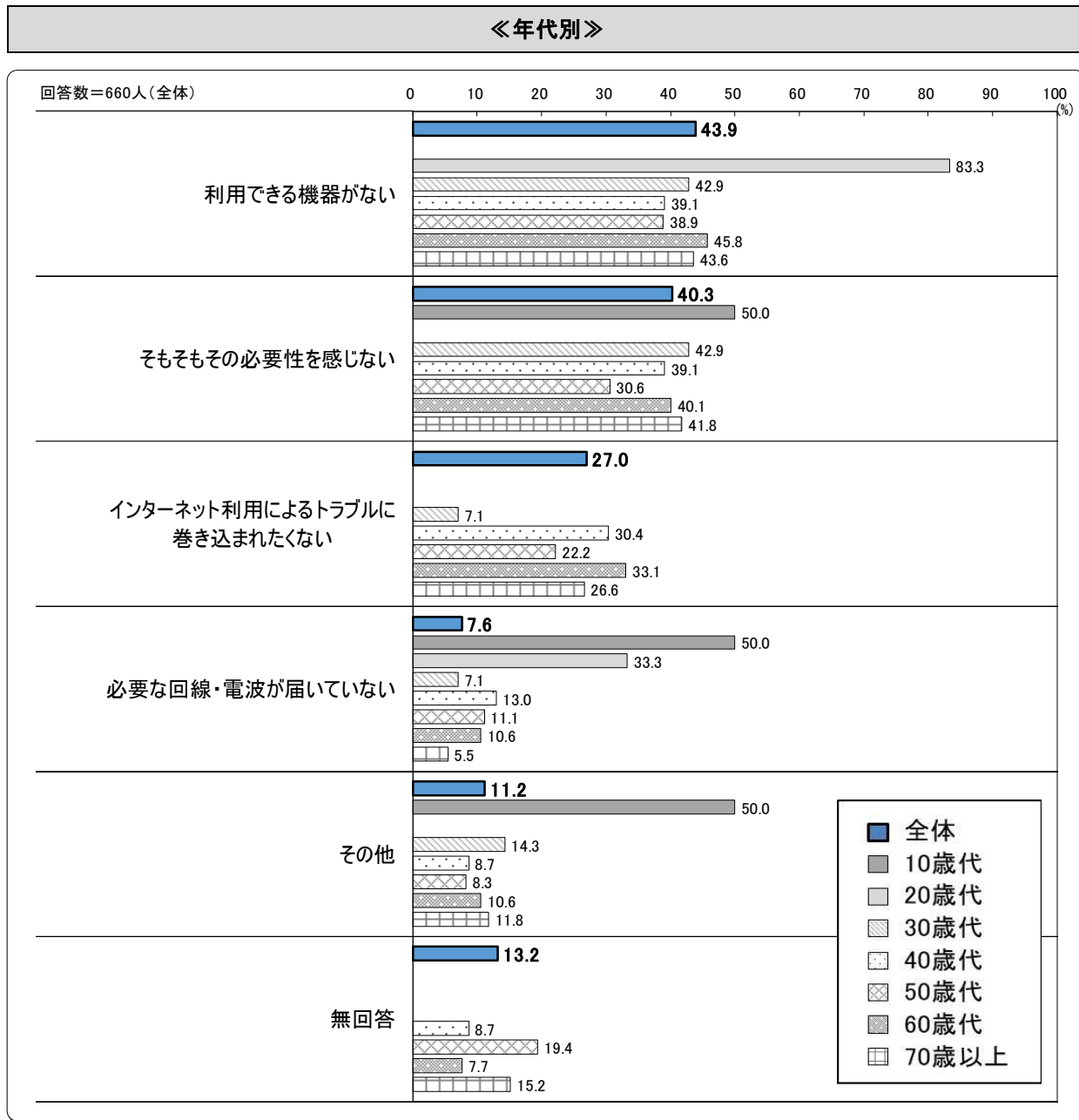
男女ともに「利用できる機器がない」が最も高くなっている。

◀性別▶



【年代別】

10歳代では同率で「そもそもその必要性を感じない」と「必要な回線・電波が届いていない」が最も高く、20歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「利用できる機器がない」が、これと同率で30歳代、40歳代では「そもそもその必要性を感じない」が最も高くなっている。



4. 在宅療養体制の充実について

(1) 家族の在宅での長期療養や介護

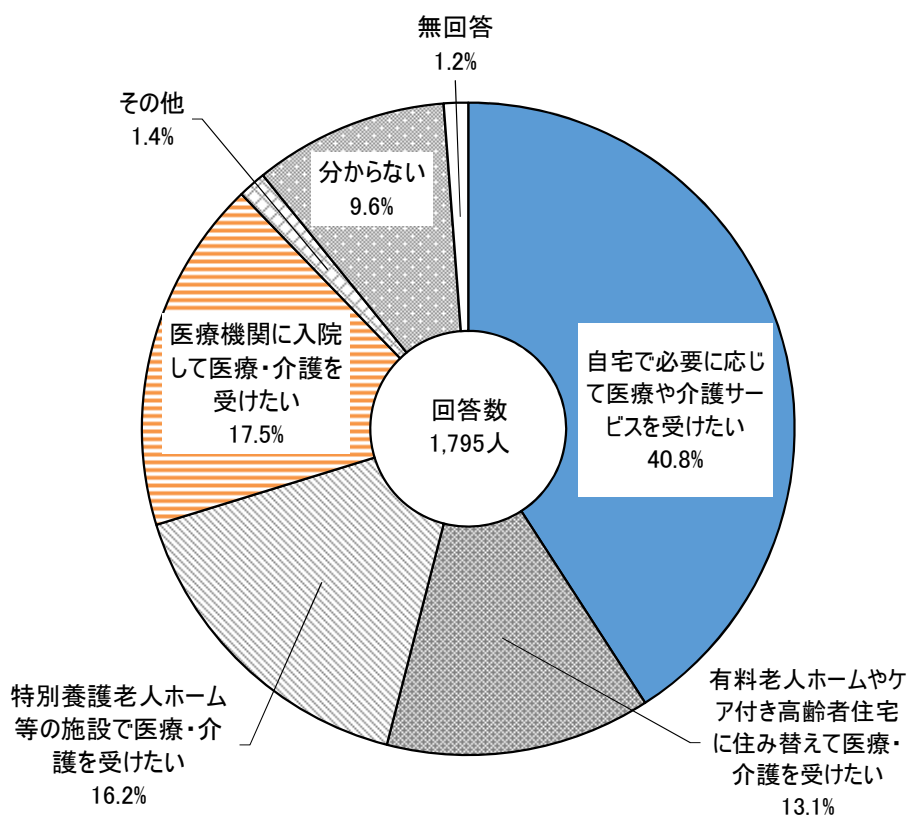
問 16 あなたや家族の方が長期療養や介護が必要となった場合、どう過ごしたいですか。
(1つだけ○印)

【総合】

「自宅で必要に応じて医療や介護サービスを受けたい」が40.8%と1位になっている。

次いで、「医療機関に入院して医療・介護を受けたい」が17.5%、「特別養護老人ホーム等の施設で医療・介護を受けたい」が16.2%と続いている。

《総合》

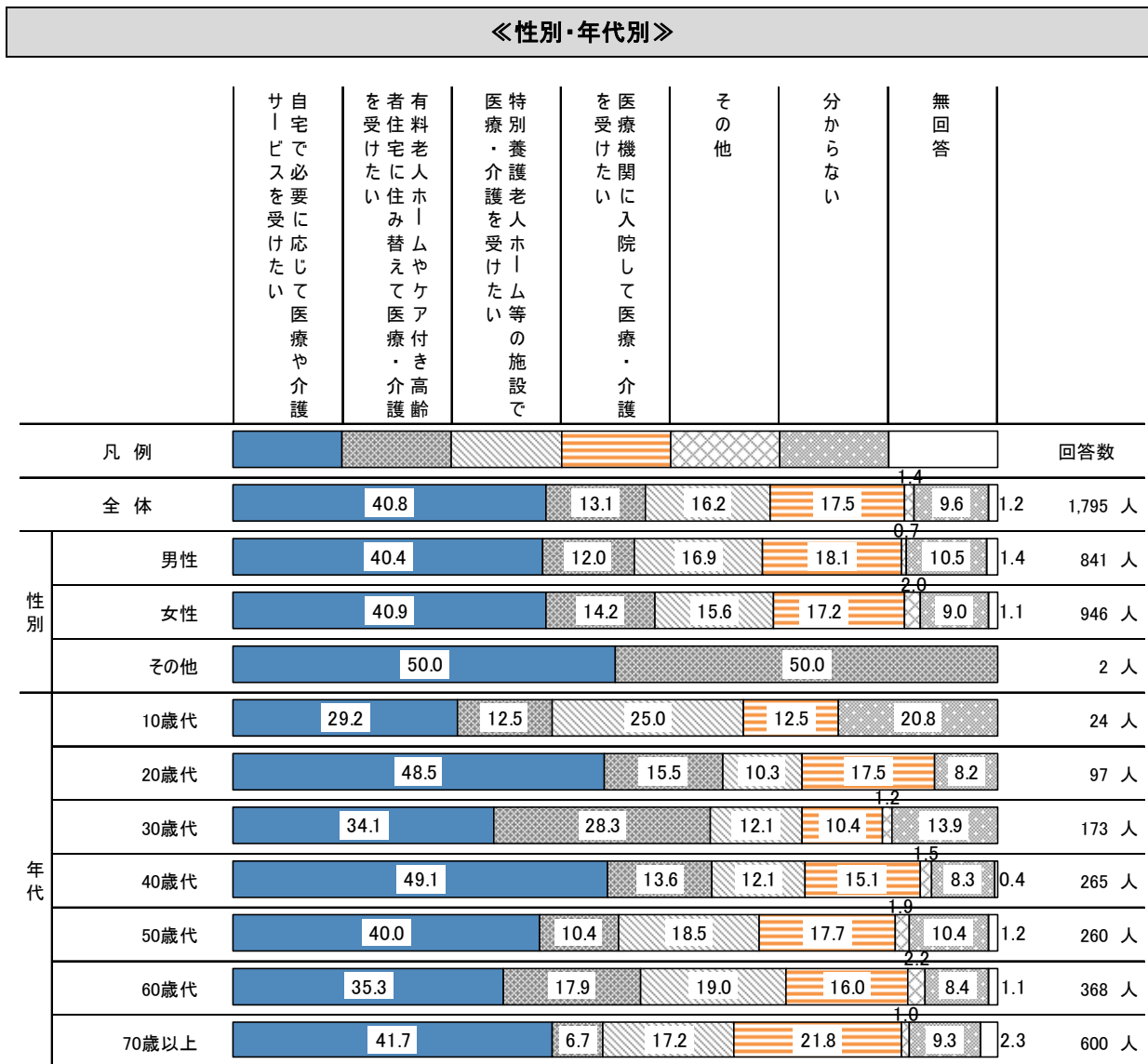


【性別】

男女ともに「総合」とほぼ同じになっている。

【年代別】

すべての年代で「自宅で必要に応じて医療や介護サービスを受けたい」が最も高くなっている。



グラフ単位：(%)

(2)在宅生活を継続するために必要な支援やサービス

問 17 今後あなたや家族の方が長期療養や介護が必要となった場合、在宅での生活を継続するために、
 どのような支援やサービスが必要と思いますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「訪問診療」が79.3%と1位になっている。

次いで、「訪問介護（ヘルパー）などの介護サービス」が77.8%、「訪問看護」が71.6%と続いている。

《総合》

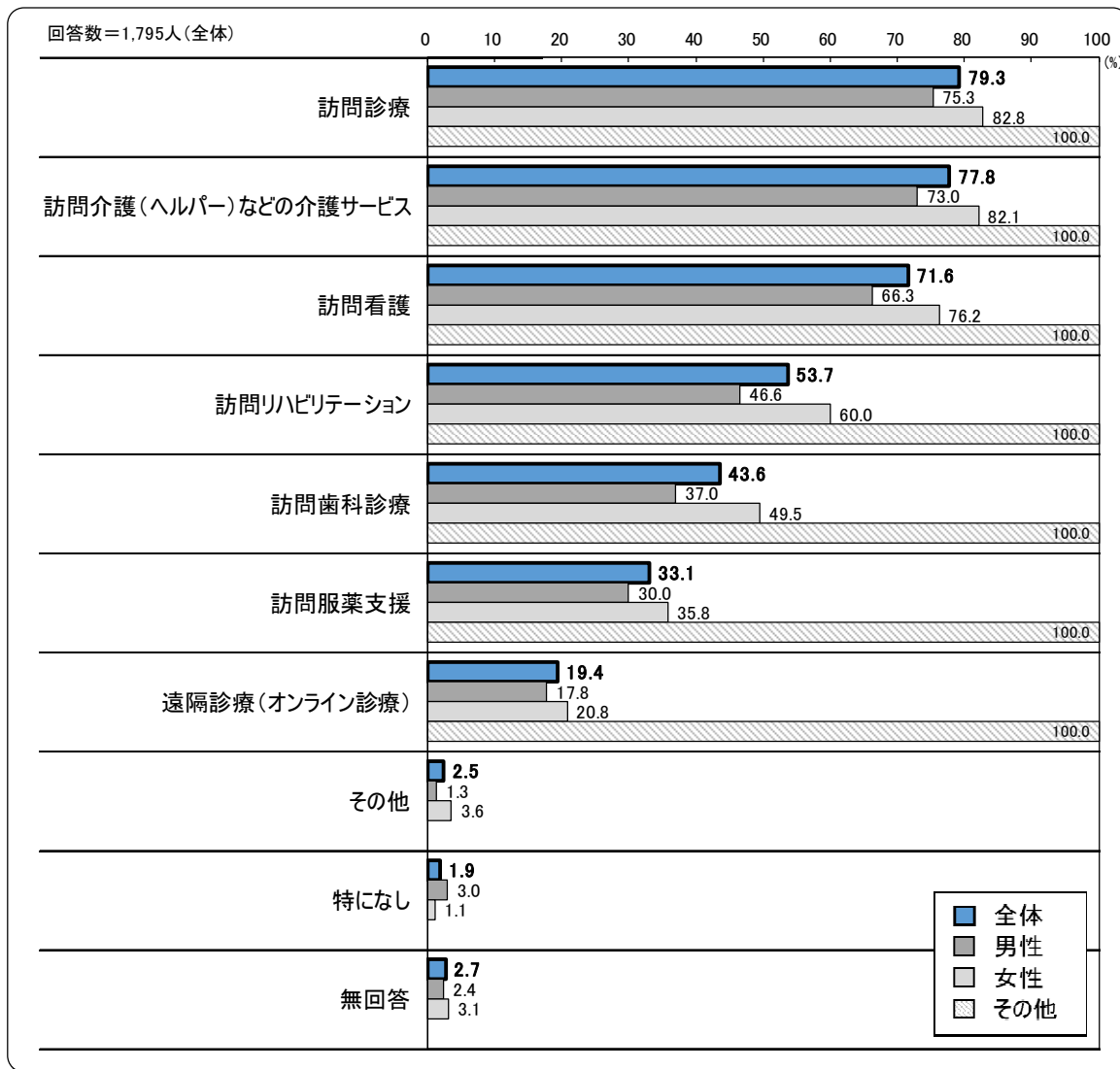
		回答数
全 体	100.0	1,795 人
訪問診療	79.3	1,424 人
訪問介護(ヘルパー)などの介護サービス	77.8	1,397 人
訪問看護	71.6	1,286 人
訪問リハビリテーション	53.7	964 人
訪問歯科診療	43.6	783 人
訪問服薬支援	33.1	595 人
遠隔診療(オンライン診療)	19.4	349 人
その他	2.5	45 人
特になし	1.9	35 人
無回答	2.7	49 人

グラフ単位：(%)

【性別】

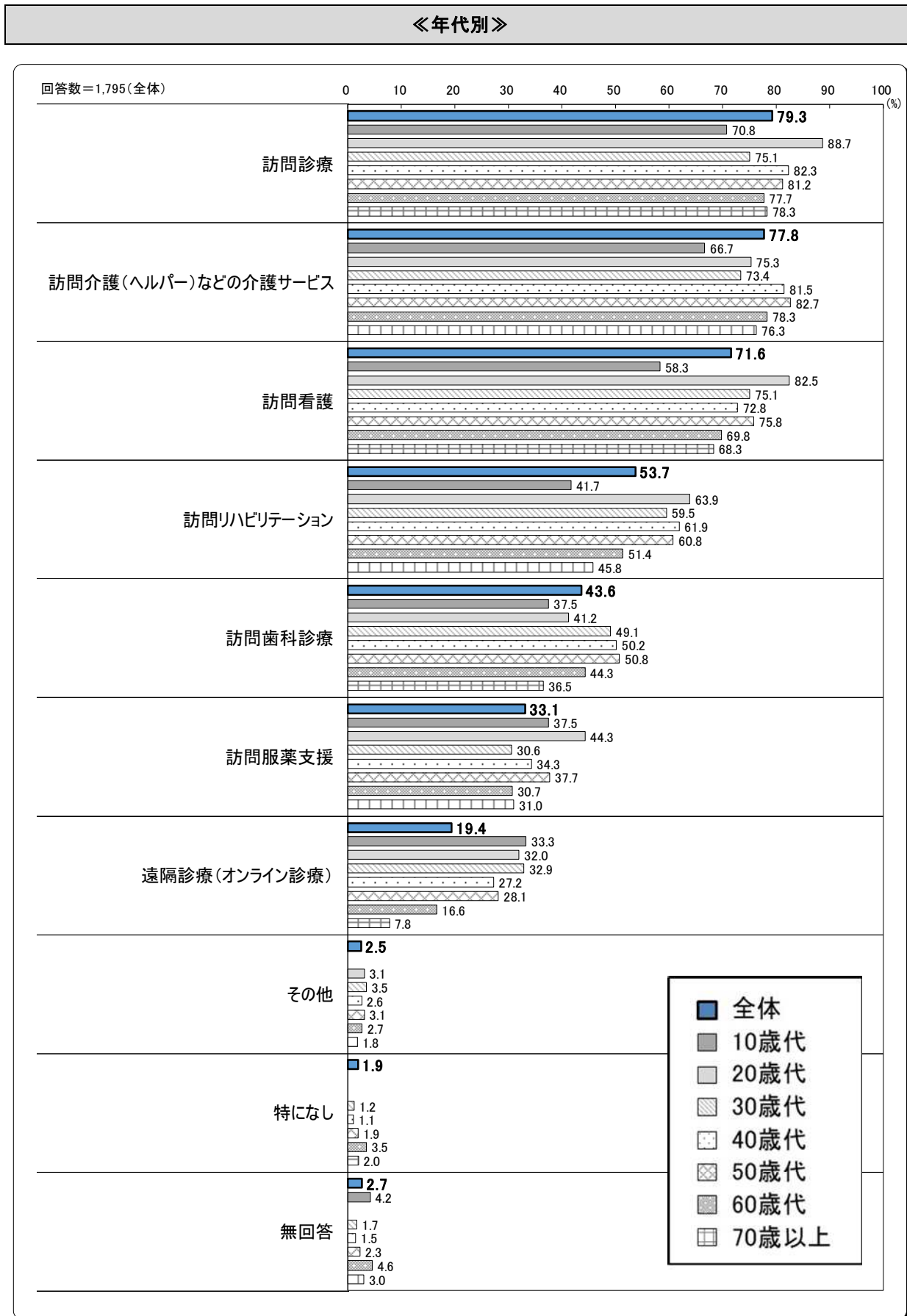
男女ともに「訪問診療」が最も高く、僅差で「訪問介護（ヘルパー）などの介護サービス」が続いている。

◀性別▶



【年代別】

10歳代、20歳代、40歳代、70歳以上では「訪問診療」が最も高く、30歳代ではこれと同率で「訪問看護」が最も高く、50歳代、60歳代では「訪問介護（ヘルパー）などの介護サービス」が最も高くなっている。



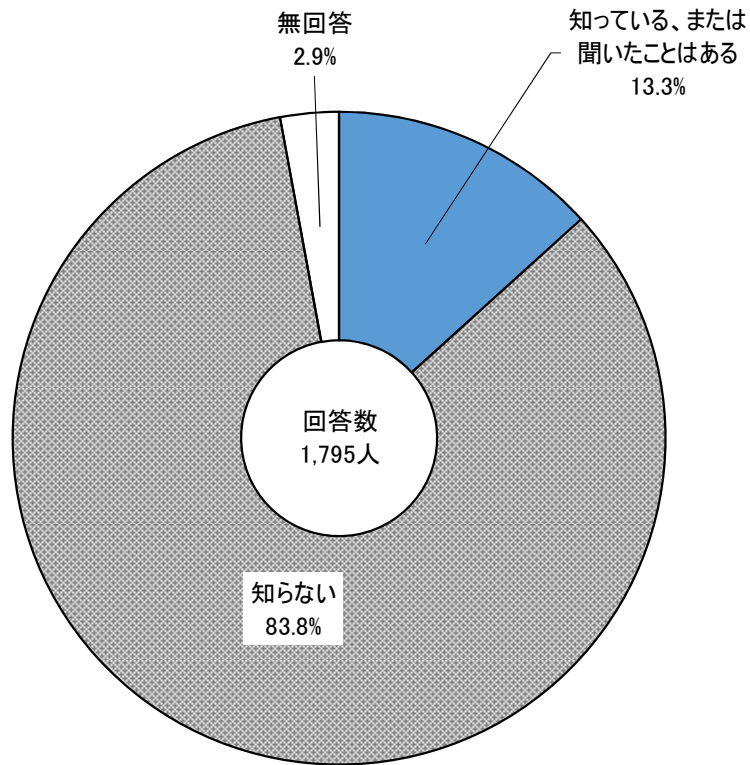
(3) 人生会議(ACP)を知っているか

問 18 人生会議(アドバンス・ケア・プランニング(ACP))を知っていますか。(1つだけ〇印)

【総合】

「知らない」が83.8%となっている。

《総合》

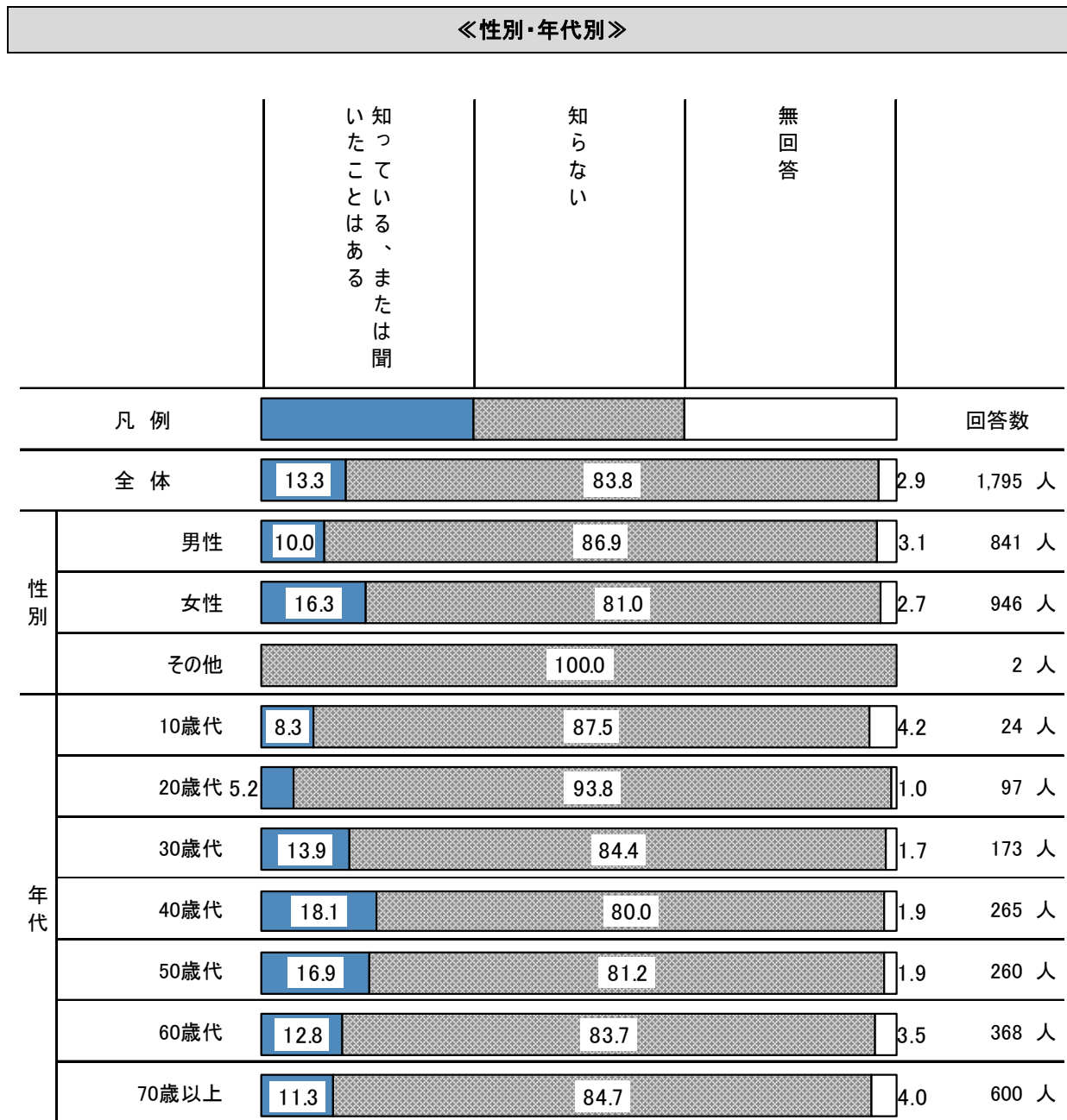


【性別】

女性の方が「知っている、または聞いたことがある」が高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「知らない」が8割以上となっている。



グラフ単位：(%)

(4)情報入手先

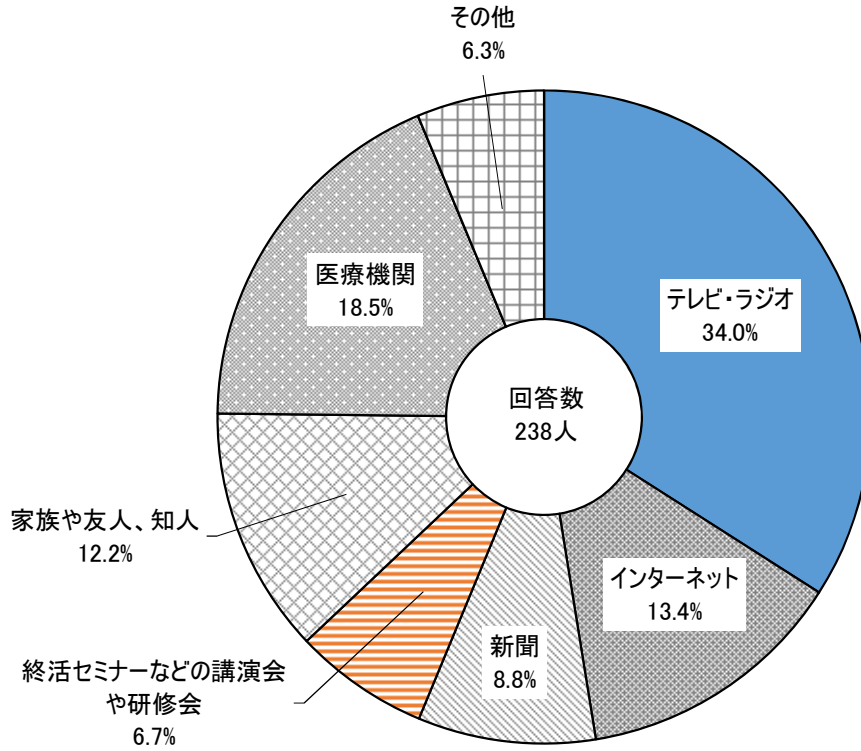
副問1(問18で「1」を選んだ方のみお答えください)
どのようにして人生会議(アドバンス・ケア・プランニング(ACP))を知りましたか。(1つだけ○印)

【総合】

「テレビ・ラジオ」が34.0%と1位になっている。

次いで、「医療機関」が18.5%、「インターネット」が13.4%と続いている。

《総合》

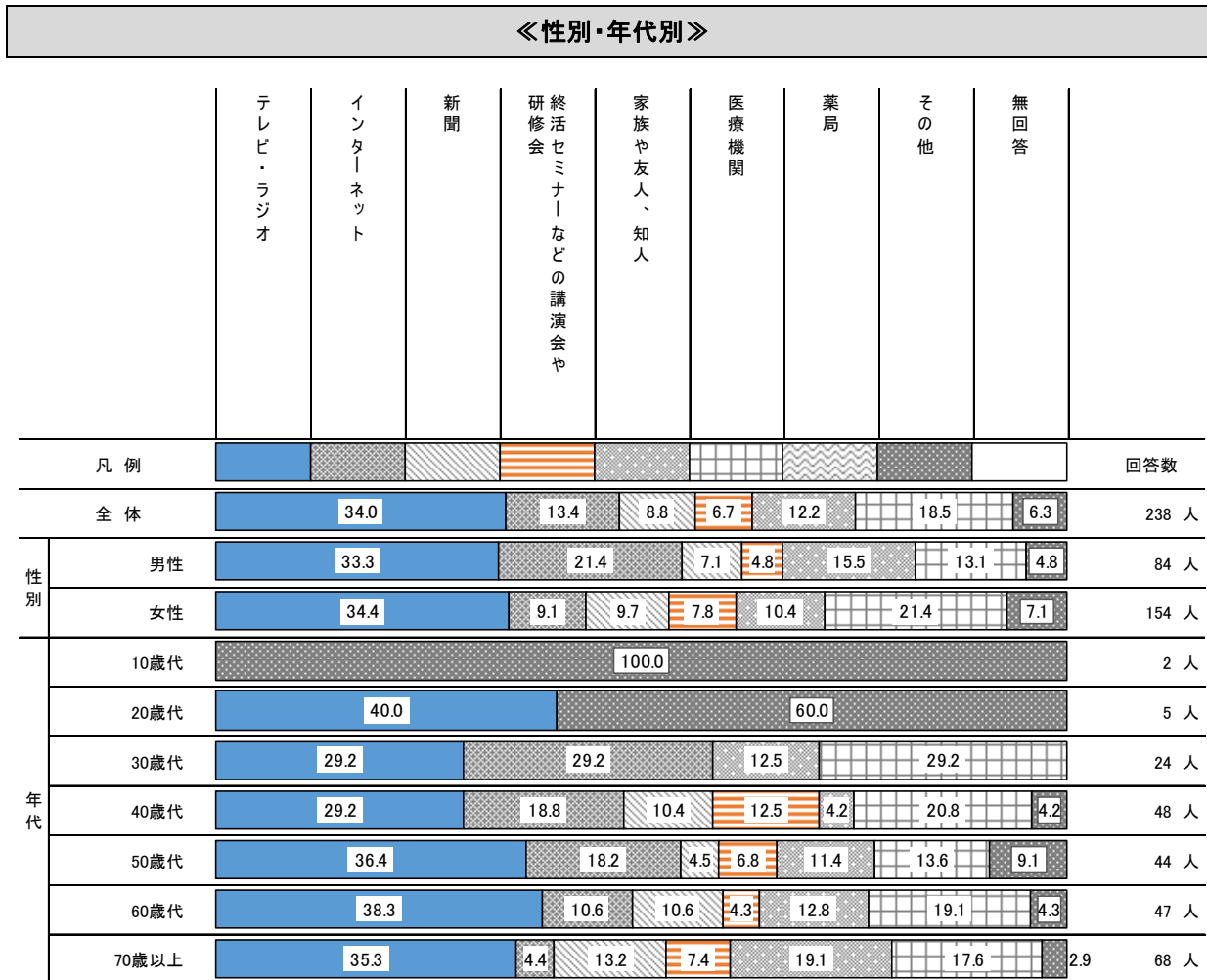


【性別】

男性では「インターネット」、女性では「医療機関」が、「テレビ・ラジオ」に続いて2番目に高くなっている。

【年代別】

30歳代では同率で「テレビ・ラジオ」と「インターネット」と「医療機関」が最も高く、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「テレビ・ラジオ」が最も高くなっている。



グラフ単位：(%)

(5) 人生の最終段階

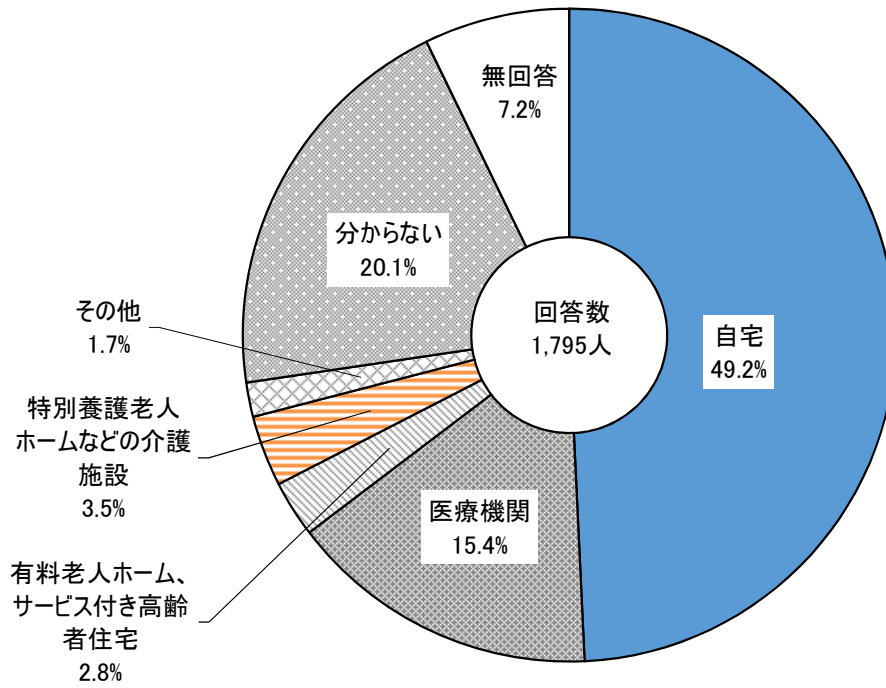
問 19 人生の最終段階をどこで迎えたいと思いますか。(1つだけ○印)

【総合】

「自宅」が49.2%と1位になっている。

次いで、「医療機関」が15.4%、「特別養護老人ホームなどの介護施設」が3.5%と続いている。

《総合》

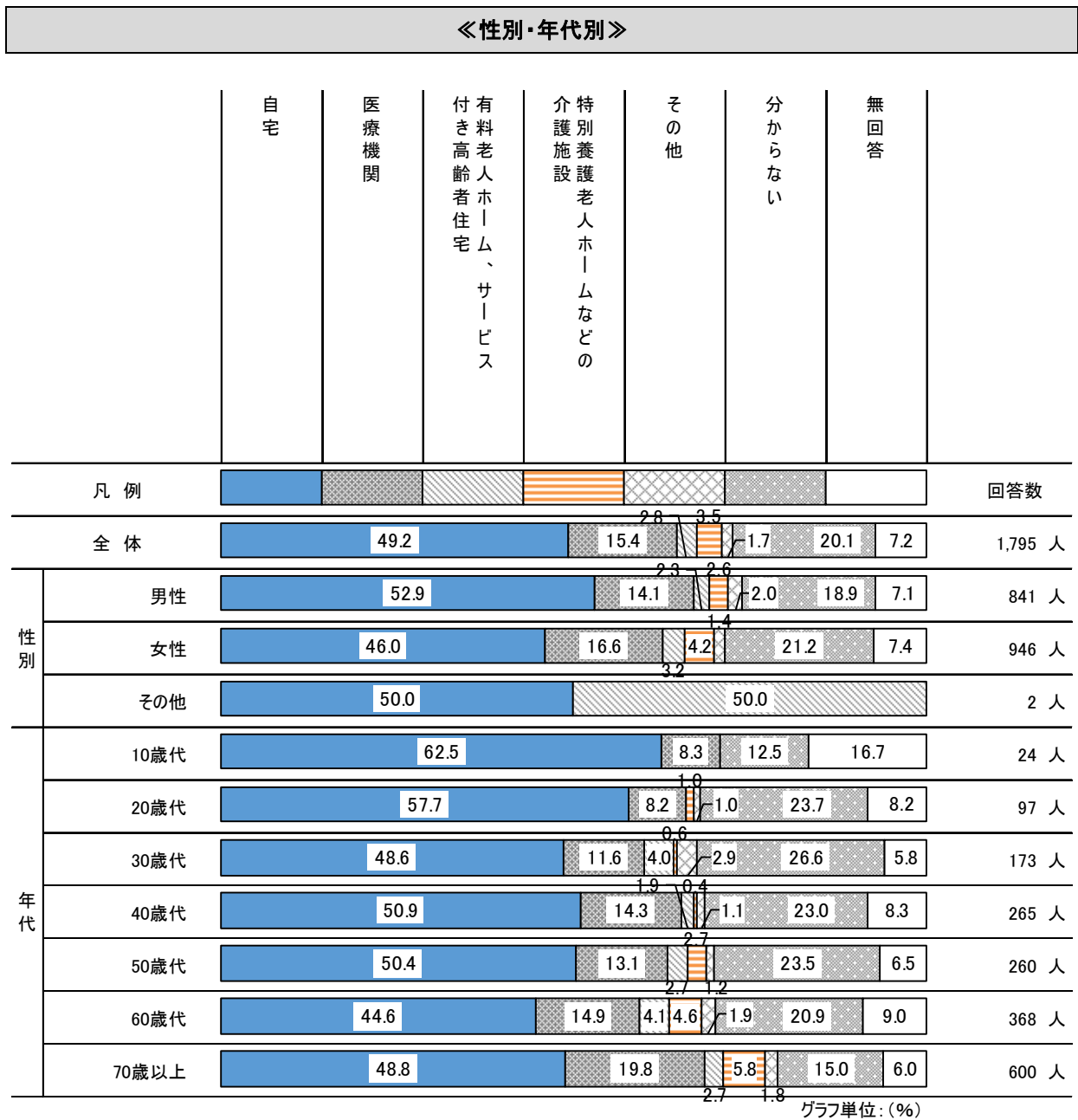


【性別】

男性の方が「自宅」と希望する比率が6.9ポイント高くなっている。

【年代別】

年代が上がるほど「医療機関」の比率が高くなる傾向がみられる。



5. 住み慣れた地域で暮らし続けることができる県づくりについて

(1) 地域での支え合い

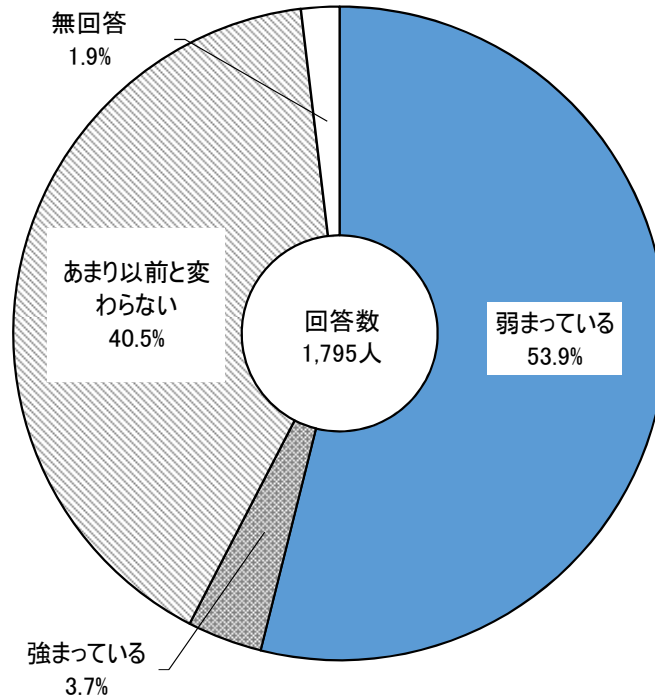
問 20 地域での支え合いの力は、以前と比べてどうなっていると感じますか。(1つだけ○印)

【総合】

「弱まっている」が53.9%と半数を超えている。

次いで、「あまり以前と変わらない」が40.5%、「強まっている」が3.7%となっている。

《総合》

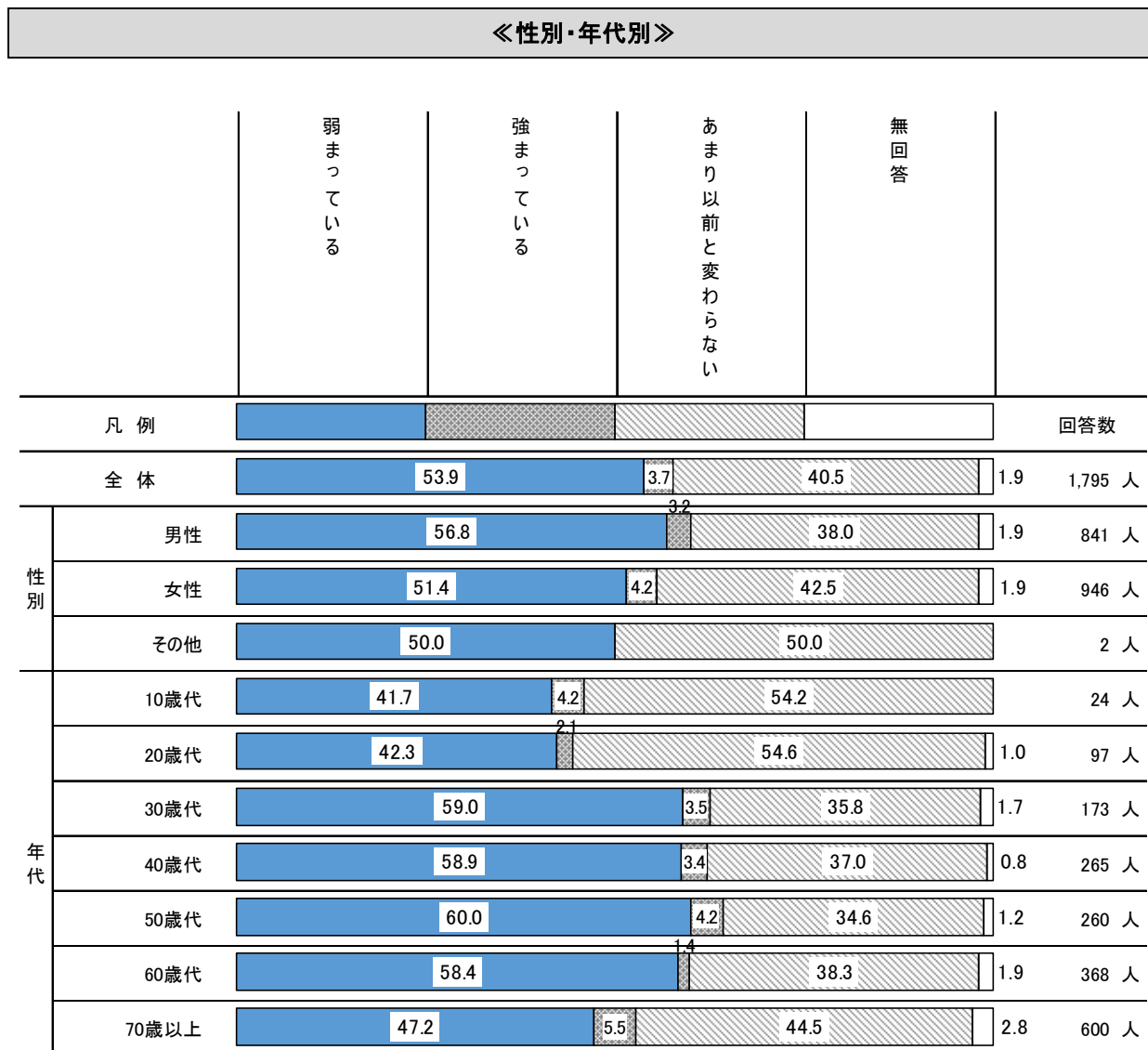


【性別】

男性の方が「弱まっている」と感じる比率が5.4ポイント高くなっている。

【年代別】

10歳代、20歳代では「弱まっている」より「あまり以前と変わらない」の方が高く、その他の年代では「弱まっている」の方が高くなっている。



グラフ単位：(%)

(2) 家族、親戚以外の相談場所

問 21 日常生活や地域での困りごとを解決していこうとする場合、家族や親せき以外で、まずはどこに相談しますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「お住まいの市町村窓口」が40.3%と1位になっている。

次いで、「近所の人」が33.0%、「自治会長や町内会長等」が20.1%と続いており、一方で「どこにも相談しない」が7.8%となっている。

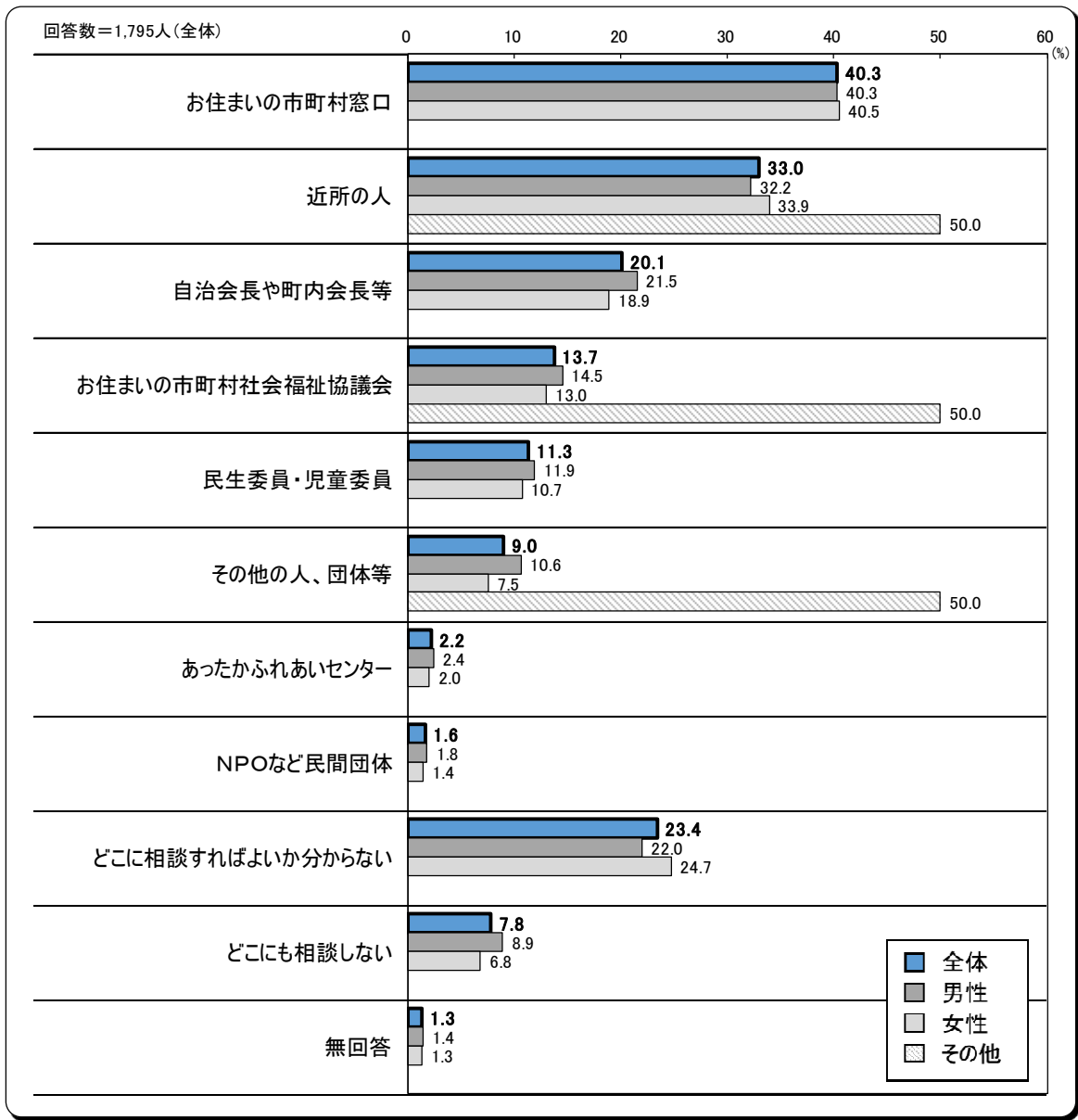
《総合》		回答数
全 体	100.0	1,795 人
お住まいの市町村窓口	40.3	723 人
近所の人	33.0	593 人
自治会長や町内会長等	20.1	361 人
お住まいの市町村社会福祉協議会	13.7	246 人
民生委員・児童委員	11.3	203 人
その他の人、団体等	9.0	162 人
あったかられあいセンター	2.2	39 人
NPOなど民間団体	1.6	28 人
どこに相談すればよいか分からない	23.4	420 人
どこにも相談しない	7.8	140 人
無回答	1.3	24 人

グラフ単位: (%)

【性別】

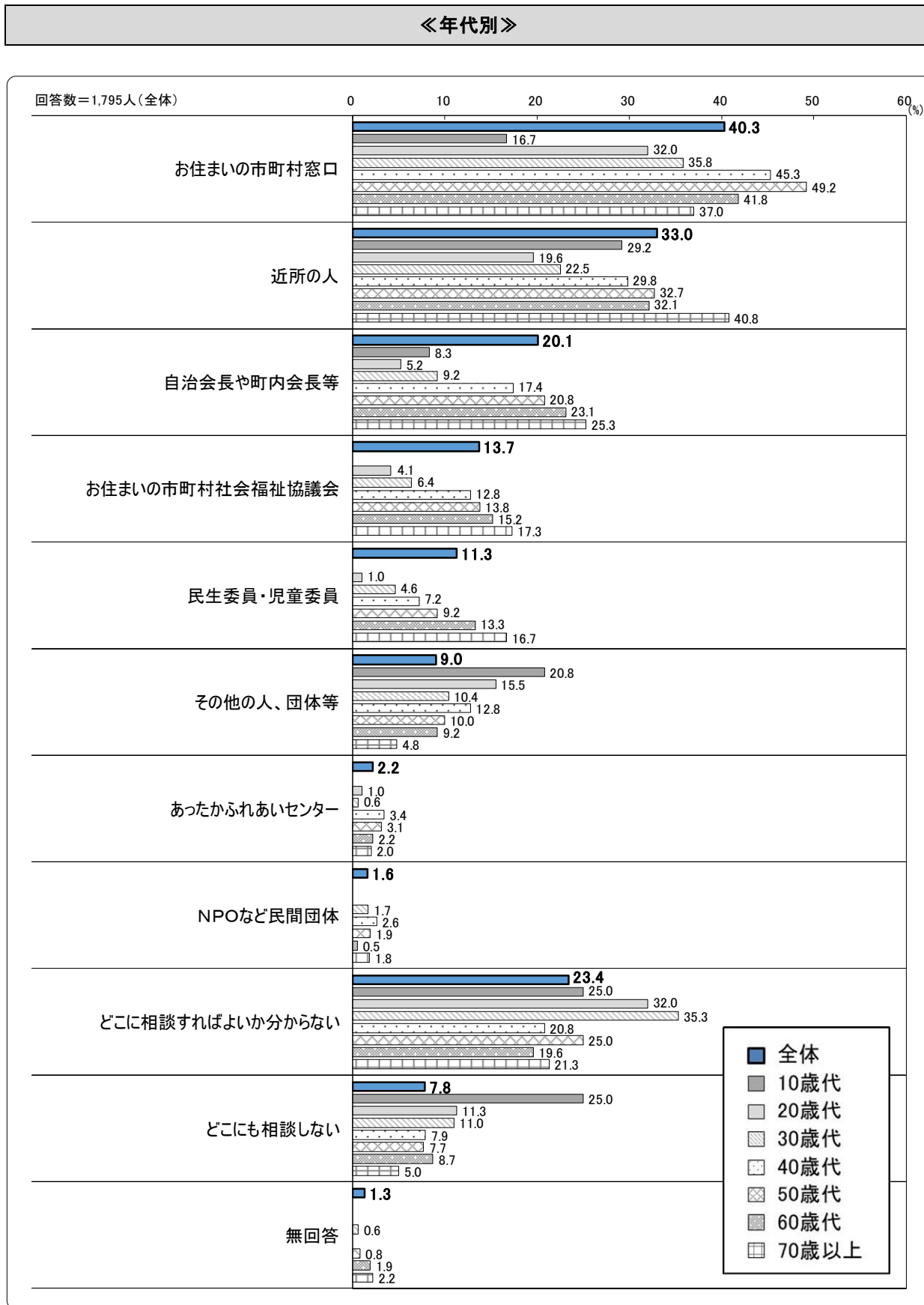
男女ともに「総合」とほぼ同じになっている。

◀性別▶



【年代別】

10歳代、70歳以上では「近所の人」が最も高く、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代では「お住まいの市町村窓口」が最も高くなっている。また、10歳代では「どこにも相談しない」、20歳代、30歳代では「どこに相談すればよいか分からない」がその他の年代に比べて高くなっている。



(3) 日常での支援・サービス

問 22 高齢者や障害のある方、その他様々な課題を抱える方が、地域で日常生活を送るうえで、どのような支え合いによるサービス・支援が必要と思いますか。(3つまで○印)

【総合】

「定期的な安否の確認などの見守り活動」が60.4%と1位になっている。

次いで、「買い物や病院へ行く場合などの送迎サービス」が54.2%、「食事の提供などの配食サービス」が38.7%と続いている。

《総合》		回答数
全 体	100.0	1,795 人
定期的な安否の確認などの見守り活動	60.4	1,085 人
買い物や病院へ行く場合などの送迎サービス	54.2	972 人
食事の提供などの配食サービス	38.7	694 人
緊急時の通報サービス	26.8	481 人
緊急時の宿泊や一時預かりサービス	21.7	389 人
庭の手入れ、電球の取り替えやゴミ捨てなど日常生活の支援	18.2	326 人
サロンのような気軽に集い交流できる活動への支援	14.8	266 人
子どもやその保護者、ひきこもりの人の居場所支援	10.8	193 人
介護予防体操など運動機能の維持・向上を目的とした活動への支援	10.4	186 人
傾聴ボランティアが電話等で、話し相手や相談相手になるサービス	7.0	125 人
認知症カフェ(認知症の方とその家族、地域住民、専門職がカフェ等の形態で集う取組)	4.0	71 人
その他	1.3	24 人
無回答	2.6	47 人

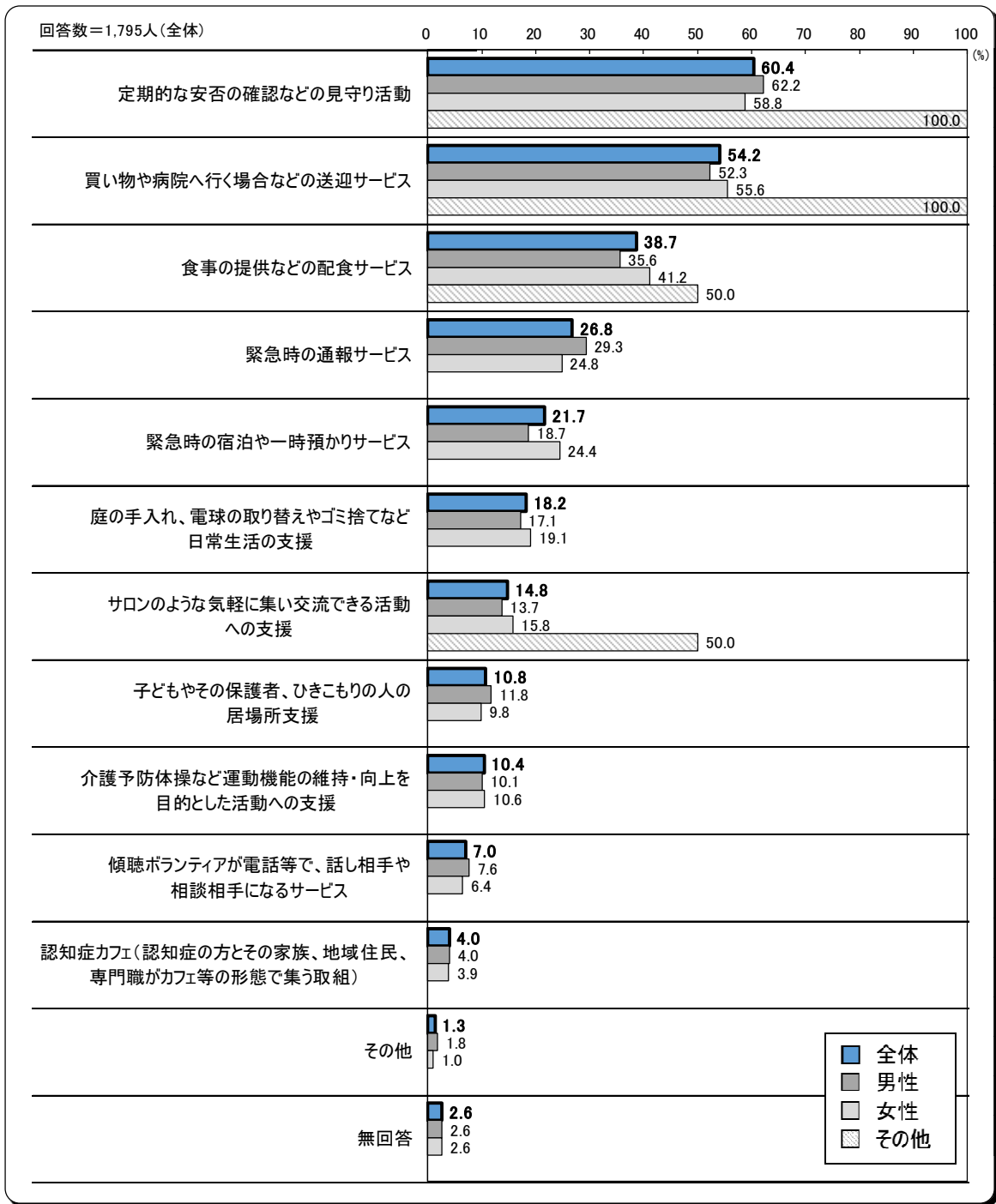
グラフ単位:(%)

【性別】

男女ともに「定期的な安否の確認などの見守り活動」が最も高くなっている。

また、女性の方が「食事の提供などの配食サービス」が5.6ポイント、「緊急時の宿泊や一時預かりサービス」が5.7ポイント高く、男性の方が「緊急時の通報サービス」が4.5ポイント高くなっている。

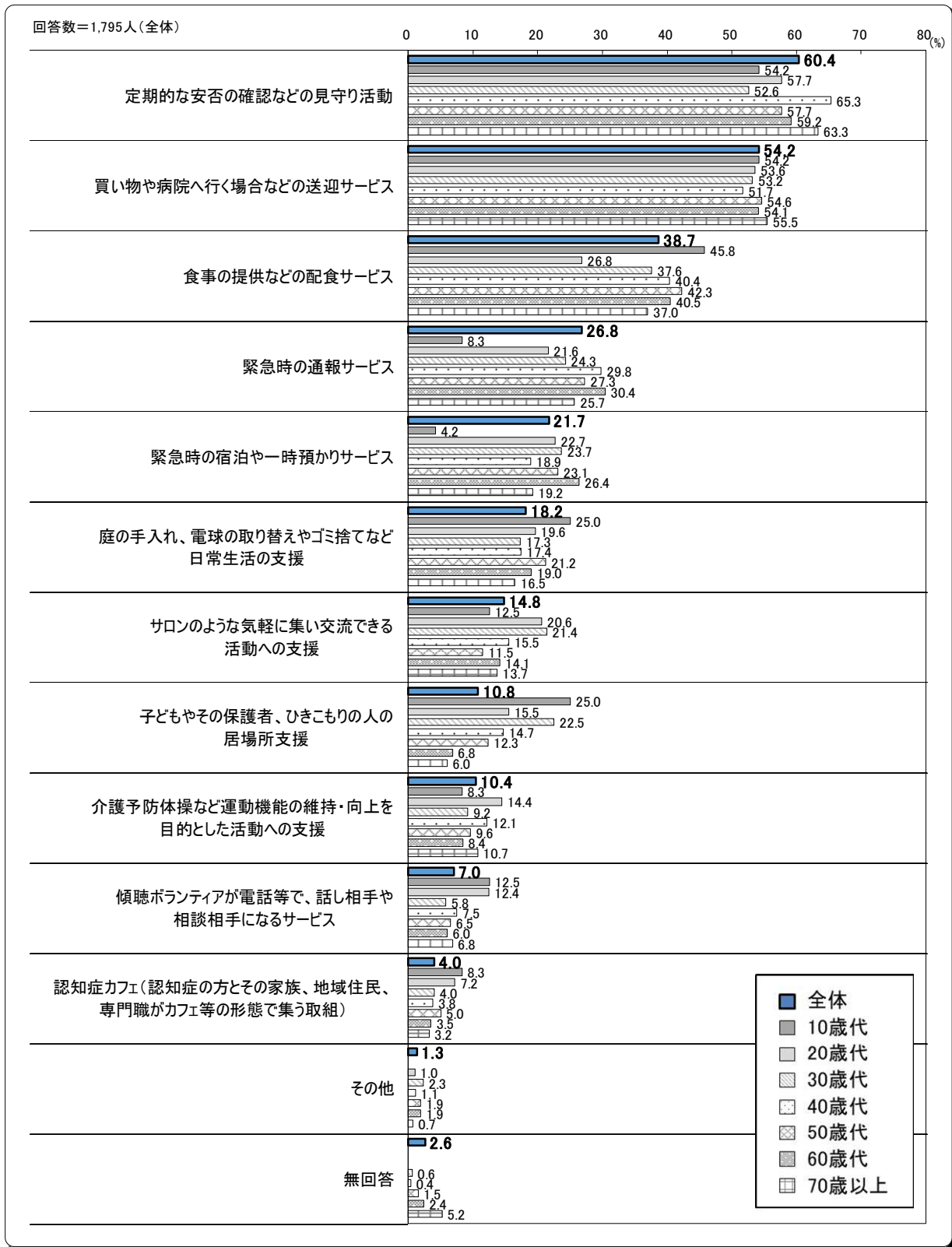
◀性別▶



【年代別】

10歳代では同率で「定期的な安否の確認などの見守り活動」と「買い物や病院へ行く場合などの送迎サービス」が最も高く、20歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「定期的な安否の確認などの見守り活動」が最も高く、30歳代では「買い物や病院へ行く場合などの送迎サービス」が最も高くなっている。

《年代別》



(4) 地域活動への参加状況

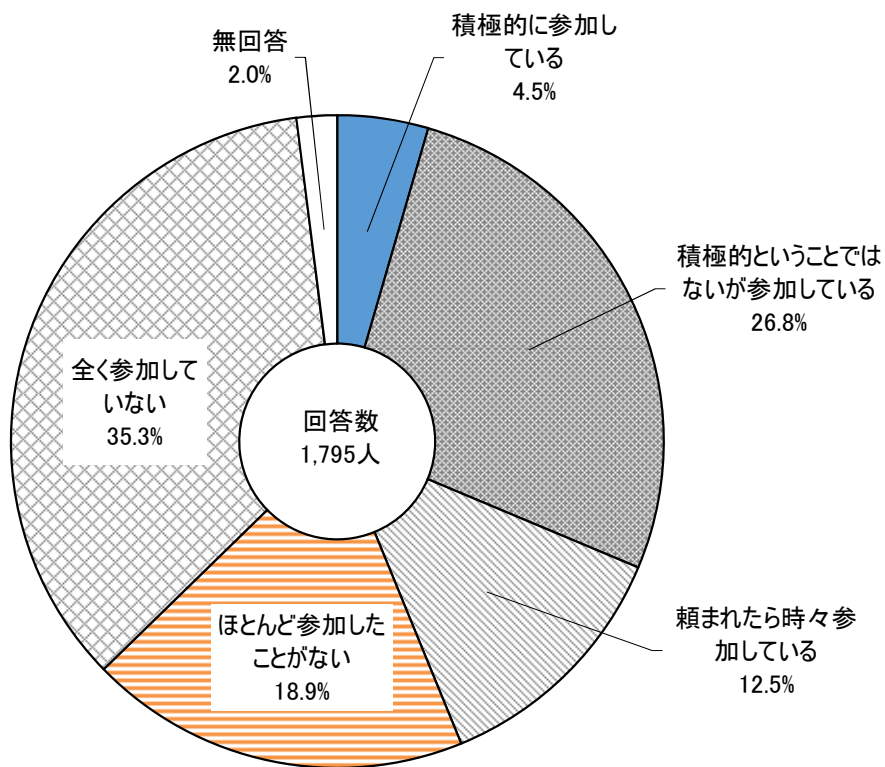
問 23 あなたは現在、地域の活動に参加していますか。(1つだけ○印)

【総合】

「全く参加していない」が35.3%と「ほとんど参加したことがない」の18.9%と合わせると54.2%がほぼ参加していない。

参加している中では「積極的ということではないが参加している」の26.8%が最も高くなっている。

《総合》

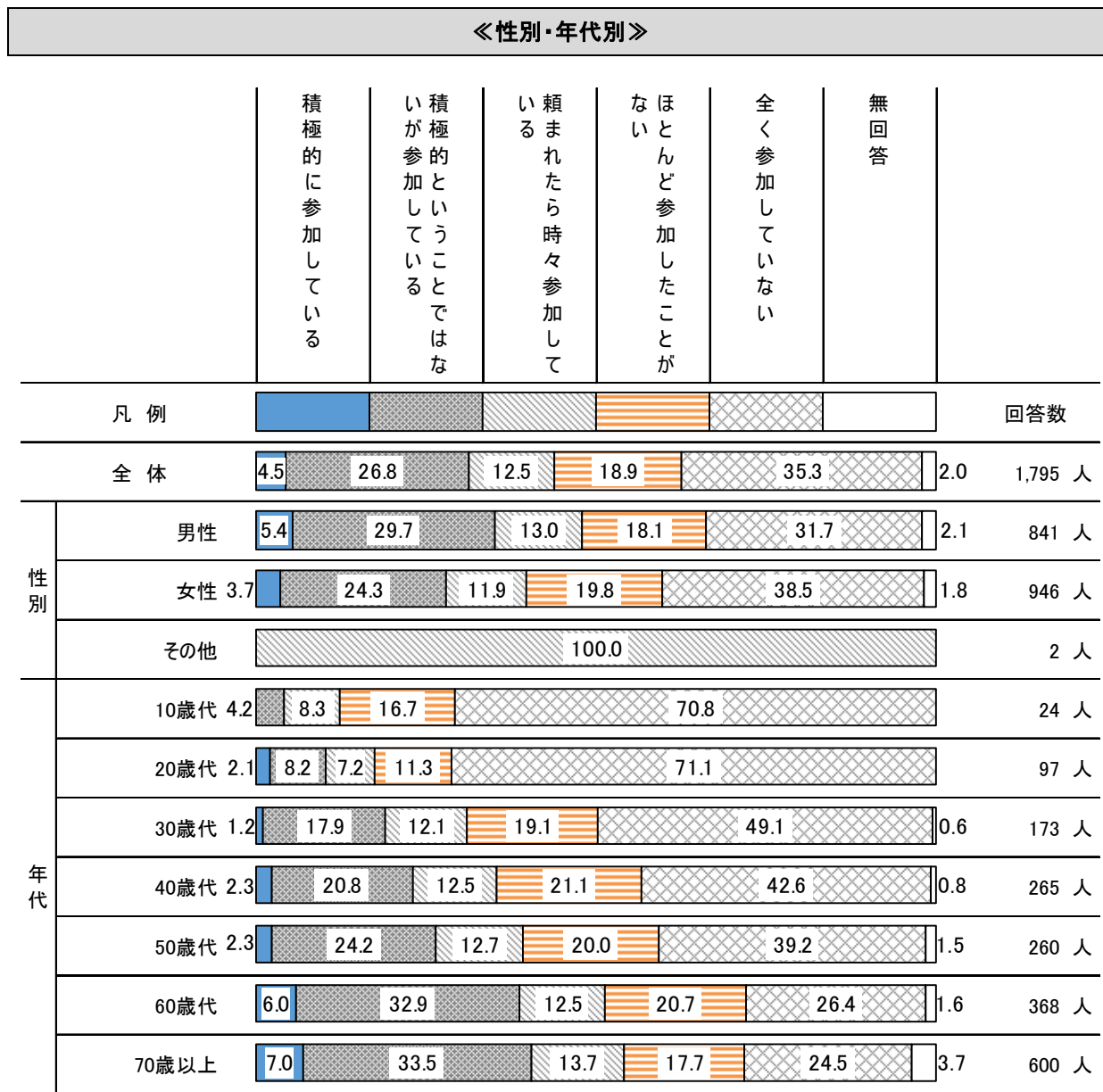


【性別】

「全く参加していない」は女性の方が6.8ポイント高くなっている。

【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代では「全く参加していない」が最も高く、60歳代、70歳以上では「積極的ということではないが参加している」が最も高くなっている。



グラフ単位：(%)

(5) 参加している地域活動

副問1(問 23 で「1~4」を選んだ方のみお答えください) 参加している(したことがある)地域の活動は、どのようなものですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「ごみ拾いや溝掃除、草刈りなどの清掃活動」が 67.0%と 1 位になっている。

次いで、「地域の防災訓練や自主防災組織等の防災・減災活動」が 35.3%、「地域のイベントの企画・運営活動」が 19.8%と続いている。

《総合》

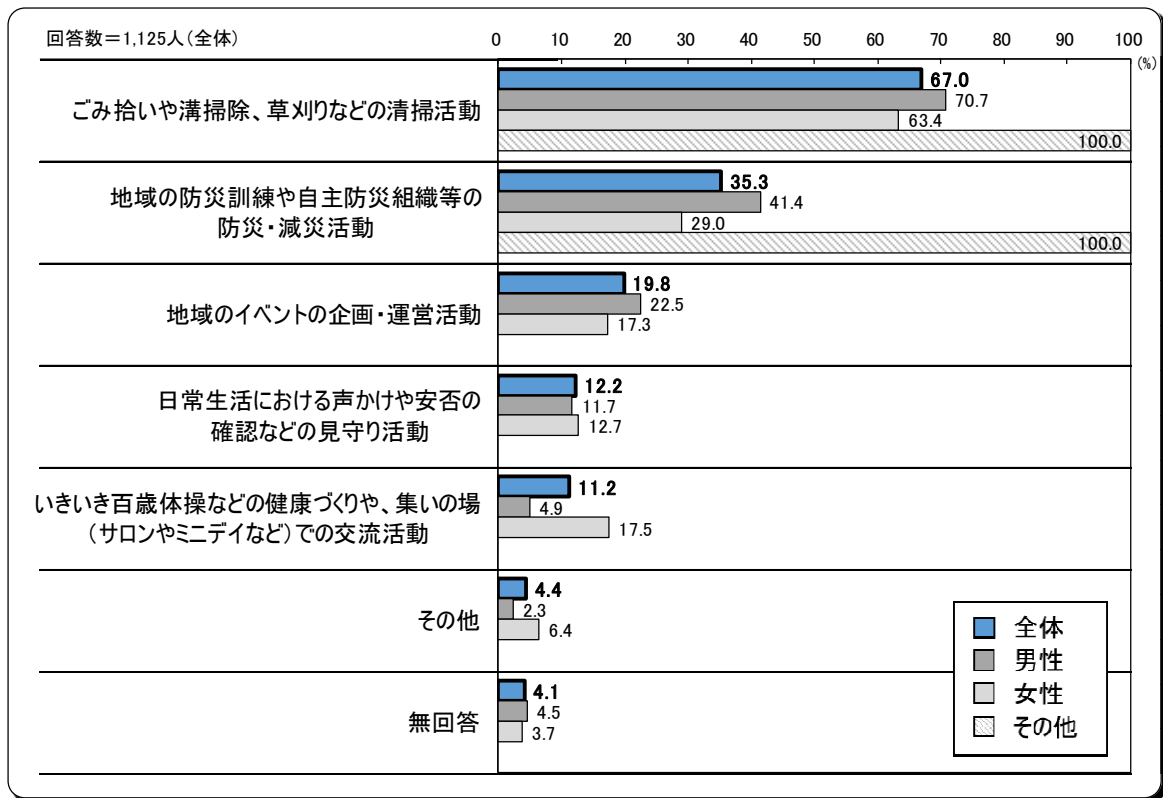
	回答数
全体	1,125 人
ごみ拾いや溝掃除、草刈りなどの清掃活動	754 人
地域の防災訓練や自主防災組織等の防災・減災活動	397 人
地域のイベントの企画・運営活動	223 人
日常生活における声かけや安否の確認などの見守り活動	137 人
いきいき百歳体操などの健康づくりや、集いの場(サロンやミニデイなど)での交流活動	126 人
その他	49 人
無回答	46 人

グラフ単位：(%)

【性別】

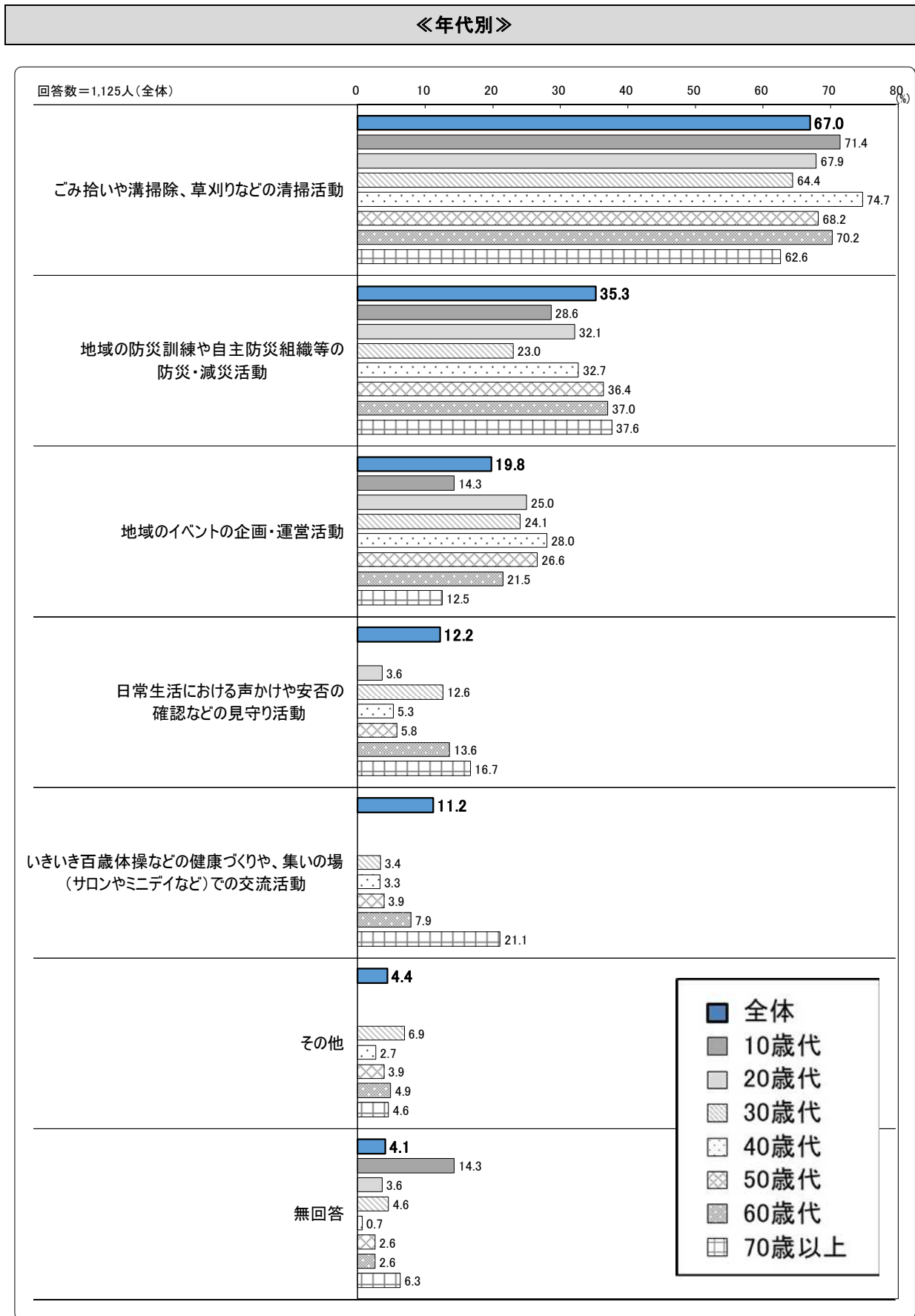
「ごみ拾いや溝掃除、草刈りなどの清掃活動」、「地域の防災訓練や自主防災組織等の防災・減災活動」、「地域のイベントの企画・運営活動」は男性の方が高く、「日常生活における声かけや安否の確認などの見守り活動」、「いきいき百歳体操などの健康づくりや、集いの場（サロンやミニデイなど）での交流活動」は女性の方が高くなっている。

◀性別▶



【年代別】

すべての年代で「ごみ拾いや溝掃除、草刈りなどの清掃活動」が最も高くなっている。また、「いきいき百歳体操などの健康づくりや、集いの場（サロンやミニデイなど）での交流活動」は70歳以上で21.1%とその他の年代に比べて高くなっている。



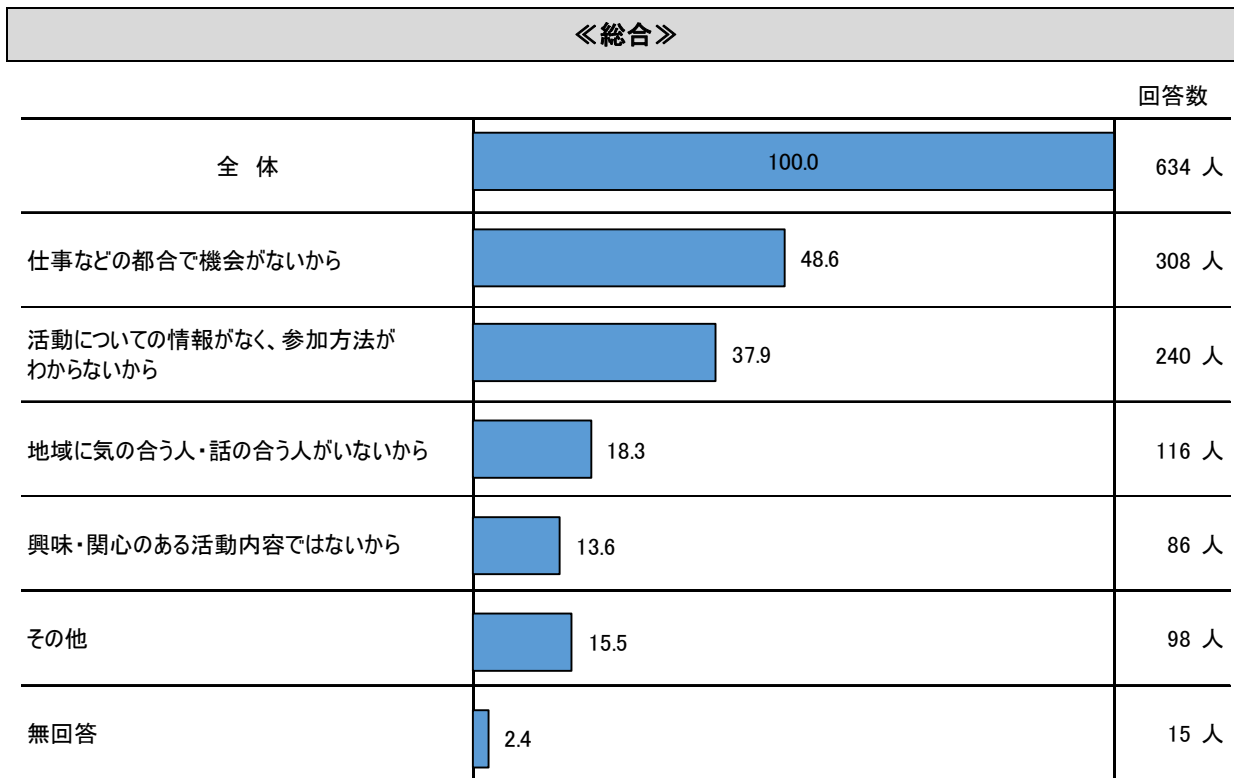
(6) 地域活動に参加しない理由

副問2(問 23 で「5」を選んだ方のみお答えください) 参加しない理由はどういったものですか。
(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「仕事などの都合で機会がないから」が 48.6%と 1 位になっている。

次いで、「活動についての情報がなく、参加方法がわからないから」が 37.9%、「地域に気の合う人・話の合う人がいないから」が 18.3%と続いている。

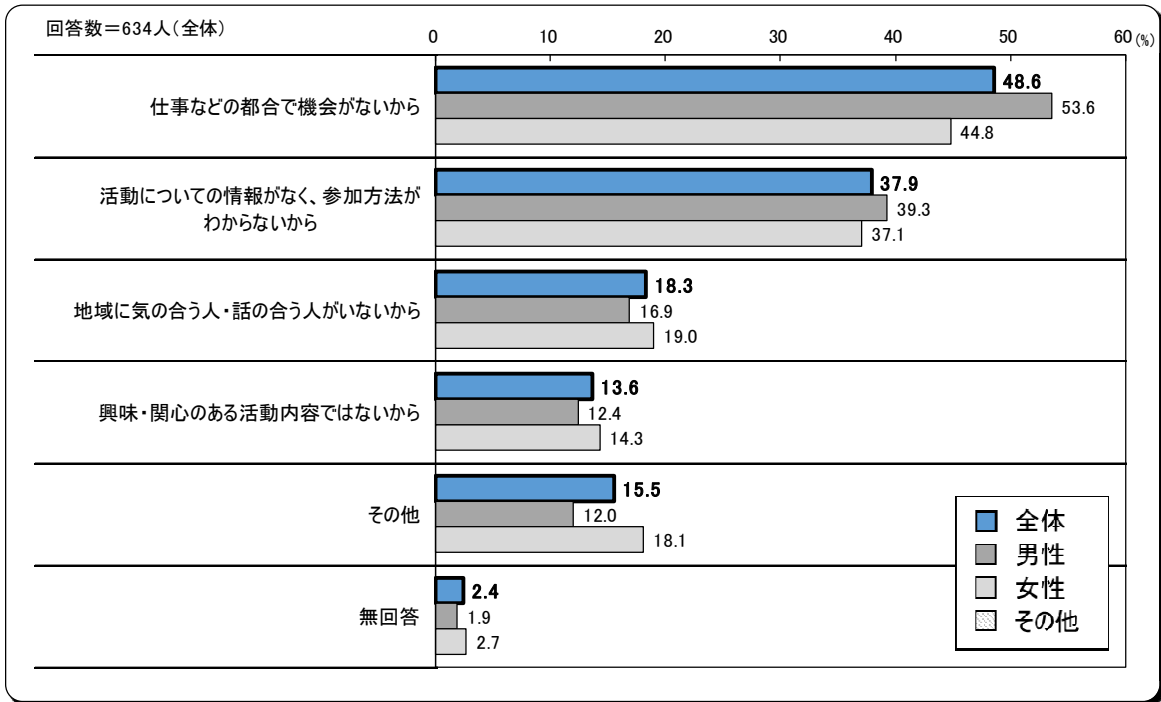


グラフ単位：(%)

【性別】

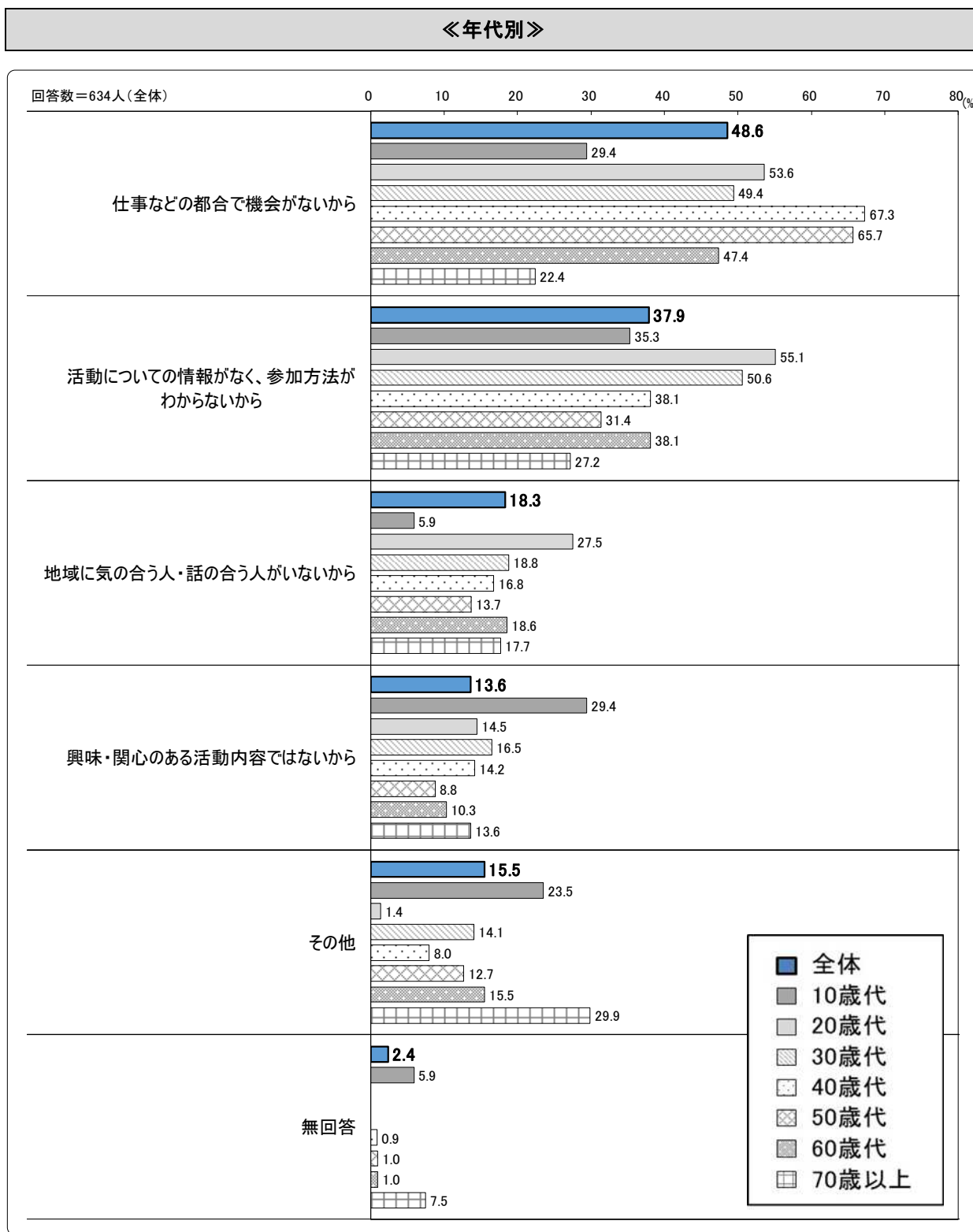
男女ともに「仕事などの都合で機会がないから」が最も高いが、男性の方が8.8ポイント高くなっている。

◀性別▶



【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代では「活動についての情報がなく、参加方法がわからないから」が最も高く、40歳代、50歳代、60歳代では「仕事などの都合で機会がないから」が最も高くなっている。



6. 食品ロス削減について

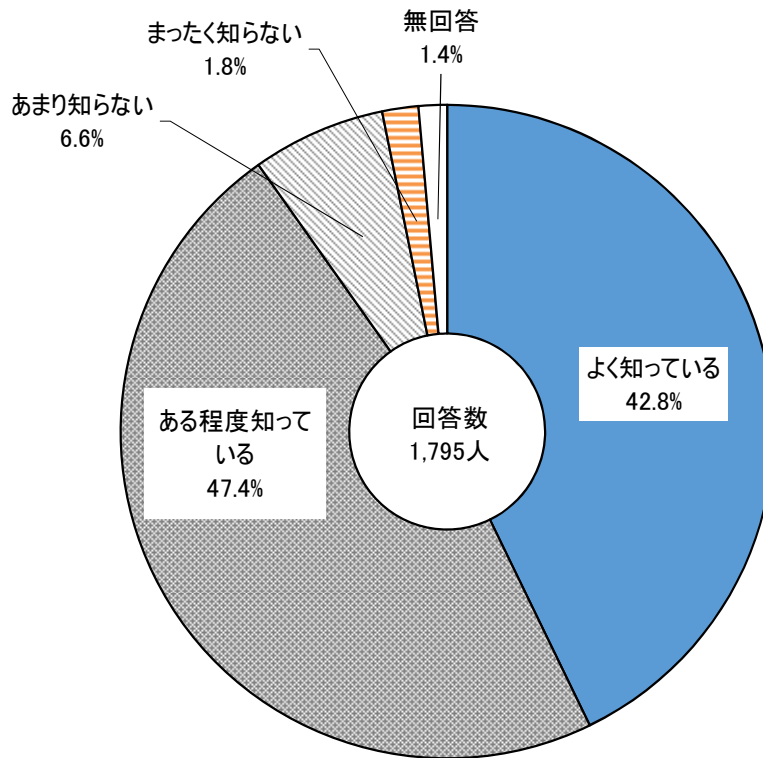
(1) 食品ロス問題の認知度

問 24 「食品ロス」が問題となっていることを知っていますか。(1つだけ○印)

【総合】

「よく知っている」が42.8%、「ある程度知っている」が47.4%と合わせて90.2%が「食品ロス」を知っている。

《総合》

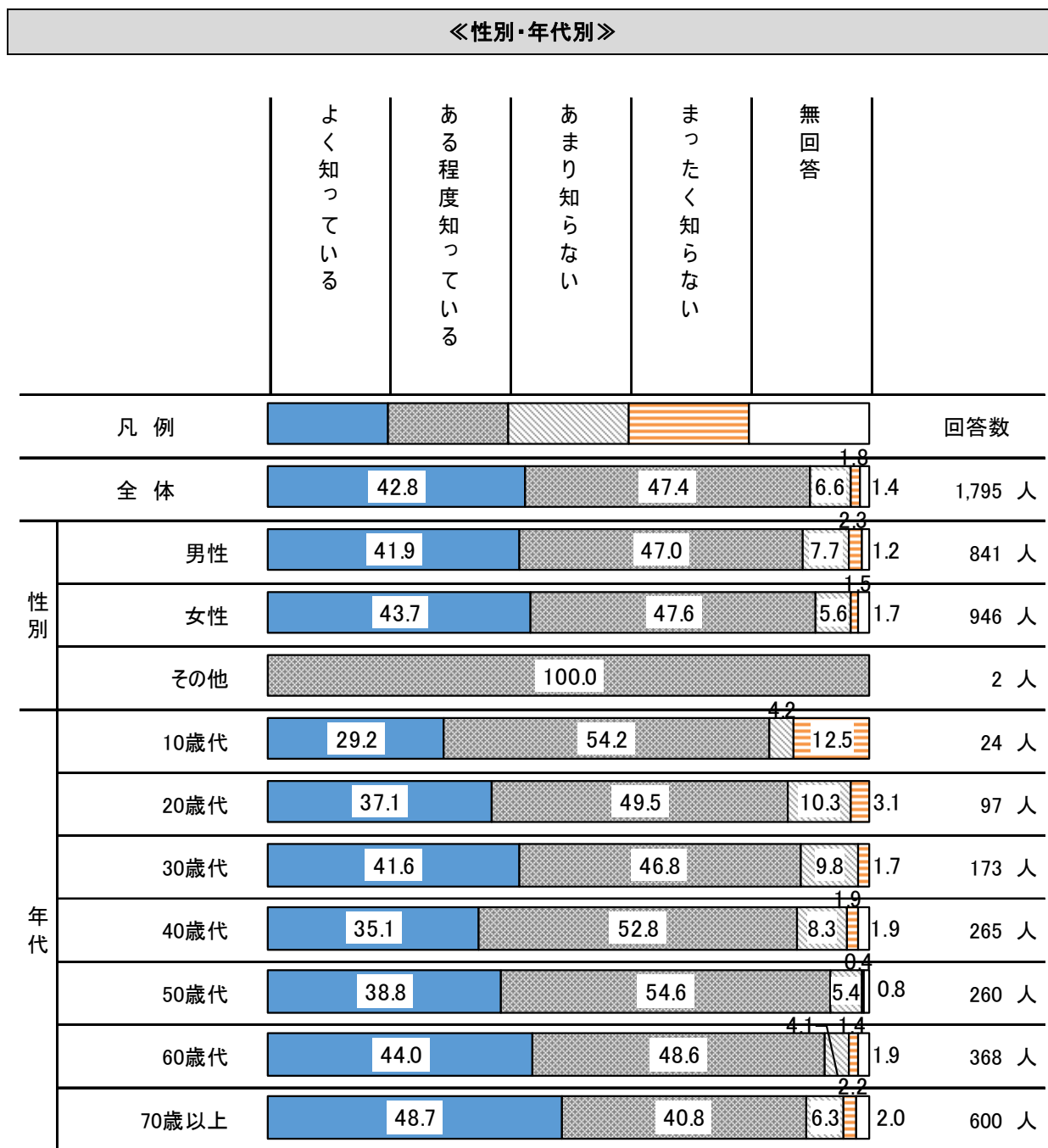


【性別】

男女ともに「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

【年代別】

70歳以上では「よく知っている」が最も高く、その他の年代では「ある程度知っている」が最も高くなっている。



グラフ単位: (%)

(2) 食品ロス削減のための取り組み

問 25 「食品ロス」を減らすため、次の中で、あなたがすでに取り組んでいることはありますか。
(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「残さずに食べる」が64.6%と1位になっている。

次いで、「冷凍保存を活用する」が61.4%、「賞味期限」を過ぎててもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」が61.3%と続いている。

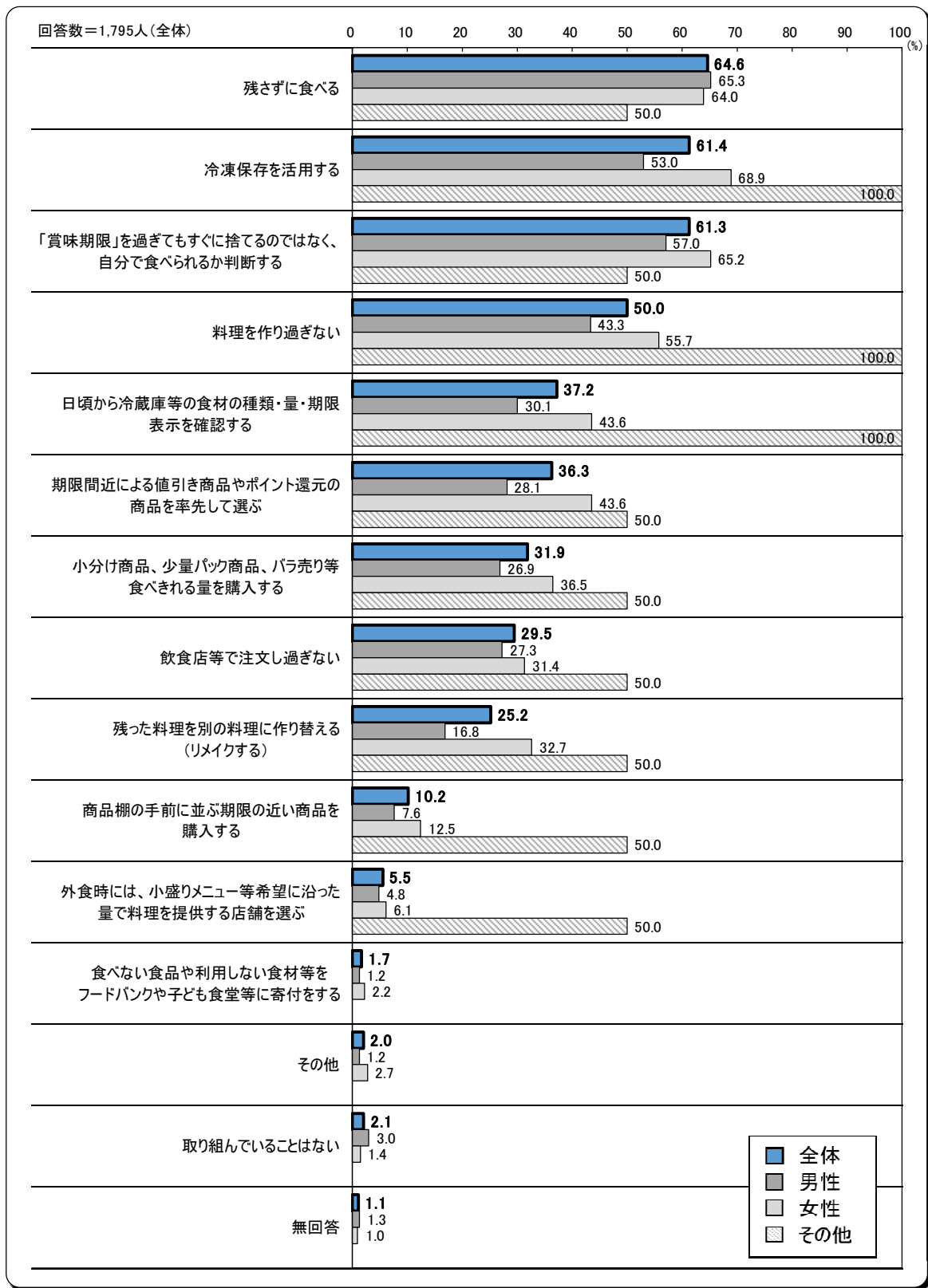
《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,795 人
残さずに食べる	64.6	1,159 人
冷凍保存を活用する	61.4	1,103 人
「賞味期限」を過ぎててもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	61.3	1,101 人
料理を作り過ぎない	50.0	897 人
日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する	37.2	667 人
期限間近による値引き商品やポイント還元の商品を率先して選ぶ	36.3	652 人
小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれぬ量を購入する	31.9	573 人
飲食店等で注文し過ぎない	29.5	529 人
残った料理を別の料理に作り替える(リメイクする)	25.2	452 人
商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する	10.2	183 人
外食時には、小盛りメニュー等希望に沿った量で料理を提供する店舗を選ぶ	5.5	99 人
食べない食品や利用しない食材等をフードバンクや子ども食堂等に寄付をする	1.7	31 人
その他	2.0	36 人
取り組んでいることはない	2.1	38 人
無回答	1.1	20 人

グラフ単位：(%)

【性別】

男性では「残さずに食べる」が最も高く、女性では「冷凍保存を活用する」が最も高くなっている。

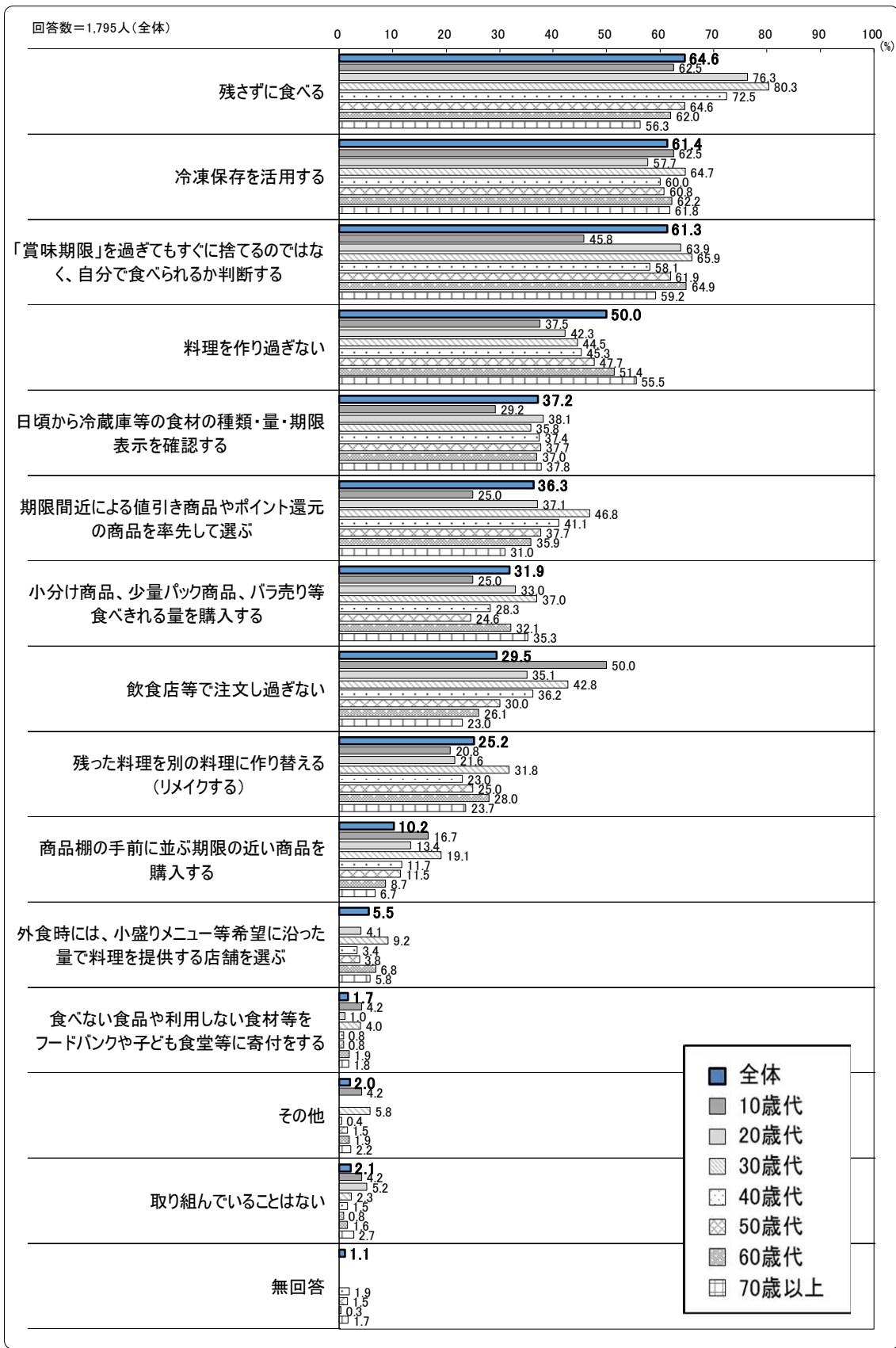
◀性別▶



【年代別】

10歳代では同率で「残さずに食べる」と「冷凍保存を活用する」が最も高く、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代では「残さずに食べる」が最も高く、60歳代では「賞味期限」を過ぎててもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」が最も高く、70歳以上では「冷凍保存を活用する」が最も高くなっている。

《年代別》



(3)「もったいない」の意識

問 26 食生活の中で「もったいない」を意識したことはありますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「期限切れ等で食べずに捨ててしまうとき」が66.6%と1位になっている。

次いで、「食品廃棄に関する問題（恵方巻の廃棄等）のニュース（記事）を見たとき」が61.9%、「自分又は自分の家族等が食べ残したのを見たとき」が44.0%と続いている。

《総合》

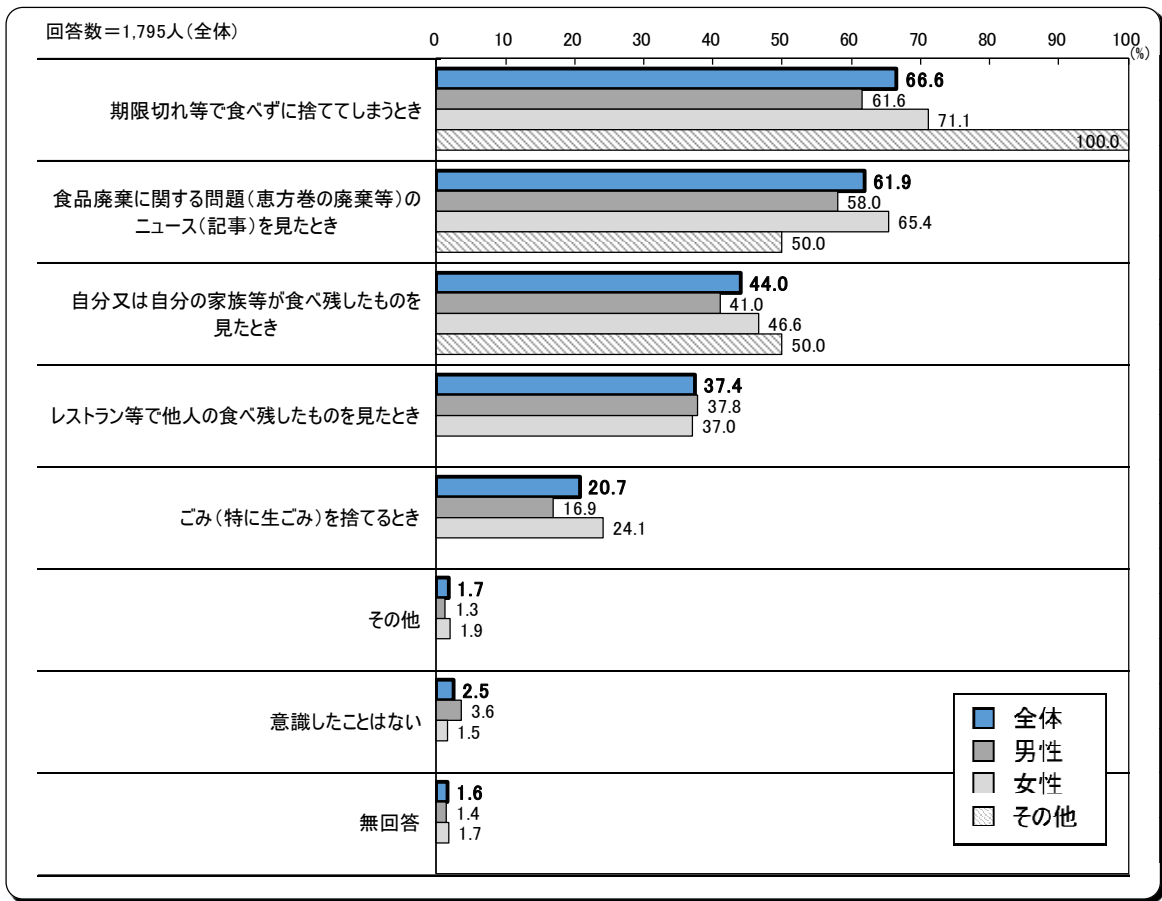
	回答数
全 体	100.0 1,795 人
期限切れ等で食べずに捨ててしまうとき	66.6 1,196 人
食品廃棄に関する問題(恵方巻の廃棄等)の ニュース(記事)を見たとき	61.9 1,111 人
自分又は自分の家族等が食べ残したのを見たとき	44.0 790 人
レストラン等で他人の食べ残したのを見たとき	37.4 671 人
ごみ(特に生ごみ)を捨てる時	20.7 372 人
その他	1.7 30 人
意識したことはない	2.5 44 人
無回答	1.6 28 人

グラフ単位：(%)

【性別】

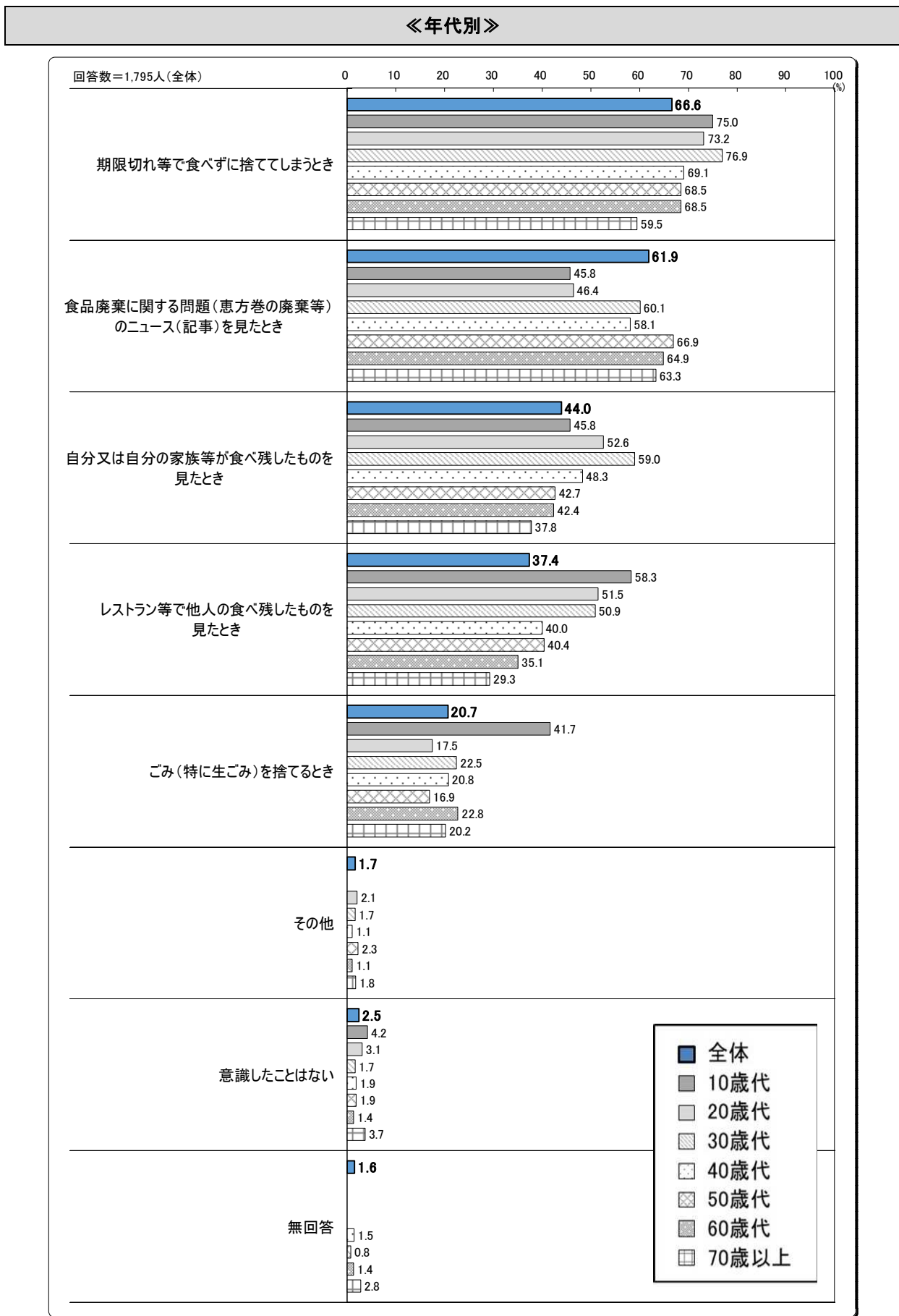
女性の方が「期限切れ等で食べずに捨ててしまうとき」、「食品廃棄に関する問題（恵方巻の廃棄等）のニュース（記事）を見たとき」、「自分又は自分の家族等が食べ残したのを見たとき」、「ごみ（特に生ごみ）を捨てるとき」の比率が高くなっている。

《性別》



【年代別】

70歳以上を除くすべての年代で「期限切れ等で食べずに捨ててしまうとき」が半数を超えて最も高くなっている。また、10歳代では「ごみ（特に生ごみ）を捨てるとき」が41.7%と高くなっている。



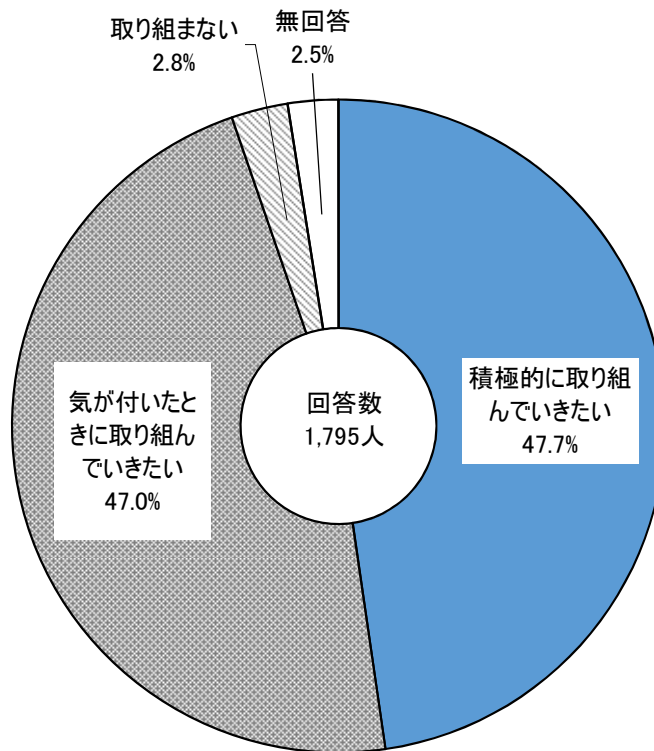
(4) 食品ロスを減らすための意向

問 27 「食品ロス」を減らすために、今後どのように取り組もうと思いますか。(1つだけ○印)

【総合】

「積極的に取り組んでいきたい」が47.7%、「気が付いたときに取り組んでいきたい」が47.0%と、90%以上が取り組む意向がある。

《総合》



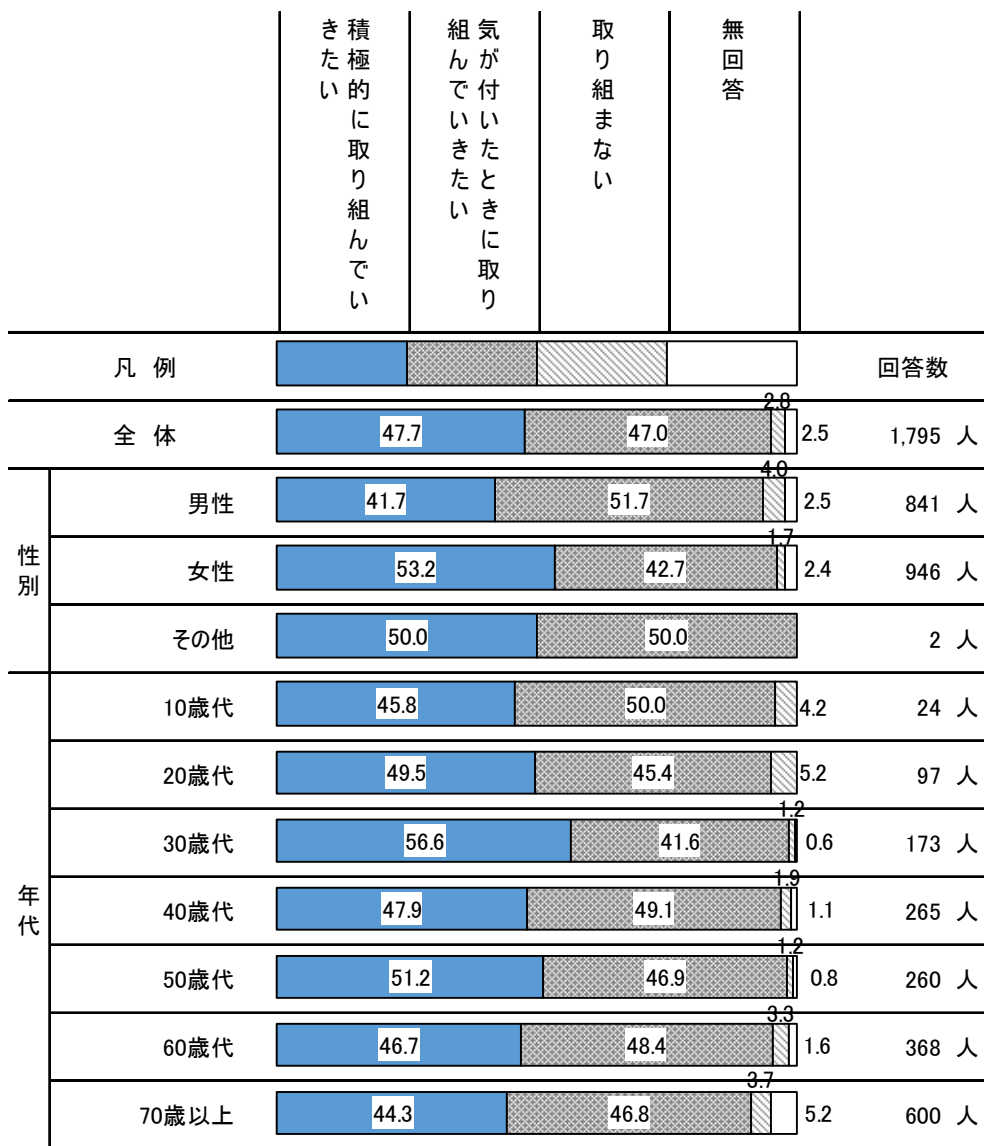
【性別】

男性では「気が付いたときに取り組んでいきたい」が最も高く、女性では「積極的に取り組んでいきたい」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代、40歳代、60歳代、70歳以上では「気が付いた時に取り組んでいきたい」が最も高く、20歳代、30歳代、50歳代では「積極的に取り組んでいきたい」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



グラフ単位: (%)

(5) 食品ロス削減のために取り組みたいこと

副問1(問 27 で「1」もしくは「2」を選んだ方のみお答えください。)
 「食品ロス」を減らすため、次の中で、まだ取り組んでいないが、今後取り組んでいきたいと思うことは何ですか。(3つまで○印)

【総合】

「料理を作り過ぎない」が 38.7%と 1 位になっている。

次いで、「残さずに食べる」が 31.9%、「冷凍保存を活用する」が 31.6%と続いている。

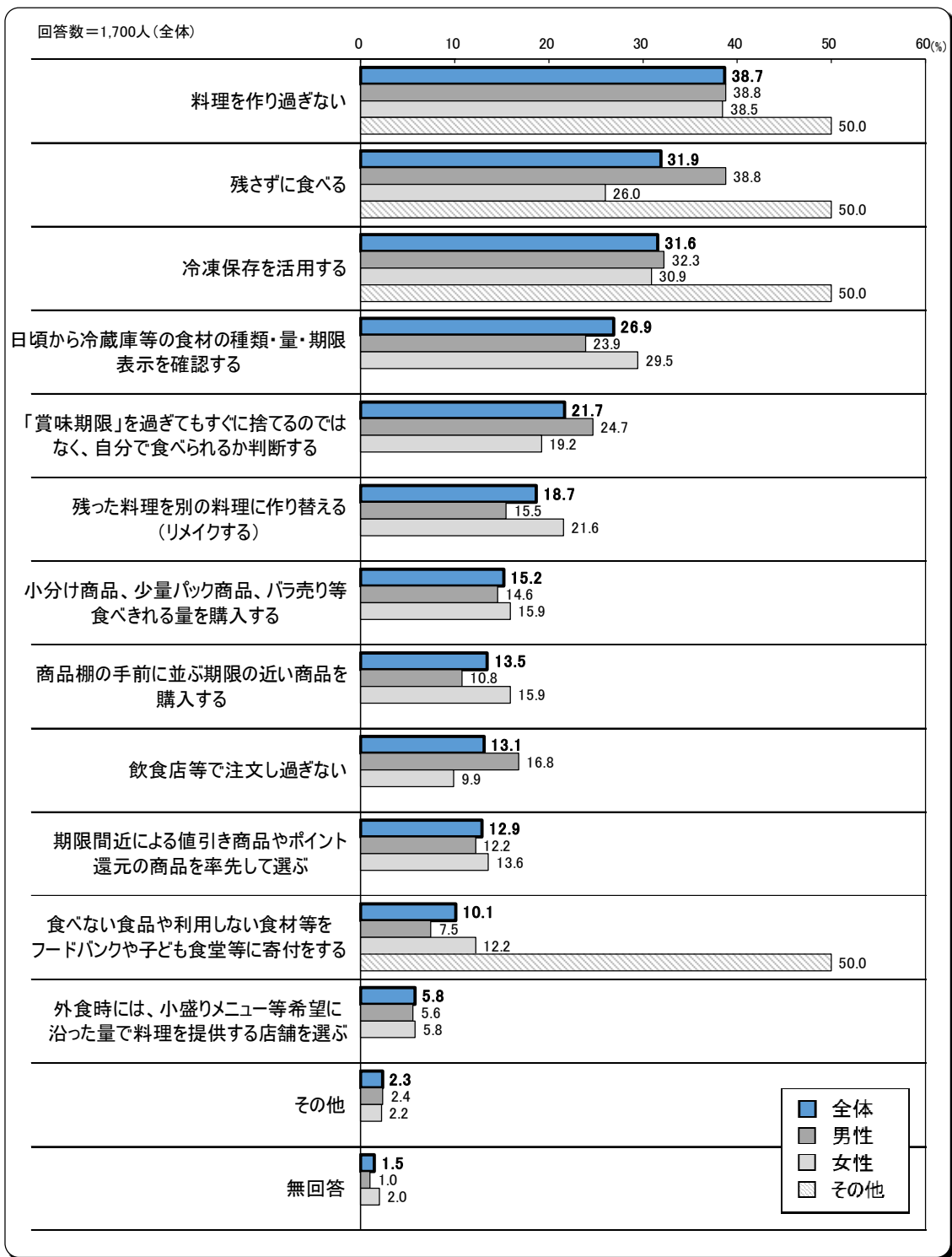
《総合》		
		回答数
全 体	100.0	1,700 人
料理を作り過ぎない	38.7	658 人
残さずに食べる	31.9	543 人
冷凍保存を活用する	31.6	537 人
日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する	26.9	457 人
「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	21.7	369 人
残った料理を別の料理に作り替える(リメイクする)	18.7	318 人
小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれぬ量を購入する	15.2	259 人
商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する	13.5	229 人
飲食店等で注文し過ぎない	13.1	222 人
期限間近による値引き商品やポイント還元の商品を率先して選ぶ	12.9	220 人
食べない食品や利用しない食材等をフードバンクや子ども食堂等に寄付をする	10.1	172 人
外出時には、小盛りメニュー等希望に沿った量で料理を提供する店舗を選ぶ	5.8	98 人
その他	2.3	39 人
無回答	1.5	26 人

グラフ単位：(%)

【性別】

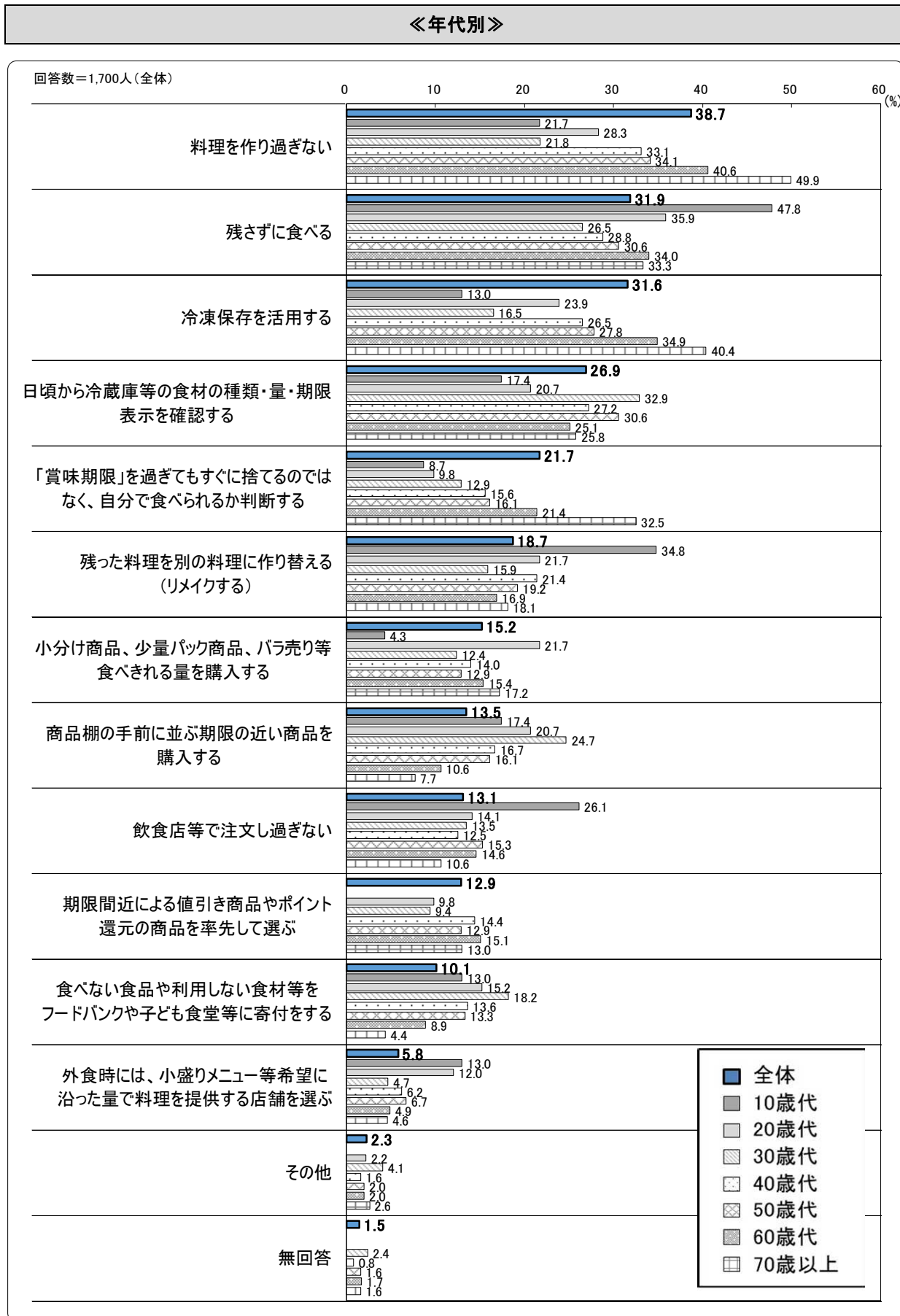
男性では同率で「料理を作り過ぎない」と「残さずに食べる」が最も高く、女性では「料理を作り過ぎない」が最も高くなっている。

≪性別≫



【年代別】

10歳代、20歳代では「残さずに食べる」が最も高く、30歳代では「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」が最も高く、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「料理を作り過ぎない」が最も高くなっている。



7. 多様な働き方の推進について

(1) 普及させるべき働き方

問 28 今後、どのような働き方を普及させるべきだと思いますか。(3つまで○印)

【総合】

「在宅勤務」が44.5%と1位になっている。

次いで、「フレックスタイム制」が34.2%、「副業・兼業」が30.0%と続いている。

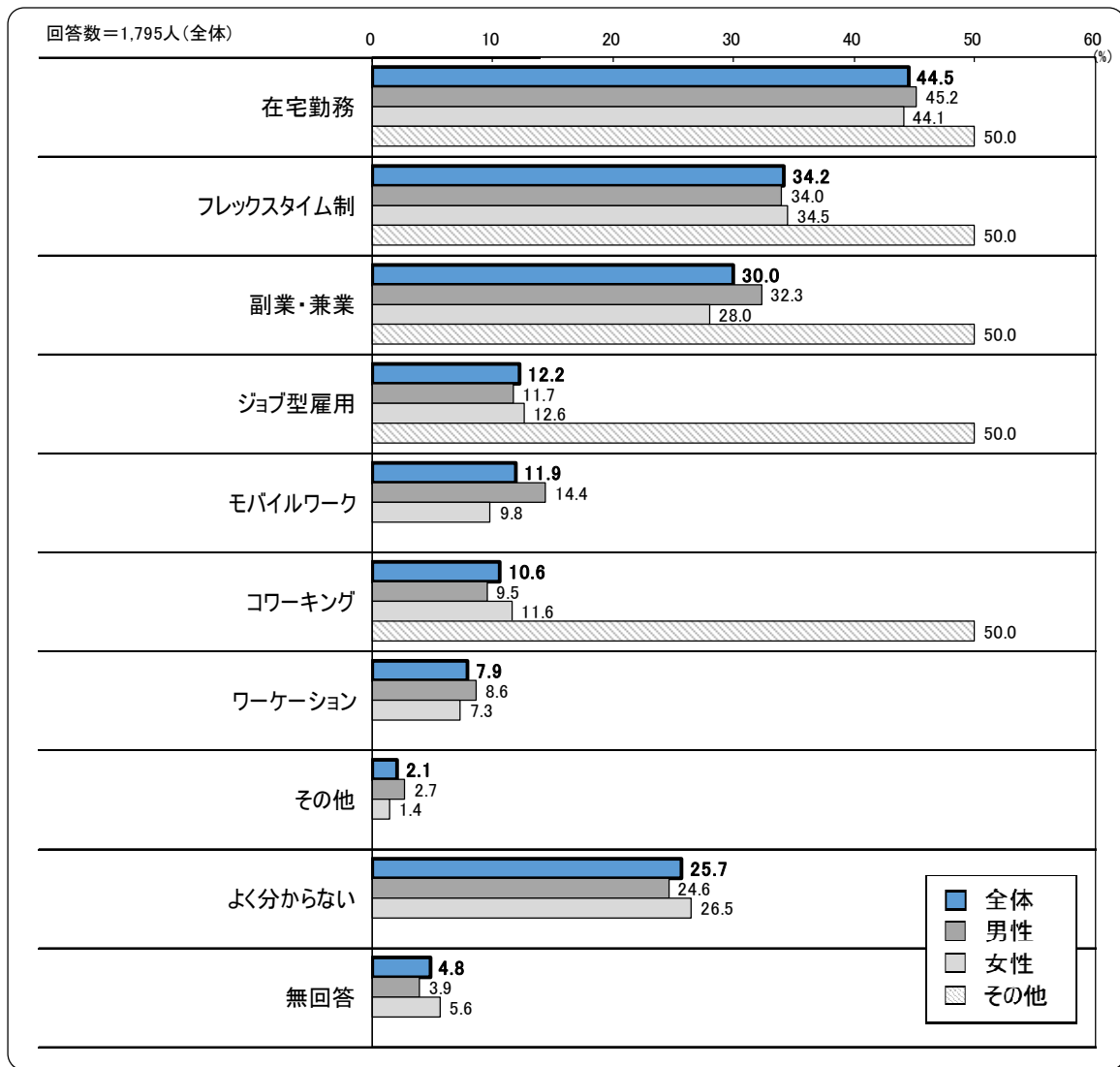
《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,795 人
在宅勤務	44.5	799 人
フレックスタイム制	34.2	614 人
副業・兼業	30.0	539 人
ジョブ型雇用	12.2	219 人
モバイルワーク	11.9	214 人
コワーキング	10.6	191 人
ワーケーション	7.9	141 人
その他	2.1	37 人
よく分からない	25.7	461 人
無回答	4.8	86 人

グラフ単位：(%)

【性別】

男女ともに「在宅勤務」が最も高くなっている。

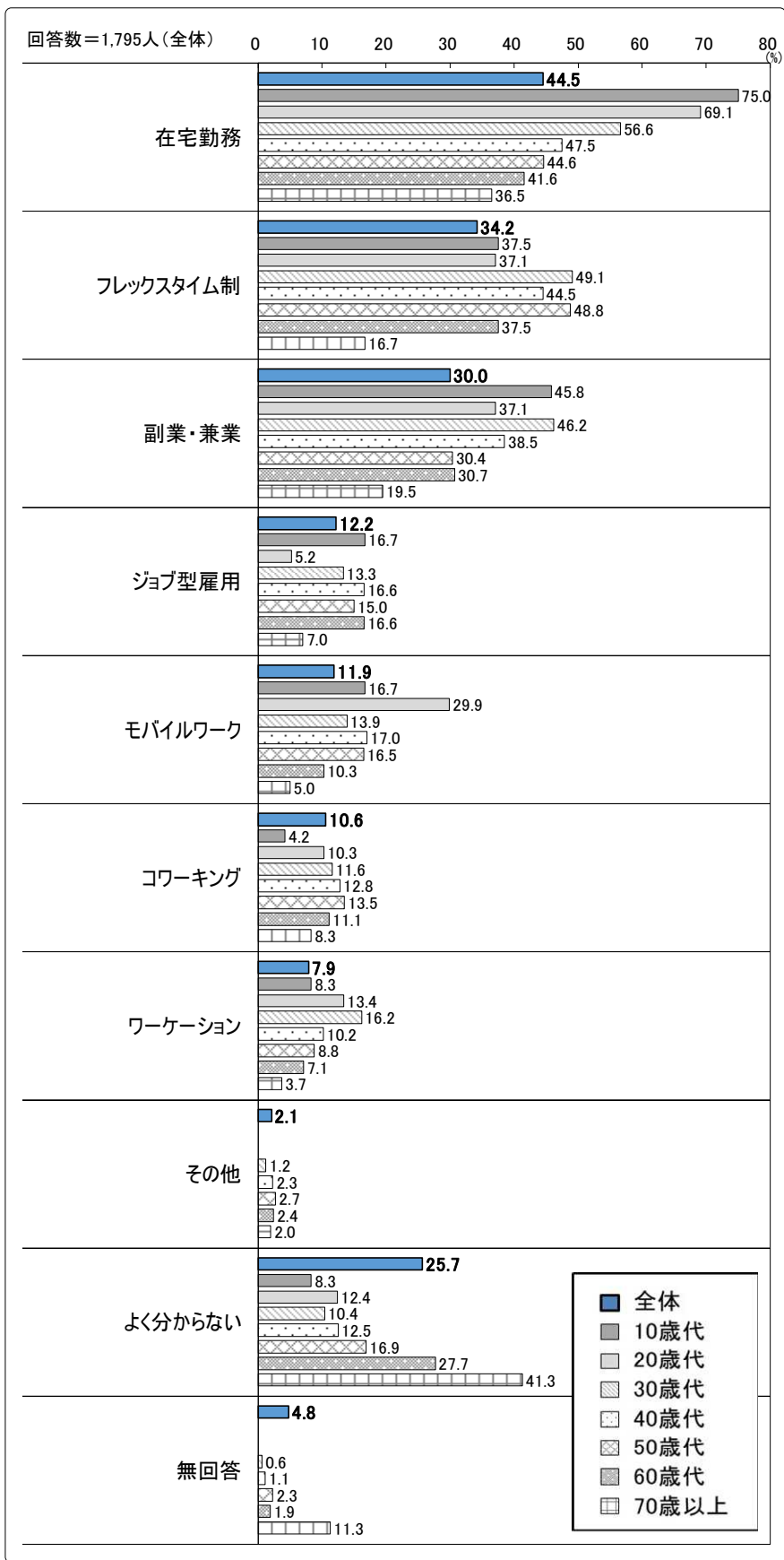
◀性別▶



【年代別】

10歳代、20歳代、30歳代、40歳代、60歳代では「在宅勤務」が最も高く、50歳代では「フレックスタイム制」が、70歳以上では「よく分からない」が最も高くなっている。

《年代別》



(2)テレワークについて

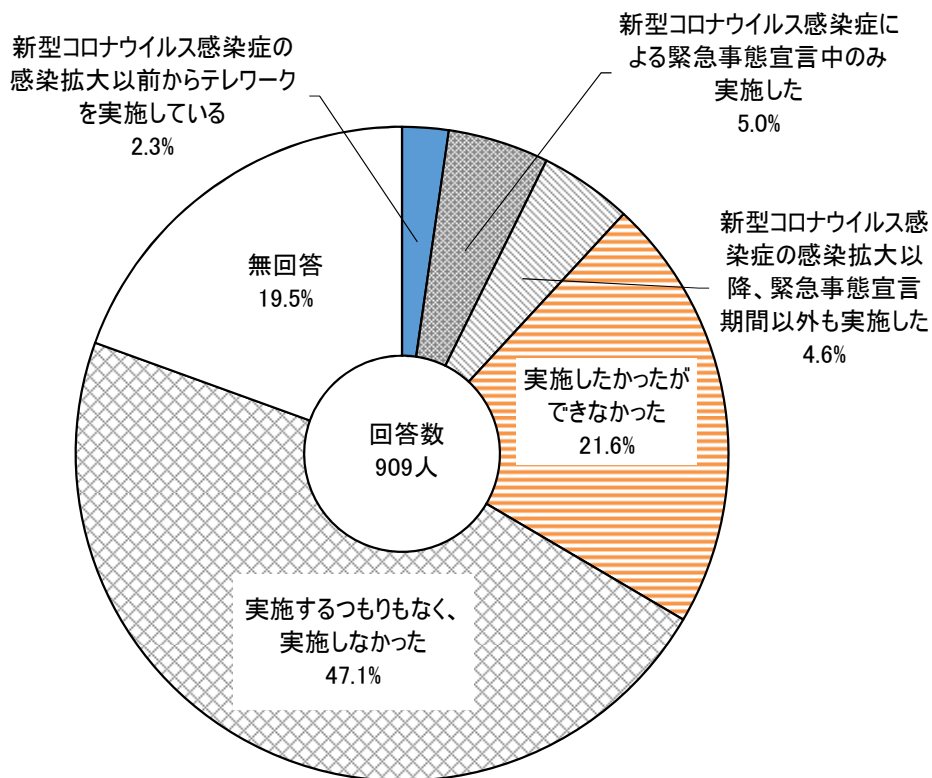
問 29 (現在お仕事をされている方のみお答えください。)
在宅勤務(自営型テレワークを含む)、モバイルワーク、コワーキング、ワーケーションのように、情報通信技術を活用し、オフィスから離れた場所で働くことを総称して「テレワーク」といいます。あなたは、これまでにテレワークをしたことがありますか。(1つだけ○印)

【総合】

「実施するつもりもなく、実施しなかった」が47.1%となっている。

次いで、「実施したかったができなかった」が21.6%、「新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言中のみ実施した」が5.0%と続いている。

《総合》

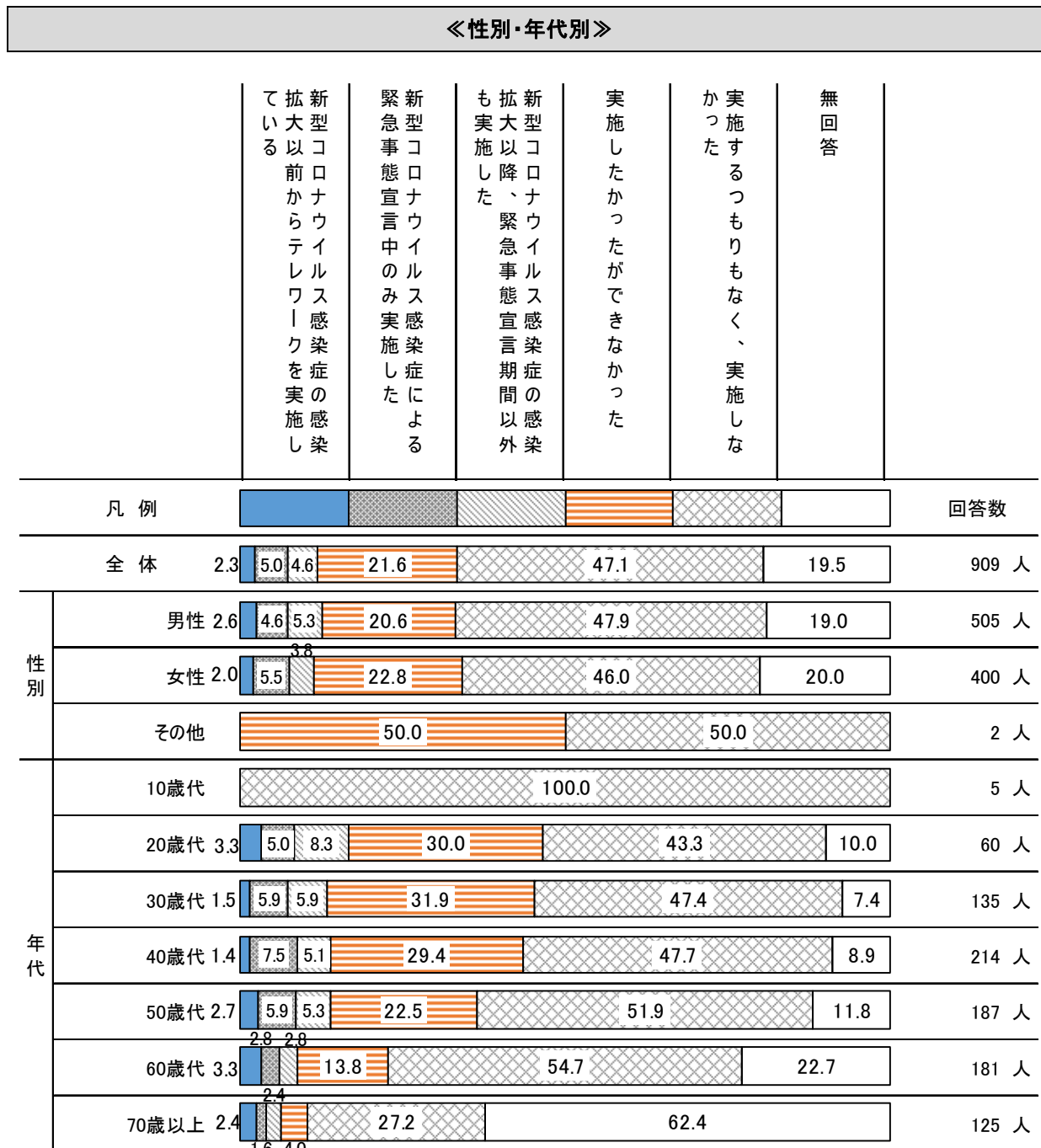


【性別】

男女ともに「実施するつもりもなく、実施しなかった」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「実施するつもりもなく、実施しなかった」が最も高くなっている。



(3)テレワークを実施できなかった理由

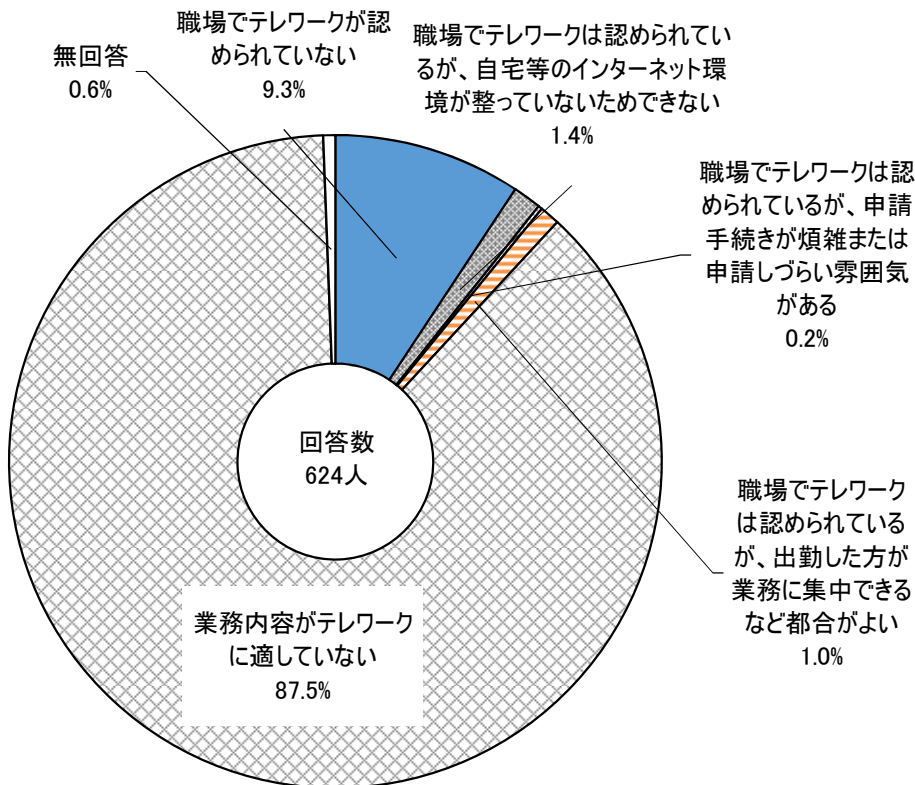
副問1(問 29 で「4」もしくは「5」を選んだ方のみお答えください。)
テレワークを実施できなかったまたは実施しなかったのはなぜですか。(1つだけ○印)

【総合】

「業務内容がテレワークに適していない」が87.5%と1位になっている。

次いで、「職場でテレワークが認められていない」が9.3%、「職場でテレワークは認められているが、自宅等のインターネット環境が整っていないためできない」が1.4%と続いている。

《総合》



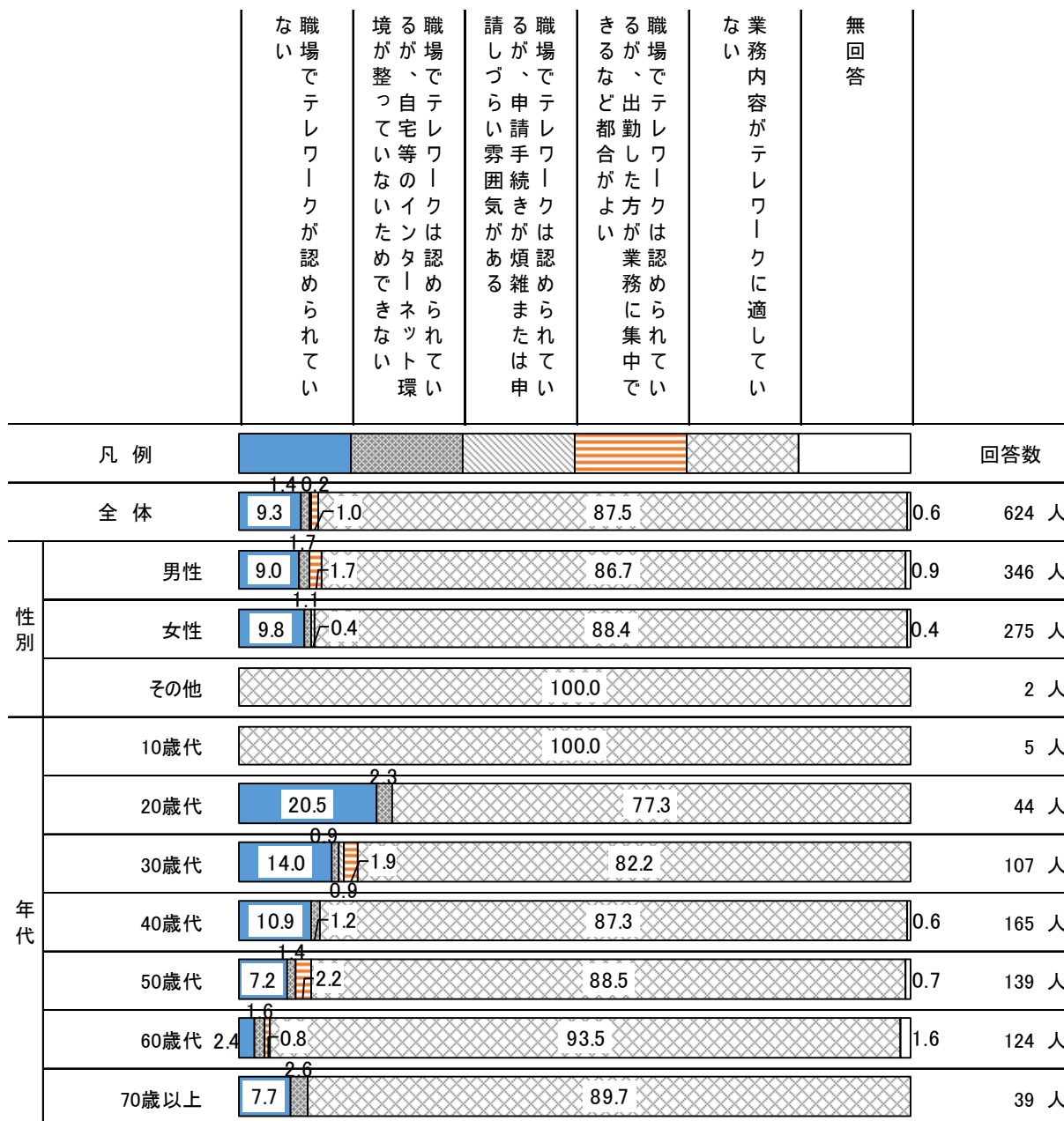
【性別】

男女ともに「業務内容がテレワークに適していない」が最も高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「業務内容がテレワークに適していない」が最も高くなっている。また、70歳以上を除き、年代が下がるほど「職場でテレワークが認められていない」が高くなる傾向がみられる。

《性別・年代別》



グラフ単位：(%)

【問 29×問 29-1 のクロス分析】

「あなたは、これまでにテレワークをしたことがありますか。」という質問に対し、「テレワークを実施できなかったまたは実施しなかったのはなぜですか。」の結果を見ると、「実施したかったができなかった」と回答した人は「職場でテレワークが認められていない」と回答した比率が比較的高くなっている。

《問 29×問 29-1 のクロス分析》

	実施できなかった・しなかった理由							
	全体	職場でテレワークが認められていない	職場でテレワークが認められていないが、自宅	職場でテレワークが認められていないが、自宅	職場でテレワークが認められていないが、自宅	職場でテレワークが認められていないが、自宅	業務内容がテレワークに適していない	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)								
全体	624 100.0	58 9.3	9 1.4	1 0.2	6 1.0	546 87.5	4 0.6	
実施したことがありません	新型コロナウイルス感染症の感染拡大以前からテレワークを実施している	-	-	-	-	-	-	
	新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言中のみ実施した	-	-	-	-	-	-	
	新型コロナウイルス感染症の感染拡大以降、緊急事態宣言期間以外も実施した	-	-	-	-	-	-	
	実施したかったができなかった	196 16.8	3.1	0.5	2.6	76.0	1.0	
	実施するつもりもなく、実施しなかった	428 68.8	5.8	0.7	-	0.2	92.8	0.5

(4) 副業・兼業について

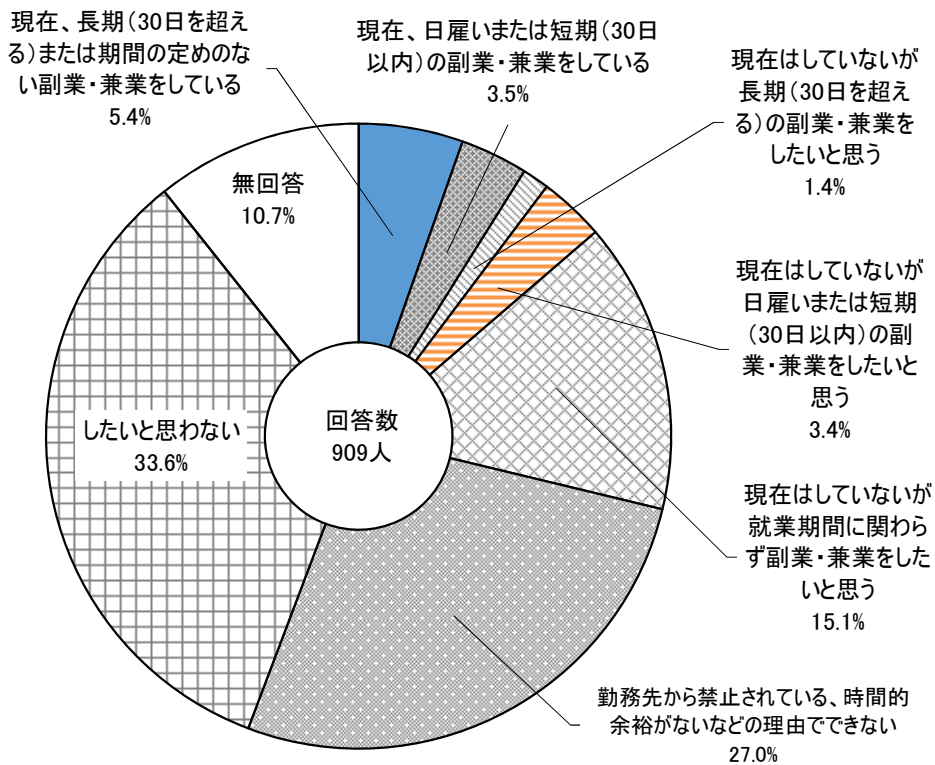
問 30 (現在お仕事をされている方のみお答えください。)
副業・兼業をしたいと思いますか。(1つだけ○印)

【総合】

「したいと思わない」が33.6%となっている。

次いで、「勤務先から禁止されている、時間的余裕がないなどの理由でできない」が27.0%、「現在はしていないが就業期間に関わらず副業・兼業をしたいと思う」が15.1%と続いている。

《総合》



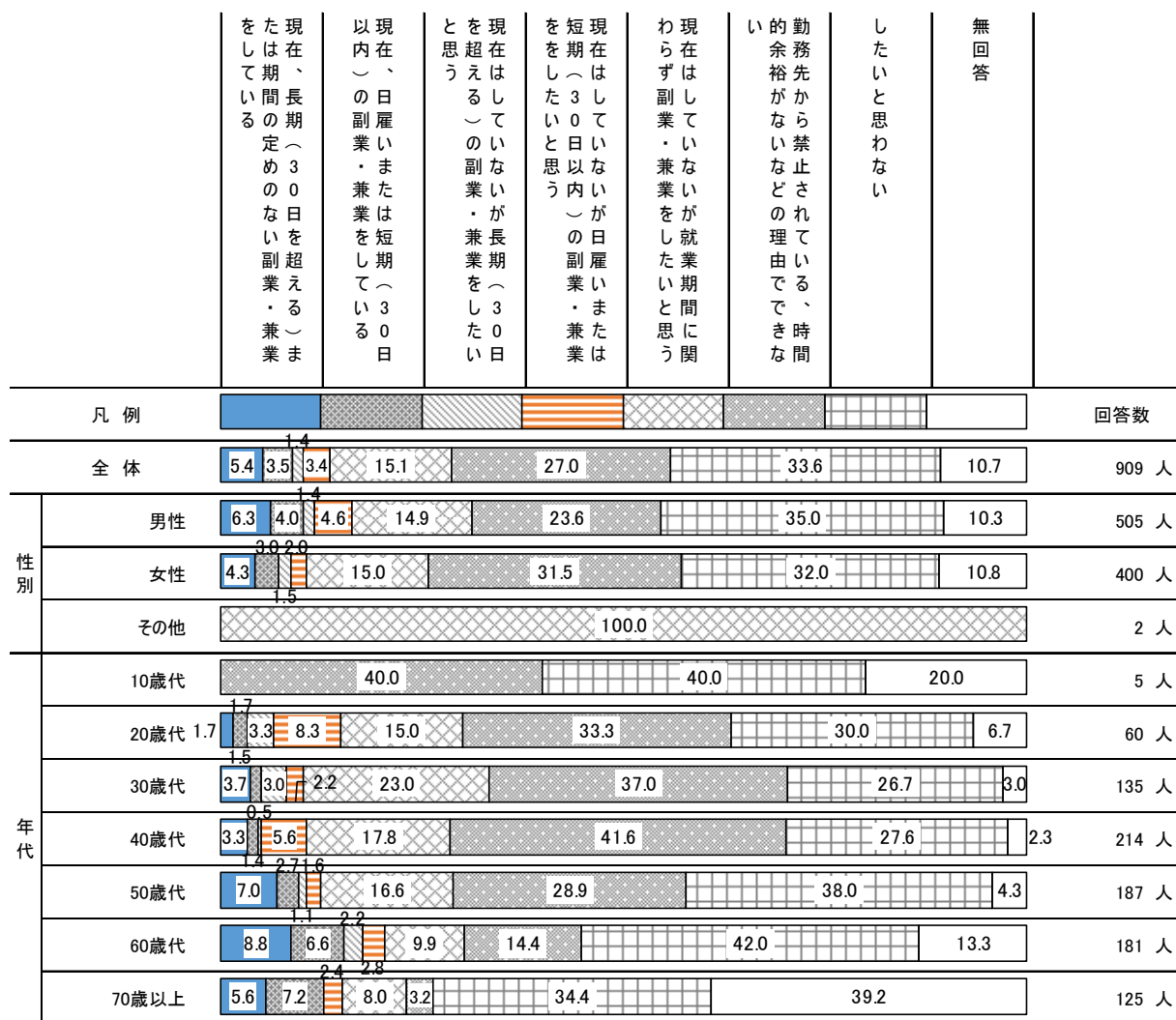
【性別】

男女ともに「したいと思わない」が最も高くなっている。

【年代別】

10歳代では同率で「したいと思わない」と「勤務先から禁止されている、時間的余裕がないなどの理由でできない」が最も高く、20歳代、30歳代、40歳代では「勤務先から禁止されている、時間的余裕がないなどの理由でできない」が、50歳代、60歳代、70歳以上では「したいと思わない」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



グラフ単位：(%)

(5) 副業・兼業をしたい理由

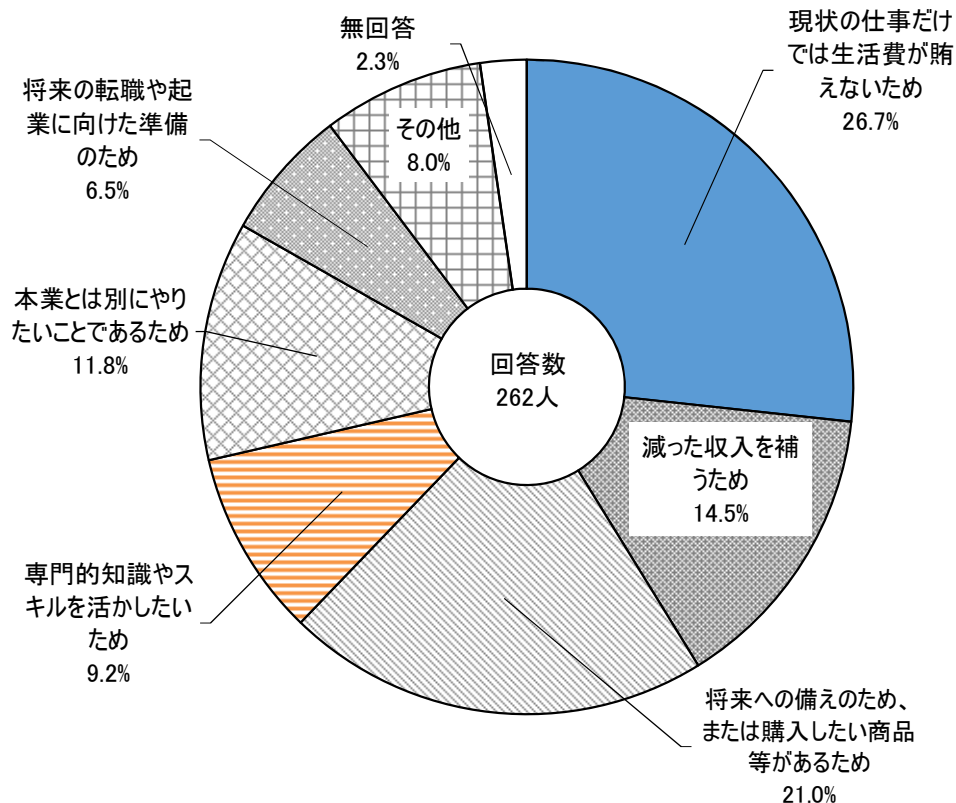
副問1(問30で「1~5」を選んだ方のみお答えください。)
副業・兼業をしている、またはしたいと思う理由は何ですか。(1つだけ○印)

【総合】

「現状の仕事だけでは生活費が賄えないため」が26.7%と1位になっている。

次いで、「将来への備えのため、または購入したい商品等があるため」が21.0%、「減った収入を補うため」が14.5%と続いている。

《総合》

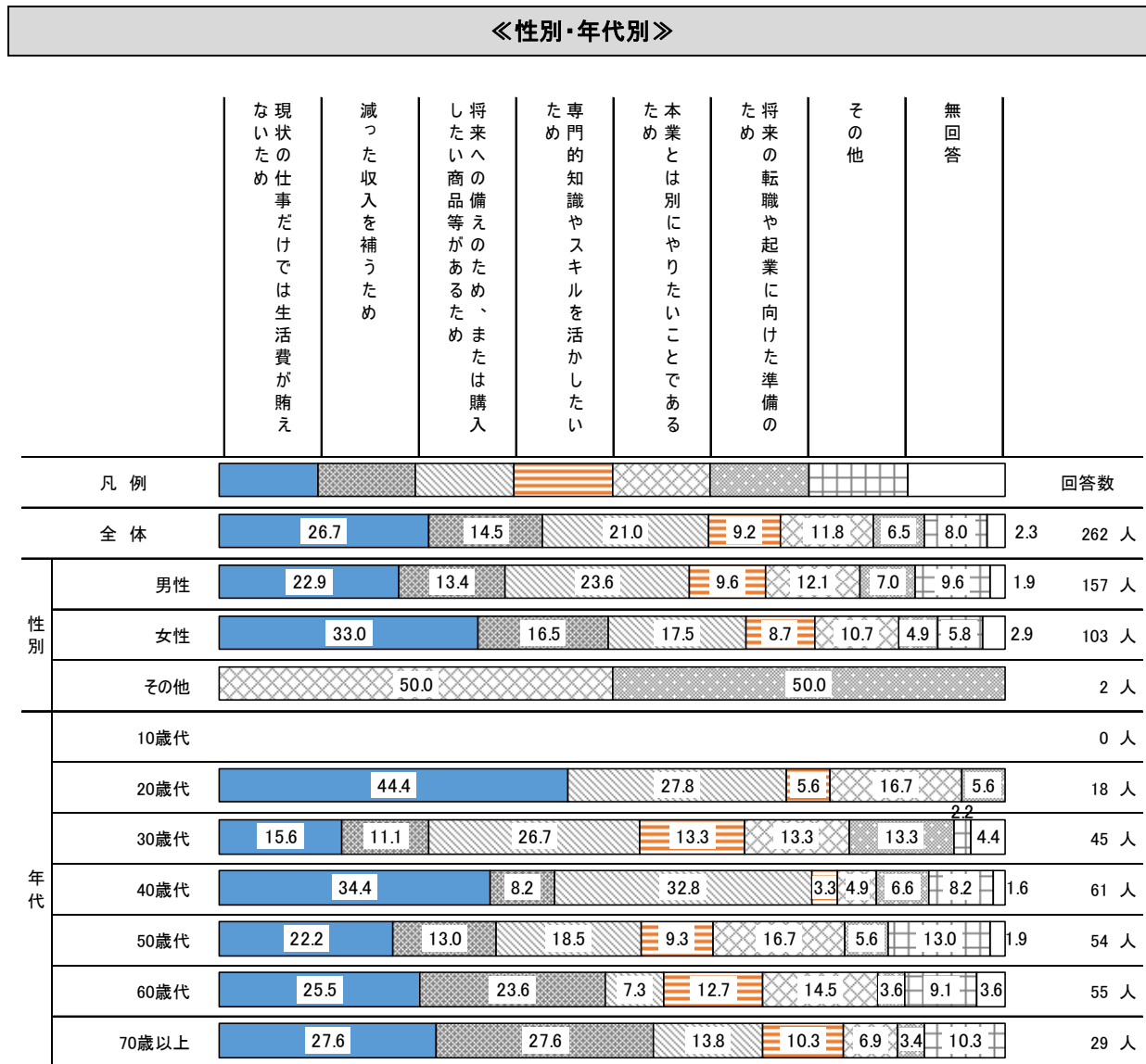


【性別】

男性では「将来への備えのため、または購入したい商品等があるため」が最も高く、女性では「現状の仕事だけでは生活費が賄えないため」が最も高くなっている。

【年代別】

30歳代では「将来への備えのため、または購入したい商品等があるため」が最も高く、20歳代、40歳代、50歳代、60歳代では「現状の仕事だけでは生活費が賄えないため」が最も高く、70歳以上はこれと同率で「減った収入を補うため」が最も高くなっている。



【問 30×問 30-副問 1 のクロス分析】

「副業・兼業をしたいと思いますか。」という質問に対し、「副業・兼業をしている、またはしたいと思う理由は何ですか。」の結果を見ると、「現在はしていないが就業期間に関わらず副業・兼業をしたいと思う」では「将来への備えのため、または購入したい商品等があるため」が最も高く、その他の副業・兼業している、またはしたいと思うでは「現状の仕事だけでは生活費が賄えないため」が最も高くなっている。

◀問 30×問 30-副問 1 のクロス分析▶

		副業をしている・したいと思う理由									
		全体	現状の仕事だけでは生活費が賄えないため	減った収入を補うため	将来への備えのため、または購入したい商品等があるため	専門的知識やスキルを活かしたいため	本業とは別にやりたいことであるため	将来の転職や起業に向けた準備のため	その他	無回答	
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)											
全体		262 100.0	70 26.7	38 14.5	55 21.0	24 9.2	31 11.8	17 6.5	21 8.0	6 2.3	
か 副 業 を し て い る か し た い	現在、長期(30日を超える)または期間の定めのない副業・兼業をしている	49	26.5	12.2	14.3	14.3	16.3	2.0	12.2	2.0	
	現在、日雇いまたは短期(30日以内)の副業・兼業をしている	32	46.9	12.5	9.4	12.5	9.4	-	6.3	3.1	
	現在はしていないが長期(30日を超える)の副業・兼業をしたいと思う	13	38.5	15.4	23.1	15.4	7.7	-	-	-	
	現在はしていないが日雇いまたは短期(30日以内)の副業・兼業をしたいと思う	31	38.7	19.4	25.8	3.2	9.7	-	3.2	-	
	現在はしていないが就業期間に関わらず副業・兼業をしたいと思う	137	18.2	14.6	24.8	7.3	11.7	11.7	8.8	2.9	
	勤務先から禁止されている、時間的余裕がないなどの理由でできない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	したいと思わない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(6)副業・兼業の職種

副問2(副問1を回答された方のみお答えください。)

副業・兼業としてどのような職種の仕事をしていますか、またはどのような職種を希望しますか。

(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「専門的・技術的職業」が28.1%と1位になっている。

次いで、「サービスの職業(理容・美容・飲食店ホール・調理・ホテル接客係など)」が19.1%、「事務的職業」が15.2%と続いている。

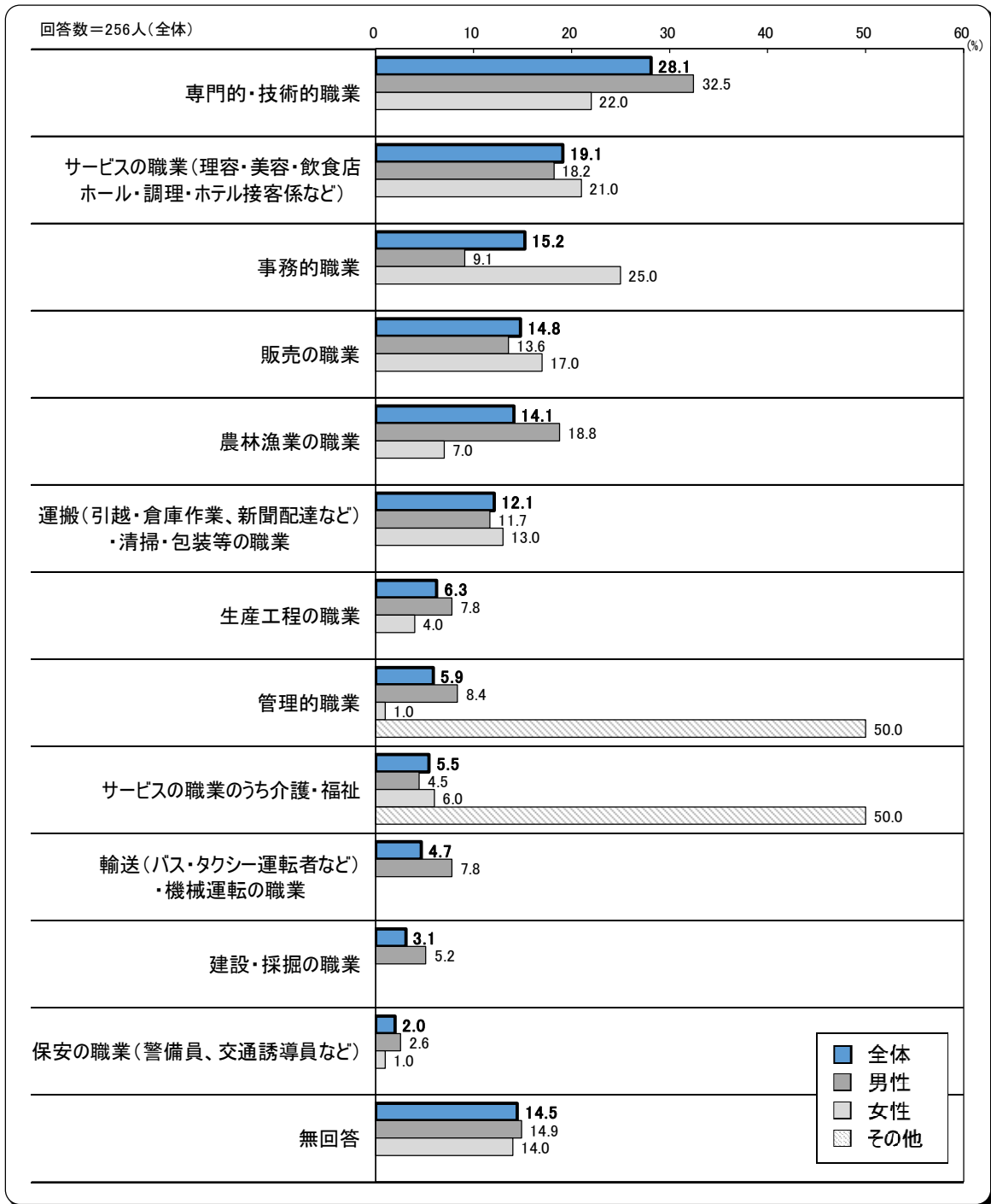
《総合》		
		回答数
全体	100.0	256 人
専門的・技術的職業	28.1	72 人
サービスの職業(理容・美容・飲食店ホール・調理・ホテル接客係など)	19.1	49 人
事務的職業	15.2	39 人
販売の職業	14.8	38 人
農林漁業の職業	14.1	36 人
運搬(引越・倉庫作業、新聞配達など)・清掃・包装等の職業	12.1	31 人
生産工程の職業	6.3	16 人
管理的職業	5.9	15 人
サービスの職業のうち介護・福祉	5.5	14 人
輸送(バス・タクシー運転者など)・機械運転の職業	4.7	12 人
建設・採掘の職業	3.1	8 人
保安の職業(警備員、交通誘導員など)	2.0	5 人
無回答	14.5	37 人

グラフ単位：(%)

【性別】

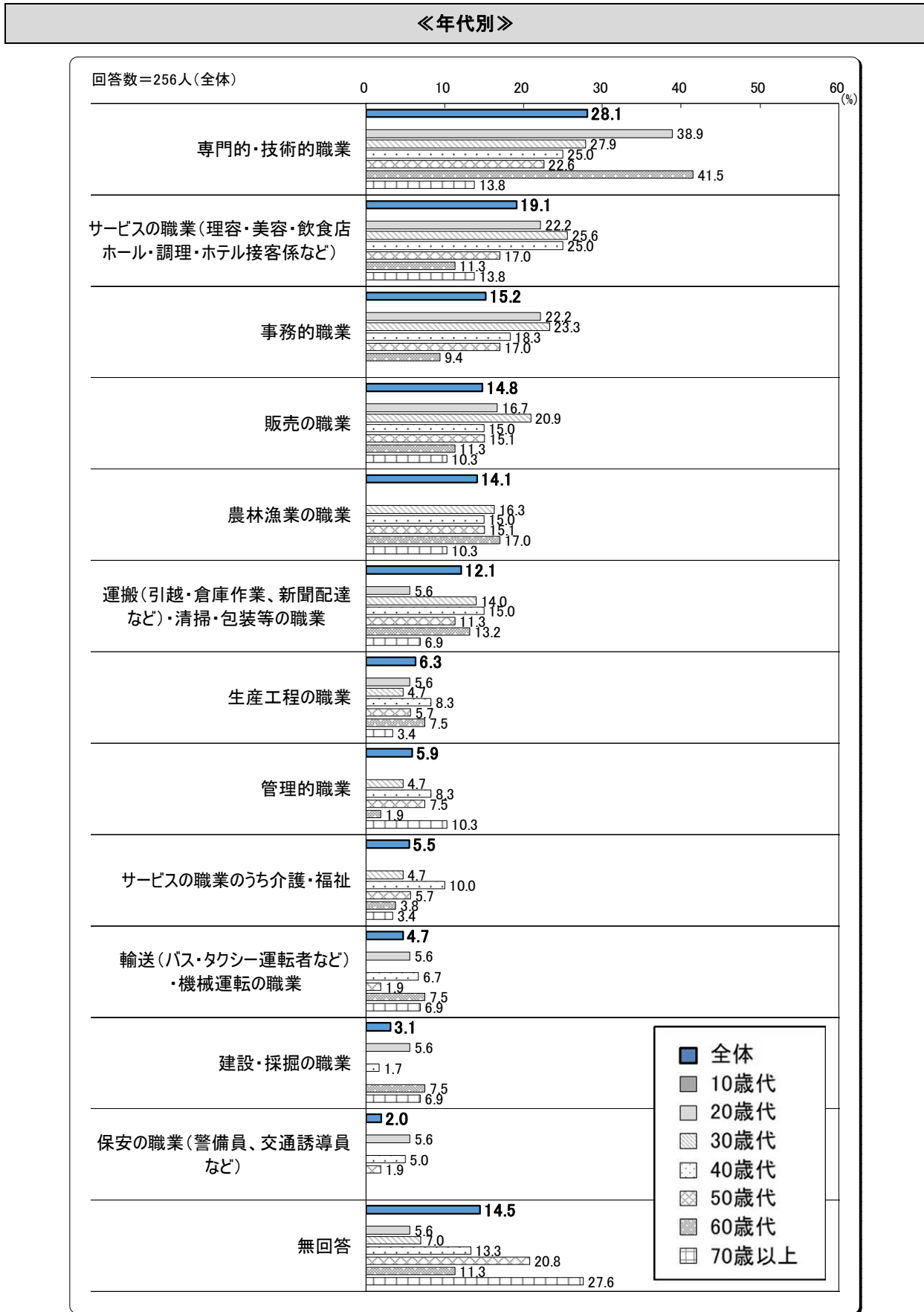
男性では「専門的・技術的職業」が最も高く、次いで、「農林漁業の職業」、「サービスの職業（理容・美容・飲食店ホール・調理・ホテル接客係など）」が、女性では「事務的職業」が最も高く、次いで、「専門的・技術的職業」、「サービスの職業（理容・美容・飲食店ホール・調理・ホテル接客係など）」と続いている。

◀性別▶



【年代別】

20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「専門的・技術的職業」が最も高く、40歳代、70歳以上ではこれと同率で「サービスの職業（理容・美容・飲食店ホール・調理・ホテル接客係など）」が最も高くなっている。



【問 30×問 30 副問-2 のクロス分析】

「副業・兼業をしたいと思いますか。」という質問に対し、「副業・兼業としてどのような職種の仕事をしていますか、またはどのような職種を希望しますか。」の結果を見ると、「現在はしていないが日雇いまたは短期（30日以内）の副業・兼業をしたいと思います」というでは、「サービスの職業（理容・美容・飲食店ホール・調理・ホテル接客係など）」が最も高く、その他の副業・兼業している、またはしたいと思うでは「専門的・技術的職業」が最も高くなっている。

◀問 30×問 30-副問 2 のクロス分析▶

	副業・兼業を希望する(している)職種														
	全体	管理的職業	専門的・技術的職業	事務的職業	販売の職業	サービス・ホテル接客係など	サービスの職業のうち介護・福祉	保安の職業（警備員、交通誘導員など）	農林漁業の職業	生産工程の職業	転送（バス・タクシー運転者など）・機械運	建設・探掘の職業	運搬（引越・倉庫作業、新聞配達など）・清掃	無回答	
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)															
全体	256 100.0	15 5.9	72 28.1	39 15.2	38 14.8	49 19.1	14 5.5	5 2.0	36 14.1	16 6.3	12 4.7	8 3.1	31 12.1	37 14.5	
か副業(して兼業をしたい)	現在、長期(30日を超える)または期間の定めのない副業・兼業をしている	48	6.3	33.3	16.7	10.4	14.6	4.2	-	20.8	-	4.2	-	-	14.6
	現在、日雇いまたは短期(30日以内)の副業・兼業をしている	31	3.2	38.7	-	6.5	25.8	-	-	16.1	-	-	6.5	9.7	9.7
	現在はしていないが長期(30日を超える)の副業・兼業をしたいと思う	13	7.7	53.8	23.1	7.7	15.4	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	-	23.1	-
	現在はしていないが日雇いまたは短期(30日以内)の副業・兼業をしたいと思う	31	-	19.4	16.1	16.1	35.5	9.7	3.2	9.7	12.9	3.2	9.7	19.4	6.5
	現在はしていないが就業期間に関わらず副業・兼業をしたいと思う	133	7.5	23.3	17.3	18.8	15.8	6.0	2.3	12.8	8.3	6.0	2.3	14.3	18.8
	勤務先から禁止されている、時間的余裕がないなどの理由でできない したいと思わない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

8. 地球温暖化対策について

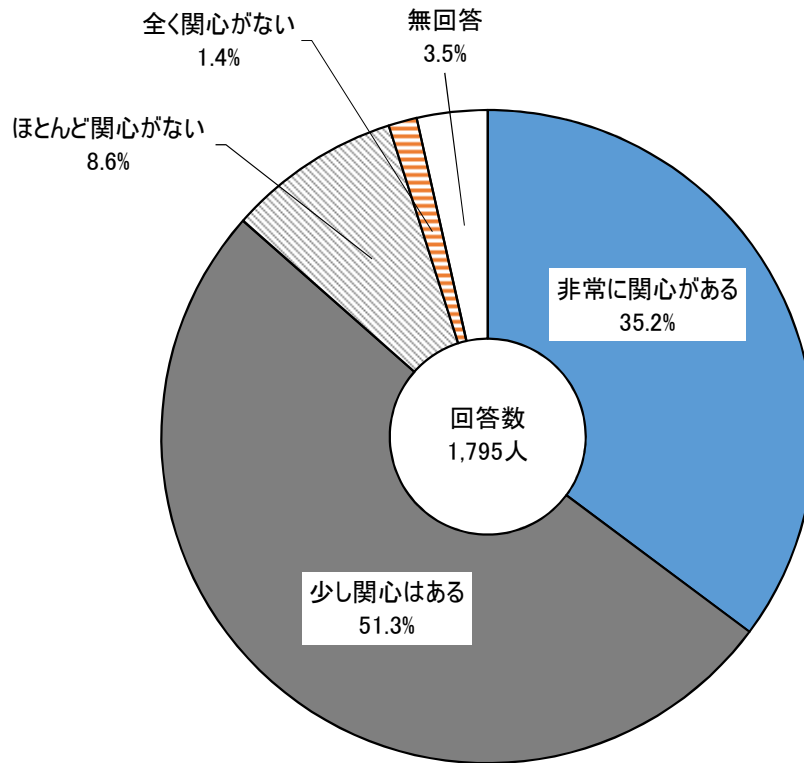
(1) 地球温暖化問題への関心

問 31 地球温暖化問題に対して、どの程度関心がありますか。(1つだけ○印)

【総合】

「少し関心はある」が51.3%と最も高く、「非常に関心がある」の35.2%と合わせて86.5%が関心を持っている。

《総合》



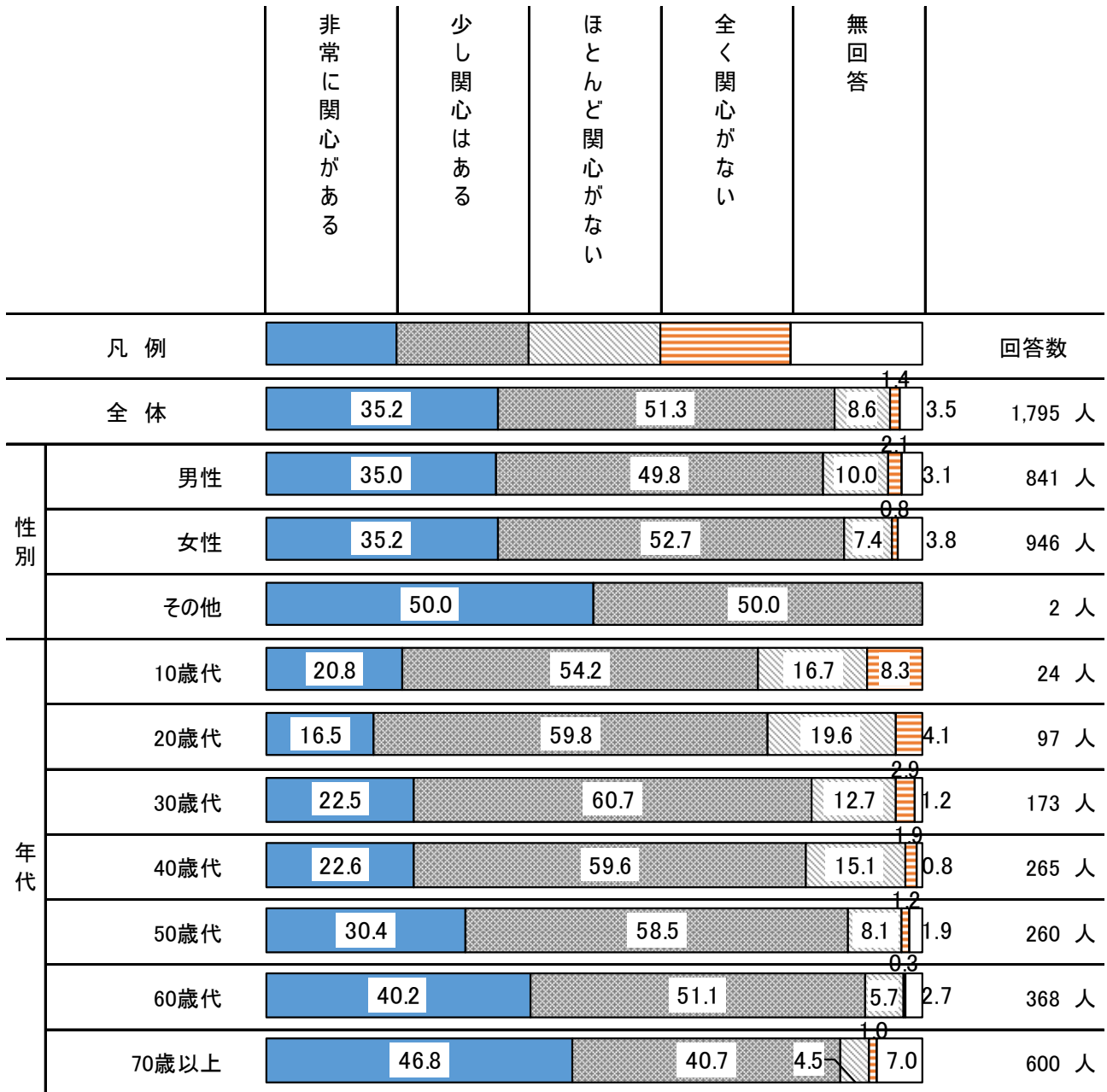
【性別】

男女ともに「総合」と同じ傾向になっている。

【年代別】

70歳以上では「非常に興味がある」が最も高く、その他の年代では「少し興味はある」が最も高くなっている。

《性別・年代別》



グラフ単位：(%)

(2) 温室効果ガスの削減

問 32 地球温暖化問題について、次のことを知っていましたか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「パリ協定では、世界の年平均気温の上昇を産業革命以前に比べ2℃以内に抑えるという長期目標を掲げているが、世界気象機関によると、令和2年度（2020年度）の世界の平均気温は、産業革命以前に比べ既に約1.2℃上昇している」が49.7%と1位になっている。

次いで、「日本は令和32年（2050年）のカーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいる」が30.4%、「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」の「1.5℃特別報告書」によると、パリ協定の努力目標の1.5℃を大きく超えないようにするには、世界全体で令和32年（2050年）頃までにカーボンニュートラルにする必要がある」が18.9%と続いている。

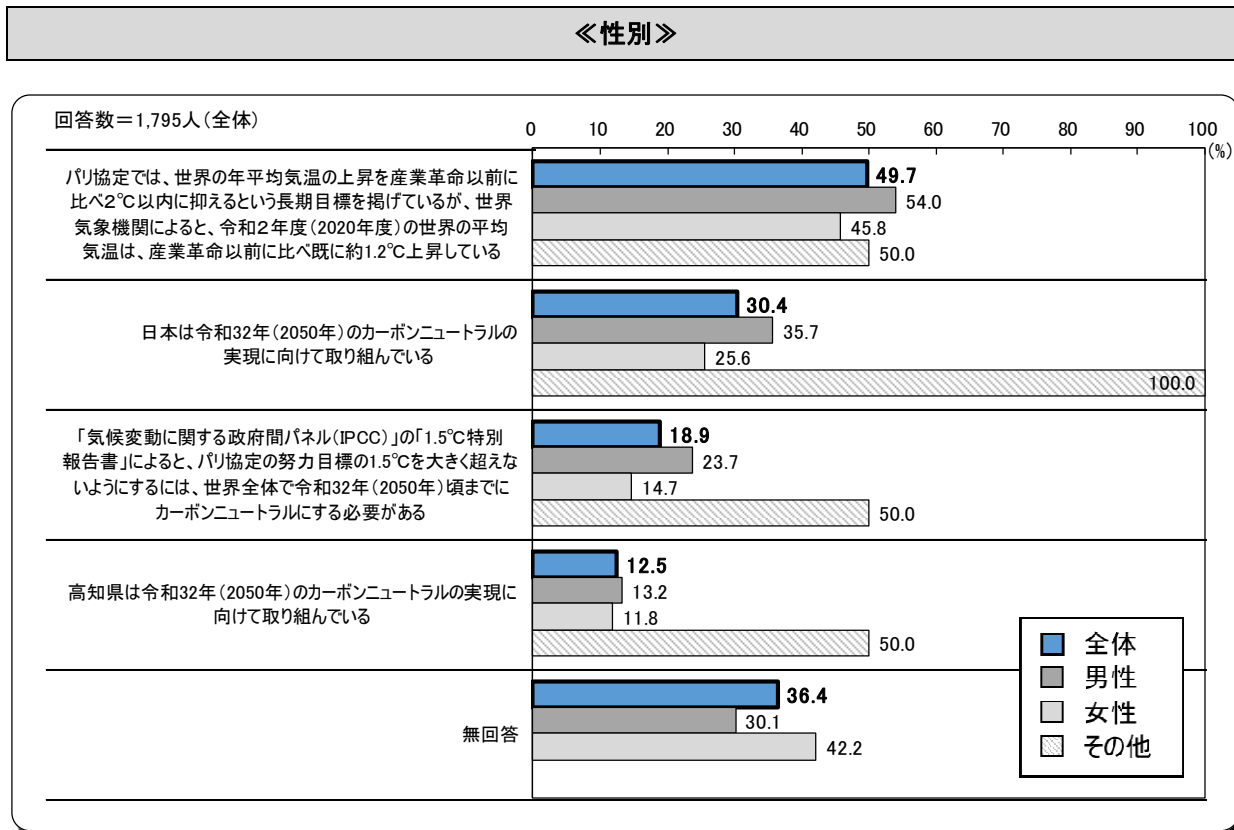
《総合》

	回答数
全 体	1,795 人
パリ協定では、世界の年平均気温の上昇を産業革命以前に比べ2℃以内に抑えるという長期目標を掲げているが、世界気象機関によると、令和2年度（2020年度）の世界の平均気温は、産業革命以前に比べ既に約1.2℃上昇している	892 人
日本は令和32年（2050年）のカーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいる	545 人
「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」の「1.5℃特別報告書」によると、パリ協定の努力目標の1.5℃を大きく超えないようにするには、世界全体で令和32年（2050年）頃までにカーボンニュートラルにする必要がある	340 人
高知県は令和32年（2050年）のカーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいる	224 人
無回答	654 人

グラフ単位：(%)

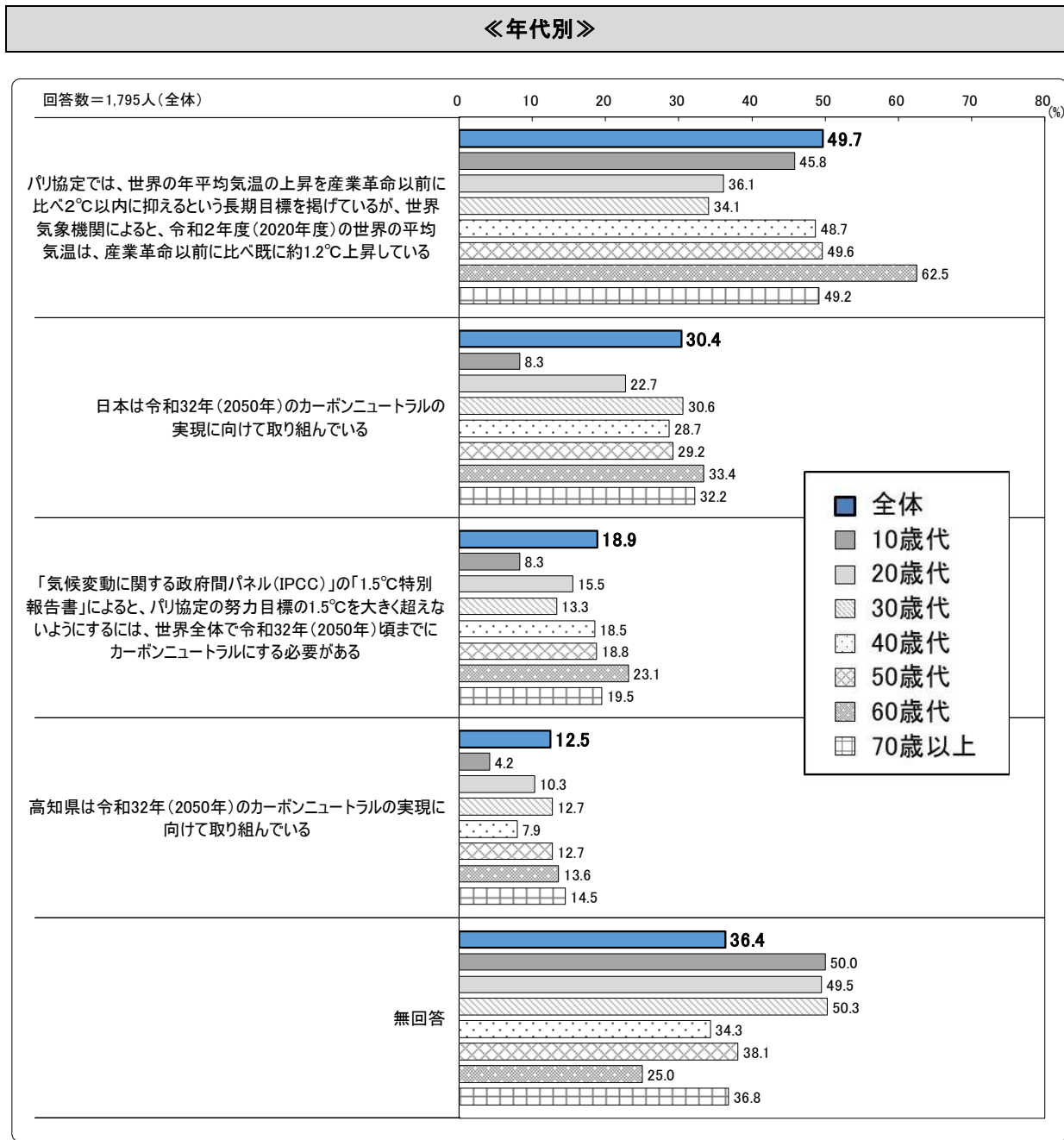
【性別】

男女ともに「パリ協定では、世界の年平均気温の上昇を産業革命以前に比べ2℃以内に抑えるという長期目標を掲げているが、世界気象機関によると、令和2年度（2020年度）の世界の平均気温は、産業革命以前に比べ既に約1.2℃上昇している」が最も高くなっている。



【年代別】

すべての年代で「パリ協定では、世界の年平均気温の上昇を産業革命以前に比べ2℃以内に抑えるという長期目標を掲げているが、世界気象機関によると、令和2年度（2020年度）の世界の平均気温は、産業革命以前に比べ既に約1.2℃上昇している」が最も高くなっている。



(3) 日常で行っている地球温暖化対策

問 33 地球温暖化対策について、次の中であなたが既に取り組んでいるものはありますか。
(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「エコバッグでの買い物を心がける」が76.3%と1位になっている。

次いで、「無駄な電気をきったり、こまめに消灯するようにする」が70.8%、「照明をLEDに替える」が54.7%と続いている。

《総合》

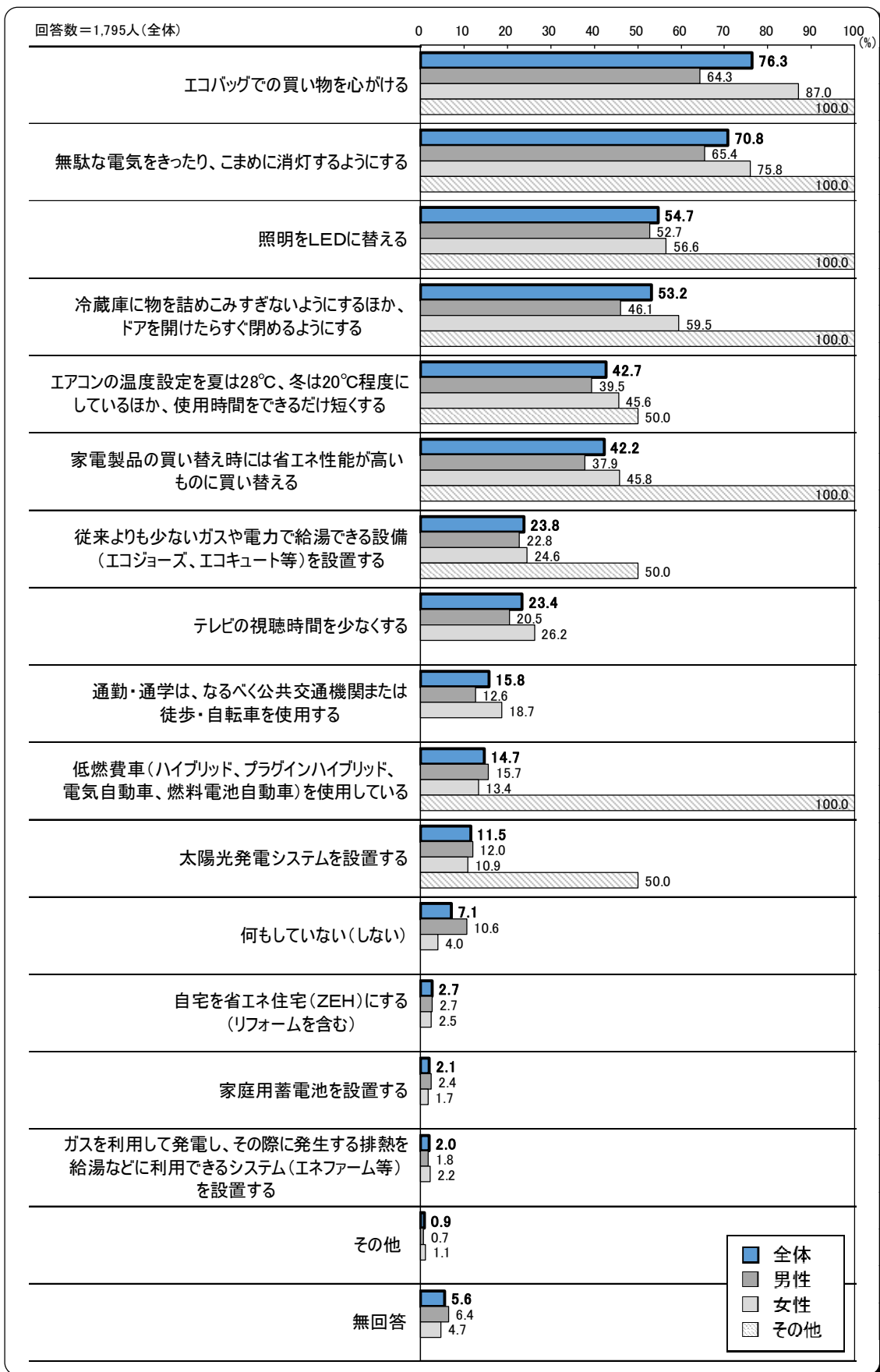
	回答数
全体	1,795 人
エコバッグでの買い物を心がける	1,369 人
無駄な電気をきったり、こまめに消灯するようにする	1,271 人
照明をLEDに替える	982 人
冷蔵庫に物を詰めこみすぎないようにするほか、ドアを開けたらすぐ閉めるようにする	955 人
エアコンの温度設定を夏は28℃、冬は20℃程度にしているほか、使用時間をできるだけ短くする	766 人
家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いもの買い替える	757 人
従来よりも少ないガスや電力で給湯できる設備(エコジョーズ、エコキュート等)を設置する	428 人
テレビの視聴時間を少なくする	420 人
通勤・通学は、なるべく公共交通機関または徒歩・自転車を使用する	283 人
低燃費車(ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車)を使用している	263 人
太陽光発電システムを設置する	207 人
何もしていない(しない)	128 人
自宅を省エネ住宅(ZEH)にする(リフォームを含む)	48 人
家庭用蓄電池を設置する	38 人
ガスを利用して発電し、その際に発生する排熱を給湯などに利用できるシステム(エネファーム等)を設置する	36 人
その他	16 人
無回答	100 人

グラフ単位：(%)

【性別】

男性では「無駄な電気をきったり、こまめに消灯するようにする」が、女性では「エコバッグでの買い物を心がける」が最も高くなっている。

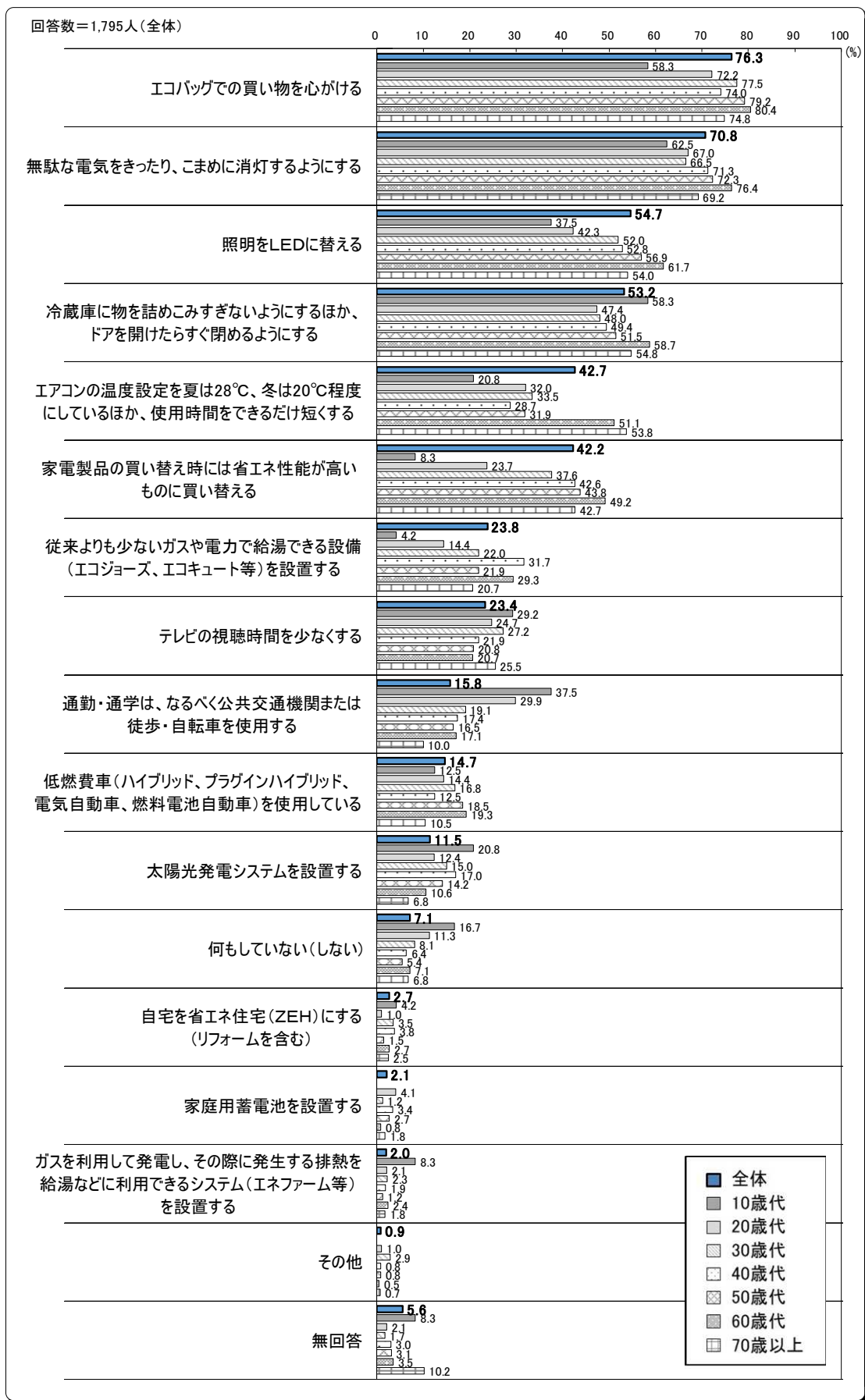
◀性別▶



【年代別】

10歳代では「無駄な電気をきったり、こまめに消灯するようにする」が最も高く、その他の年代では「エコバッグでの買い物を心がける」が最も高くなっている。

《年代別》



(4) 今後、取り組みたい地球温暖化対策

問 34 地球温暖化対策について、次の中で、あなたがまだ取り組んでいないが、今後取り組んでいきたいと思うものはありますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いものに買い替える」が 28.2%と 1 位になっている。

次いで、「照明をLEDに替える」が 24.3%、「低燃費車（ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車）を使用している」が 23.3%と続いている。

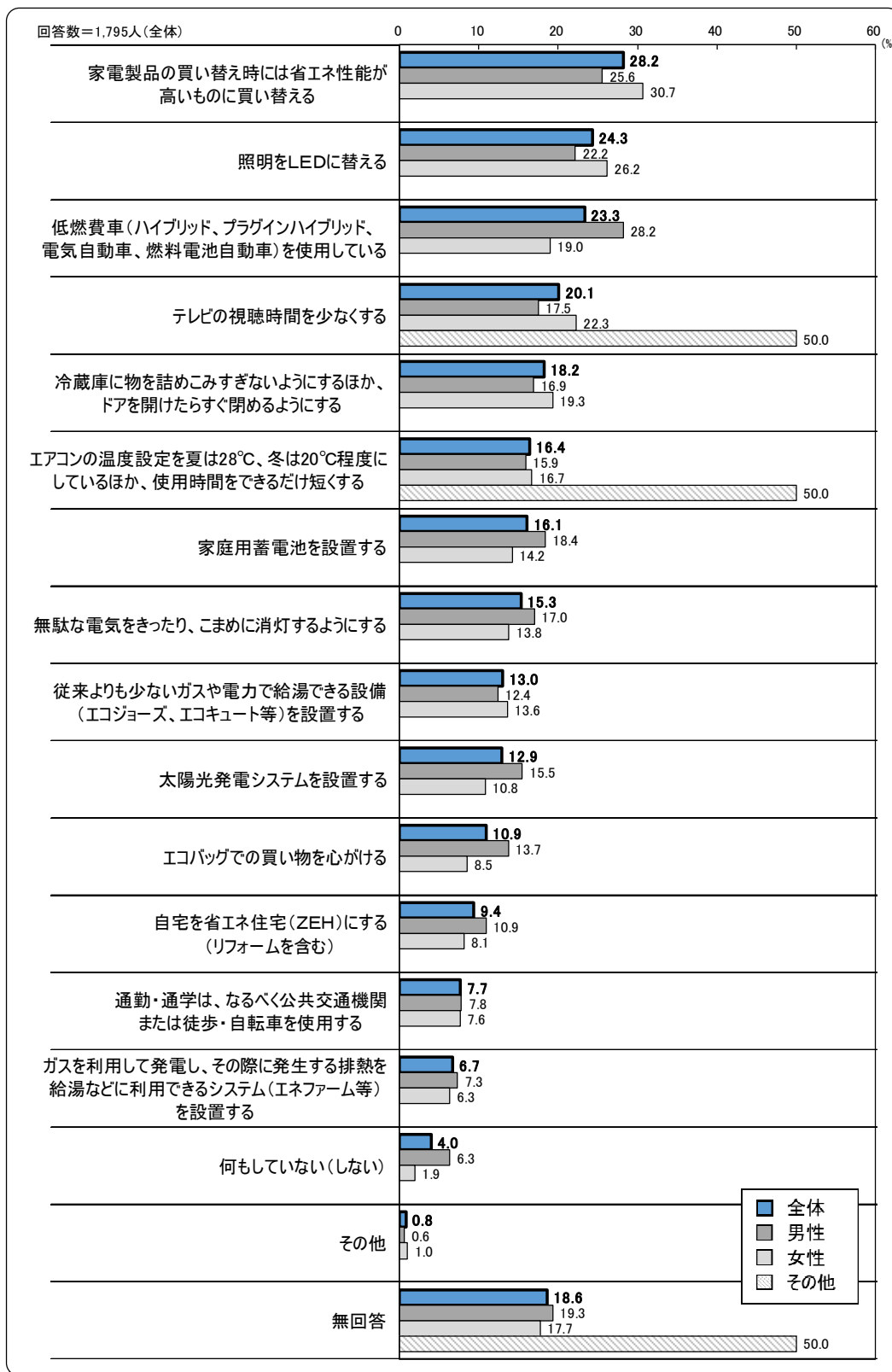
《総合》		回答数
全体	100.0	1,795 人
家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いものに買い替える	28.2	506 人
照明をLEDに替える	24.3	436 人
低燃費車（ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車）を使用している	23.3	418 人
テレビの視聴時間を少なくする	20.1	360 人
冷蔵庫に物を詰めこみすぎないようにするほか、ドアを開けたらすぐ閉めるようにする	18.2	326 人
エアコンの温度設定を夏は28℃、冬は20℃程度にしているほか、使用時間をできるだけ短くする	16.4	294 人
家庭用蓄電池を設置する	16.1	289 人
無駄な電気をきったり、こまめに消灯するようにする	15.3	275 人
従来よりも少ないガスや電力で給湯できる設備（エコジョーズ、エコキュート等）を設置する	13.0	234 人
太陽光発電システムを設置する	12.9	232 人
エコバッグでの買い物心がける	10.9	195 人
自宅を省エネ住宅（ZEH）にする（リフォームを含む）	9.4	169 人
通勤・通学は、なるべく公共交通機関または徒歩・自転車を使用する	7.7	139 人
ガスを利用して発電し、その際に発生する排熱を給湯などに利用できるシステム（エネファーム等）を設置する	6.7	121 人
何もしていない（しない）	4.0	72 人
その他	0.8	14 人
無回答	18.6	333 人

グラフ単位：(%)

【性別】

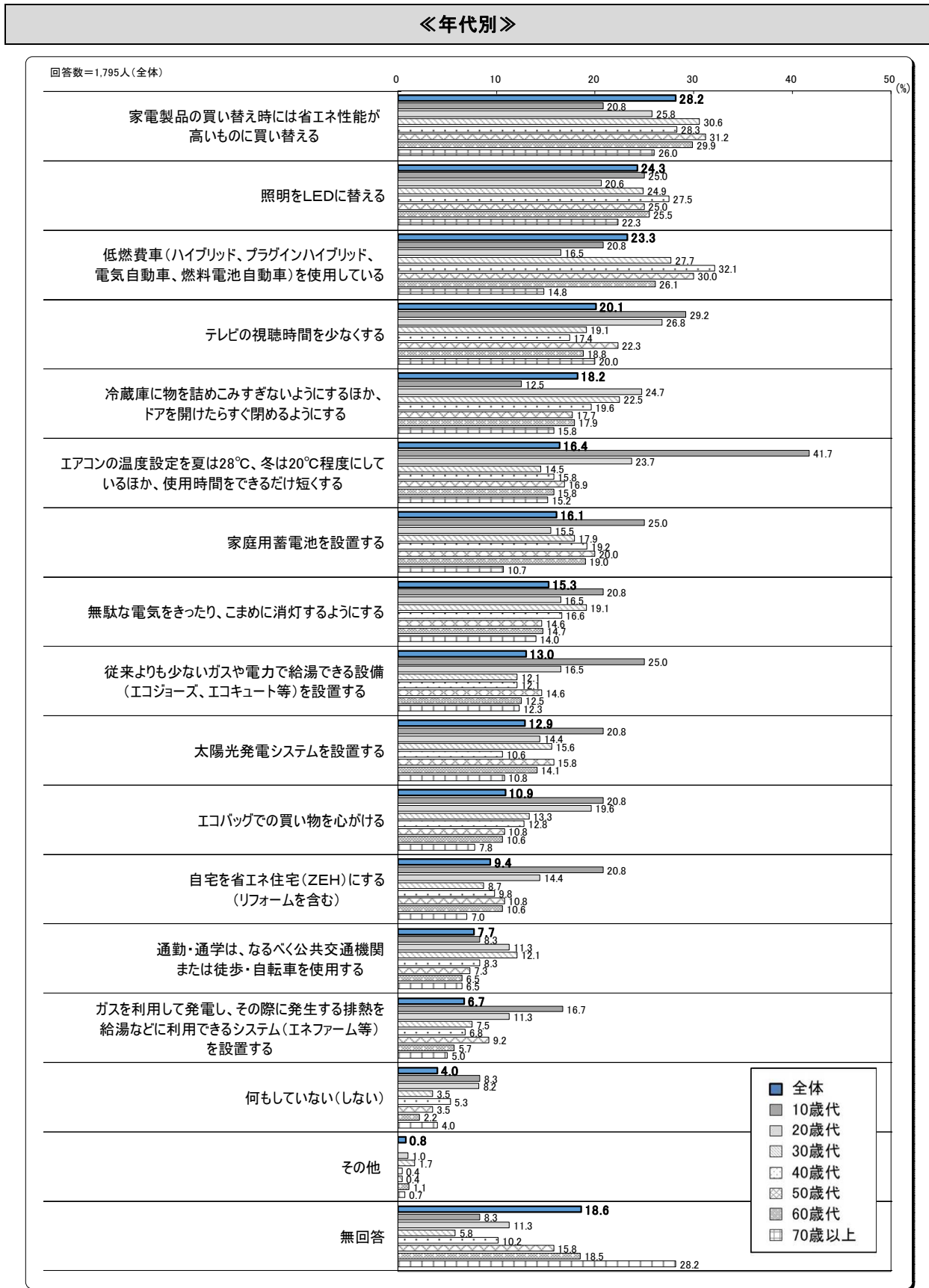
男性では「低燃費車（ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車）を使用している」が最も高く、次いで、「家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いもの買い替える」が、女性では「家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いもの買い替える」が最も高く、次いで、「照明をLEDに替える」が高くなっている。

《性別》



【年代別】

10歳代では「エアコンの温度設定を夏は28℃、冬は20℃程度にしているほか、使用時間をできるだけ短くする」が最も高く、20歳代では「テレビの視聴時間を少なくする」が、40歳代では「低燃費車（ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車）を使用している」が、30歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「家電製品の買い替え時には省エネ性能が高いものに買い替える」が最も高くなっている。



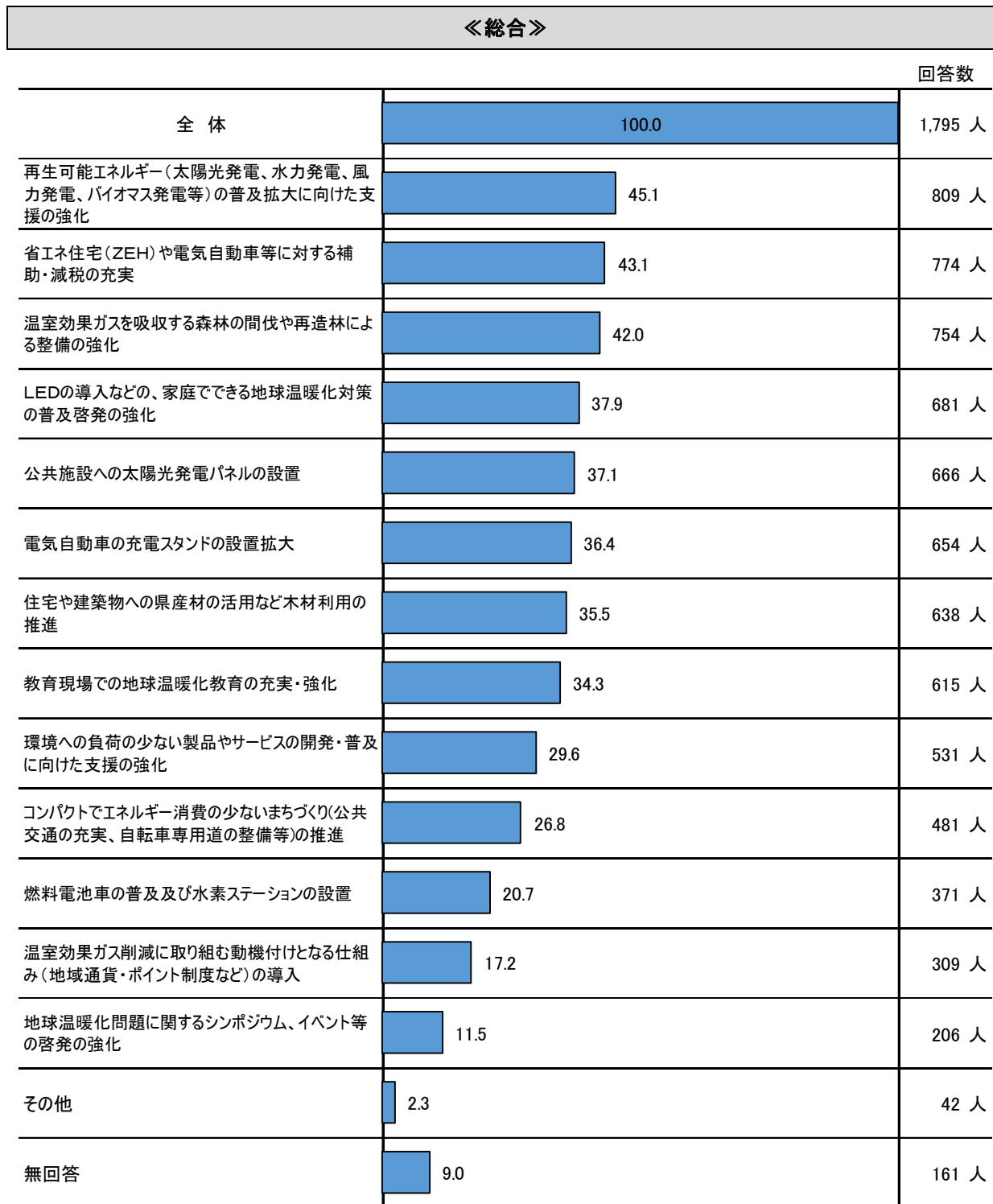
(5) 温室効果ガスの排出削減のために県が力を入れるべき施策

問 35 今後、温室効果ガスの排出を削減していくために、県が力を入れるべき施策は何だと考えますか。
(当てはまるものすべてに○印)

【総合】

「再生可能エネルギー（太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電等）の普及拡大に向けた支援の強化」が 45.1%と1位になっている。

次いで、「省エネ住宅（ZEH）や電気自動車等に対する補助・減税の充実」が 43.1%、「温室効果ガスを吸収する森林の間伐や再生林による整備の強化」が 42.0%と続いている。

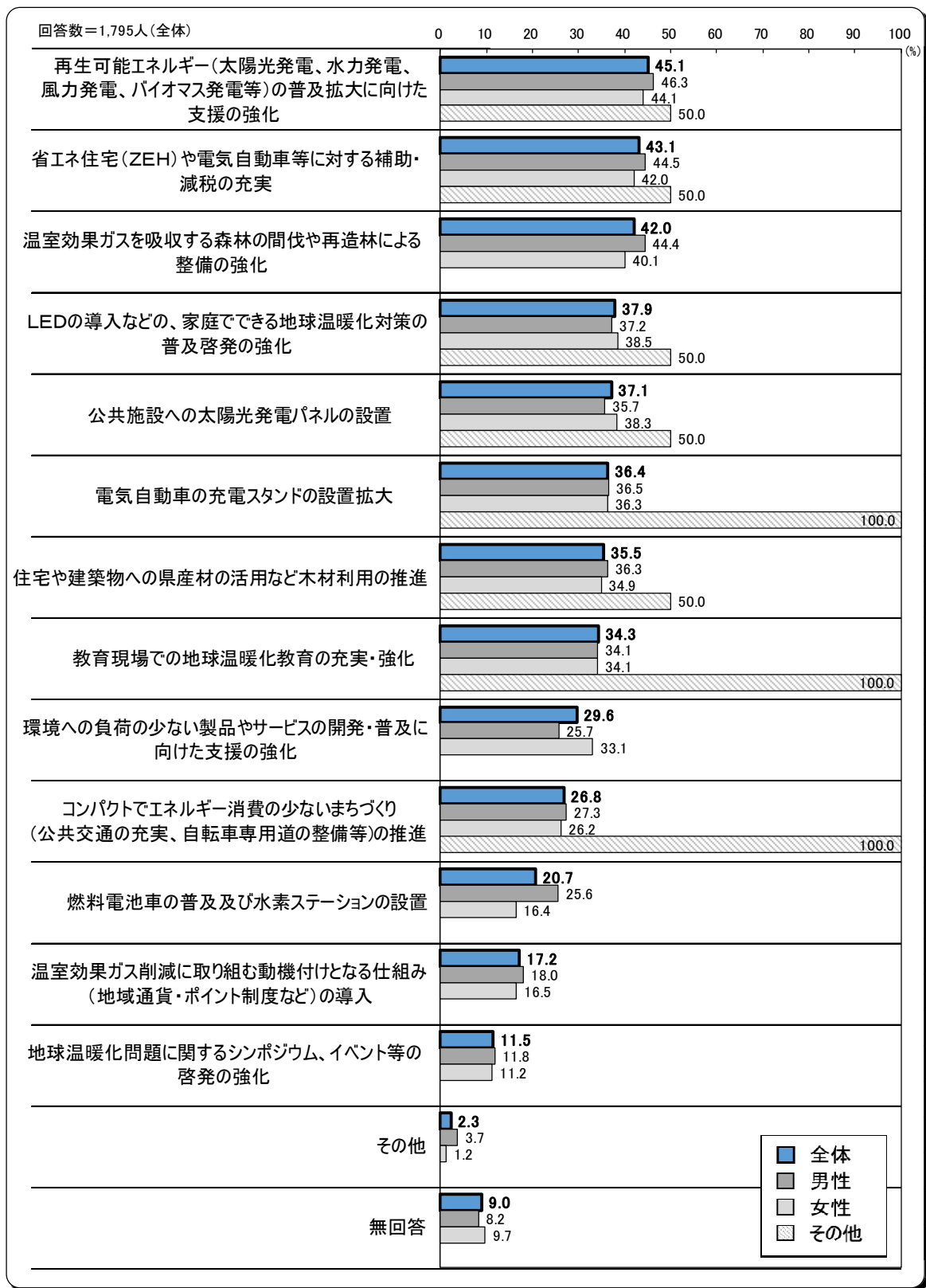


グラフ単位：（%）

【性別】

男女ともに「再生可能エネルギー（太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電等）の普及拡大に向けた支援の強化」が最も高くなっている。

◀性別▶



【年代別】

10歳代、30歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「再生可能エネルギー（太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電等）の普及拡大に向けた支援の強化」が最も高く、10歳代では、これと同率で「省エネ住宅（ZEH）や電気自動車等に対する補助・減税の充実」が、20歳代、40歳代では「省エネ住宅（ZEH）や電気自動車等に対する補助・減税の充実」が最も高くなっている。

《年代別》

